

第五百九十七號 規則ニ背反スル埋葬及ヒ改葬

エキスユマシヨシ

第六節 有害ナル飲食品ノ販賣

第二百八十六條

第五百九十八號 飲食品ニ有害物ヲ混和シ又ハ飲食品ヲ偽造スルハ道德ニ背キ且社會ニ危害ヲ及ブ事

第五百九十九號 二箇ノ場合ニ付テハ違警罪ニ讓リテ茲ニ論セサル事

第二百八十六條第二

第六百號 人ニ災害ヲ加フル場合ニ於テハ特別刑ノ必要ナル事

第二百八十七條

第六百一號 藥品販賣ニ關スル規則ノ不遵奉

第二百八十八條

第六百二號 人ニ災害ヲ加フル事

第七節 醫術ヲ不法ニ施行スル事

第二百八十九條

第六百三號 慣習ノ必要ナル事

第二百九十條

第六百四號 人ニ災害ヲ加フル事

第一節 阿片烟ノ販賣及ヒ使用

第二百六十八條

〔第五百七十八號〕 阿片烟ヲ吸食シテ健康上ニ不幸ナル結果ヲ生シタルコトハ實際支那ニ於テ其慘毒ナルヲ經驗スル所ニシテ斯ク悲哀ス可キノ結果ハ日本ニ於テ古來阿片烟ノ販賣ト使用トヲ禁止セシ所以ナリ○阿片烟ハ酒醉ニ比スレハ極メテ危險ナル酩酊ヲ發スルヤ衆人ノ知ル所ニシテ之ヲ用ユル久シカラスシテ漸次大ニ勢力ヲ衰弱セシメ全體ノ神經ヲ攪亂シ知覺ヲ失フニ至ラシム而シテ一度此災害アル酩酊ヲ買フ者ハ乍チ抑制ス可カラサルノ慾情ヲ醸スカ故ニ習慣ノ久シキ遂ニ死ニ至ラシムルナリ
斯ク阿片烟ノ危險アルコト因リ我政府ハ之レヲ吸食シ又ハ之レヲ輸入シ以テ我國ヲシテ此有刑無刑ノ大災ニ遭遇セシムル者ニ對シ今日ニ至ルマテ斷行シテ最大ノ嚴刑即チ死刑ヲ用ヒタリキ而シテ這般ニ至リテハ支那ノ苛法ニ倣ハサリシナリ
蓋シ死刑ヲ主張スル徒爲メニ犯者ヲシテ恐怖セシムルノ實効アルコトヲ引援スルコト於テハ多少便益ヲ有スル場合アルニモセヨ又公義正道ニ於テ死刑ノ條理ニ適スルコトヲ主張スル

阿片烟ノ販賣及ヒ使用

一二ノ手段アルニモセヨ畢竟是レ全國民ノ氣力ヲ奪去シテ一旦外國ノ吞噬ニ遇ハシムルカ如キ大害ヨリ之レヲ救フ時ニ關セリ羅甸語ノ「サリユース、ボビユリ、シユブレマ、レキス」即チ國ノ大平ヲ保祐スルコトハ無上ノ法律ナリトハ是ノ謂ナリ

然レトモ本案ノ起草者ハ今日ニ至ルマテ異論ナク人ノ認可シタル右ノ説ヨリ卓越シ此害ハ將來法律ノ最終ノ嚴刑ヲ用キスシテ之レヲ避クルヲ得可シト思考セリ即チ行政及ヒ司法警察ノ大注意ヲ用ヒテ阿片烟ノ輸入及ヒ吸食ヲ防止シ之レヲ檢束スルヲ得可ク敢テ犯者ニ對シテ死刑ヲ科スルノ必要ナカルヘシト認メタリ

〔附言〕 舊草案ハ死刑ニ代ユルニ無期ノ徒刑ヲ以テセリ○頒布法典ニハ唯有期ノ徒刑ニ處シ且本節掲ケル所ノ諸般ノ刑ヲ各々一等宛減輕セリ(第二百三十七條乃至第二百四十條)○吾人亦此寛宥處分ニ倣ヒタリ

〔第五百七十九號〕 新法ハ止テ徒刑ヲ以テ死刑ニ換フルニ非ス尙ホ阿片烟ヨリ生スル社會ノ害惡及ヒ道德上ノ害惡ノ度ヲ區別シテ其刑ヲ定ムルノ注意ヲ爲シタリ○故ニ阿片烟ヲ販賣ニ供シタル者ノ犯罪ハ唯之レヲ吸食シタル者ノ犯罪ニ比スレハ大ニ之レヲ加重セリ何トナレハ其販賣ニ供シタル者ハ人ノ情慾ヲ媒助シテ不正ノ利益ヲ圖ルヲ以テ多人數ノ販賣ヲ來シ得ルト雖モ唯吸食シタル者ニ至リテハ自己ノ情慾ニ制セラレタルノミニシテ

其害全ク一人一己ニ止マリ即チ自己ノ一身ニ限レルヲ以テナリ

本條論スル所ノ犯罪ニ三様アリ、第一 日本國ニ於テ眠ヲ誘生スル(「パウオー」(草ノ名)ヲ以テ阿片烟ヲ製造スル事、第二 外國ニ於テ製造シタル阿片烟ヲ日本國ニ輸入スル事、第三 出所ノ分明ナラサル阿片烟ヲ販賣ニ供スル事是レナリ

本條ノ文面ニ從フテ解釋ヲ下スモ本法ハ「吸食ス可キ」阿片ニ適用スルノミニシテ藥劑ニ用ユル阿片ニ適用スルニ非サルコト勿論ナリ最モ吸食ス可キ阿片ト藥劑ニ用ユル阿片トハ自カラ其製造ノ點ニ於テ異ナルモノナレハ敢テ之レカ混同ヲ恐ル、ニ及ハサルナリ阿片烟ヲ輸入シ若クハ販賣スル犯罪ノ原由ハ自己ノ貪慾心ニ出ツヘシト雖モ舊草案ニハ主刑カ無期ナリシヲ以テ罰金ヲ科スレハ犯者自カラヨリモ寧ロ其親族ニ及フノ恐レアルニ因リ乃チ該草案ニハ罰金ヲ科セサリシナリ○然リト雖モ今ヤ其刑ハ有期ノ刑ニ過キス且ツ受刑者ノ財産ノ一部ハ既ニ此不正ノ利益ヲ圖リテ得タルモノタルコトアル可ケレハ假令ヒ巨額ノ罰金タリトモ亦之レヲ犯者ニ科スルニ付キ吾人敢テ躊躇セサルナリ

第二百六十九條

〔第五百八十號〕 本條ニ論スル所ノ犯罪ハ前條ニ比スレハ稍ヤ輕キモノトス何トナレハ此犯罪ハ前條ノ如ク甚タシク阿片烟ヲ吸食スル弊習ノ傳播ヲ助ケサルヲ以テナリ其故ハ阿

阿片烟ノ販賣及ヒ使用

片烟ヲ吸食ス可キ器械ハ阿片烟ニ於ケルカ如ク吸食ニ缺ク可カラサルモノニ非ラス凡ソ阿片烟ヲ吸食スルノ習慣遂ニ需要ト成ルニ至リタル者ハ其器械ナシト雖モ必ラス之レヲ禁セサルヘク或ル手段ヲ以テ之レニ換フ可ケレハナリ

第二百七十條

〔第五百八十一號〕 税關ノ官吏ニ對シ前條ノ刑ヲ最高點(マクシモーム)ニ加重スルモノハ獨リ普通法ヲ適用シタルノミニ非ス(第百十條參觀)尙ホ其他嚴刑ニ處ス可キ理由アリテ然ルモノナリ勿論此理由ノ證明ヲ要スルモノトス○抑モ日本ニ阿片烟及ヒ阿片烟ヲ吸食ス可キ器械ノ輸入ヲ容易ナラシメタル税關ノ官吏等ニ至リテハ之レヲ以テ從犯トシテ見做スヲ得タル可シ(第百二十二條第二項參觀)然レトモ本法ハ之レヲ以テ共犯トシテ見做シ正ニ第百二十二條第二項ノ解釋ヲ爲セシニ過キス其故何トナルコ凡ソ助犯ノ所爲ニシテ從犯ノ場合タルニ過キサルニ付テハ必ラスヤ必要ナラサル(ノソ、チセツセル)助力ヲ爲サスノハアルヘカラス然ルニ茲ニ所謂ル税關ノ官吏ノ懈怠ハ法律ニ於テ犯罪ヲ遂クルニ缺ク可カラサルモノ即チ必要ナル方法トシテ見做シタルニ外ナケレハナリ

第二百七十一條

〔第五百八十二號〕 本條ニハ阿片烟ヲ吸食スル爲メニ場所ヲ貸與シタル者ヲ以テ阿片烟ヲ

吸食ス可キ器械ヲ賣リタル者ト同一ノ刑ニ處シタリ但シ本條ニハ一身ノ利益ヲ圖リタルノ條件ヲ明記セリ是レ前述ノ箇條ニハ明記セサル所ナリ何トナレハ此類ノ器械ヲ製造シ又ハ販賣スル場合ニ於テハ利益ヲ圖ルハ當然ノ目的ニシテ其犯罪ト相分離ス可カラサルモノダレハナリ之レニ反シ阿片烟吸食ノ場所ヲ貸與スル場合ニ於テハ利益ヲ圖ルニ非スシテ唯刑罰ヲ免カル可カラサル柔弱心ヲ有シタルニ過キサルヲナキヲ得ス果シテ然ラハ此柔弱心ハ次條ニ記載シタルカ如キ阿片烟ヲ吸食シタル者ノ附從罪トシテ論スルノ外之レヲ罪スルヲ得サル可シ
蓋シ一身上ノ利益ヲ圖リタルノ情狀アルモ之レカ爲メ其行爲ノ性質ヲ變スルニ非ス其行爲ハ必ラス附從罪ナリト論駁スル者アル可シト雖モ本法ノ精神ニ於テハ利益ヲ圖ル爲メニ場所ヲ貸與スル者ハ犯罪ノ教唆者ト見做スナリ而シテ該犯者ハ阿片烟ヲ吸食スルノ罪(即チ次條ニ循ヒ輕罪ニ止マルノ罪)ヲ教唆スルノミナラス尙ホ其習慣ヲ教唆シ缺ク可カラサル(チセシテイ)ノ需要ニ至ラシムルカ故ニ乃チ阿片烟ヲ吸食ス可キ器械ヲ販賣スル者ト同一ニ罰スヘキナリ

〔附言〕 概シテ此類ノ犯罪ニ必要ナル場所ヲ使用スルヲハ大ニ探究セシ後ニアリトス

蓋シ此ノ如クスレハ罪ヲ免カル、ニ利アレハナリ即チ右ノ場所ヲ設置スルニハ充分公

路ヨリ隔リタル所ヲ撰ミ以テ阿片烟ノ公路ニ達スルヲ防キ且此所ニ於テ阿片烟ヲ吸食シ後テ外人ニ接スルモ其間酩酊ノ充分醒ムル程ノ時間ノ休息ヲ爲シ得ルニ因リ吸食者ヲシテ其酩酊ヲ隱藏スルヲ得セシメタルモノナリ

第二百七十二條

〔第五百八十三號〕 阿片烟ノ事項ニ關シ罰スヘキ主タル犯罪ハ阿片烟ヲ吸食スル罪ナルカ如シト雖モ其罪ハ本法之レヲ輕罪トシテ罰スルノミ然レトモ前數條ノ更ラニ重キ刑ニ付テ述ヘタル道理アルヲ以テ又別ニ本條ノ理由ヲ喋々辯明スルヲ要セサルナリ○抑モ危險ナル好事ノ情ニ制セラレ又ハ習慣ノ始ヲ抑制シ得スシテ阿片烟ヲ吸食スル者ハ他人ヲ引誘シテ此罪ヲ犯サシムルニ非ス寧ロ他人ハ其惡例ヲ見テ之レヲ避ケルナル可シ且ツ此者ハ其犯罪ヨリ生スヘキ自身ノ害ニ於テ既ニ責罰ヲ受ケタルヘシ然ルニ前數條ニ於テ罰スル所ノ者ニ至リテハ其犯罪ニ因テ利益ヲ得タル而已

故ニ最モ辨明ヲ要ス可キモノハ本條ノ刑ニ處センカ爲メニ要スル所ノ現行犯(フラグラソブリー)ナル條件是レナリ○此條件ヲ設ケタルノ旨趣ハ犯後ニ至リ人ノ阿片烟ヲ吸食シタルヲ證スルノ難キニ在リトス何トナレハ此犯罪ハ阿片烟ヨリ生スル所ノ酩酊已ニ消散シタル時ハ確實ナル形跡ヲ存セサルヲ以テナリ故ニ若シ犯後ニ至リテ起訴ヲ許セシム

ハ爲メニ誣告ニ屬スル告發ヲ生シ然ラサルモ無理大膽ナル告發ヲ生スルヲアル可シ之レニ反シテ其現行犯ハ阿片烟ヨリ生スル特別ノ香氣ニ因テ發覺スルモノニシテ且ツ阿片烟ヨリ生シタル酩酊ハ酒其他「アルコール」ヲ含有スル飲料ヨリ生シタル酩酊ト區別スルヲ容易ナルモノナリ

〔附言〕 頒布法典(第二百四十一條)ニハ現行犯タルヲ要セス○加之同法典ニハ罰金ヲ科セスシテ唯二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シタリ○吾人ハ刑罰ヲ加フルニ方リテハ頒布法典ノ寬宥處分ニ倣ヒタリト雖モ本條ノ場合ニ於テハ之レニ倣ハサルナリ何トナレハ一般ノ規則ニ據ルニ輕懲役ニ引續キタル輕罪ノ第一ノ刑ハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ナレハナリ

本條ノ最下點ハ頒布法典第二百四十一條ノ最下點ヨリモ敢テ重キニ非ス而シテ之レヲ一ケ年ノ禁錮及ヒ拾圓ノ罰金ニ減少スルモ敢テ認許シ難キニハ非サルナリ
本條第二項ハ假令ヒ阿片烟ヲ人ニ給與シテ其吸食ヲ教唆シタリト雖モ己レノ貪慾心ヲ以テ罪ヲ犯シタルニ非サレハ此者ニ對シテハ第一項ト同一ノ刑ニ處シタリ○若シ此者阿片烟ヲ販賣セシトキハ第二百六十八條ノ刑ニ處セラル可シ○若シ又阿片烟ヲ吸食ス可キ助言ヲ爲シタルニ過キサル時ハ毫モ刑罰ヲ受クルヲ無シ○然レトモ阿片烟ヲ贈與スルニ於

テハ危険ナル直接ノ教唆ニ屬スルモノヨシテ其慣習ヲ生スルノ危険ナルカ爲メ本法之レヲ罰セサルヲ得サルナリ

〔附言〕 頒布法典(第二百四十條)ニハ人エ阿片烟ノ吸食ヲ教唆シタル者ヲ以テ輕懲役ニ處シ而シテ阿片烟ヲ吸食ス可シト單純ノ助言ヲ爲シタルヤ將タ阿片烟ヲ贈與シテ其吸食ヲ教唆シタルヤヲ區別セス

第二百七十三條

〔第五百八十四號〕 本條ノ罪ハ尙ホ一層輕クシテ其刑モ亦輕キナリ蓋シ阿片烟及ヒ其吸食ノ器械ノ所有ヲ罪スルカ故ニ此物件ノ製造輸入若クハ販賣ノ罪ヲ犯サントスル者ハ買者自カラ之レヲ所有スルニ因テ罰セラル、ヲ恐レ之レヲ購買セサル可キノ一事ヲ以テ或ハ其方向ヲ轉スルコアル可シ
此等諸條ニ於テ阿片烟及ヒ器械ノ沒收ヲ明記セサリシト雖モ此附加則ハ第五十五條ニ掲ケタル一般ノ原則ニ因テ准據セルコト確實ナリトス

第二百七十四條

〔第五百八十五號〕 本條ハ支那及ヒ阿片烟ヲ吸食スルノ弊習盛ニ行ハル、其近傍諸邦ト本邦トノ交通多次ナルヲ以テ之レヲ設クルニ至リタルナリ

本邦外國人ニ關シ完全ノ裁判權ヲ復シタルヘキ時ト雖モ内國港内ニ碇泊スル船體ノ外國人上陸シテ阿片烟ヲ吸食シタル者ニ對シ全ク本法ノ嚴刑ヲ用ユルハ其當ヲ得ルモノニ非サル可シ蓋シ此弊習ノ本邦ニ傳播スルヲ防止セシムニハ本條ニ示シタル處置ヲ以テ足ル可シ

〔附言〕 頒布法典ハ草案ノ此箇條ヲ掲載セス○法典ハ或ハ茲ニ論スル事實ヲ無罪ト爲シタルカ或ハ第二百七十二條ヲ適用シタルモノナラン

頒布法典ニハ右何レノ論決ヲ爲シタルニ拘ハラヌ悉ク吾人ノ遺憾トスル所ナリ
本條ニ至リテハ沒收ノコトヲ揭示セリ其故何トナルニ外國人ニ對シテハ何等ノ主刑ヲ以テモ之レヲ揭示セサルニ因リ其主刑ニ於ケルカ如ク亦沒收ヲ免カレシメタルヤト信スル者或ハ之レアルヲ保セサレハナリ

第二節 公ケノ淨水ヲ汚穢スル事

第二百七十五條

〔第五百八十六號〕 凡ソ都會及ヒ村落ニ於テ飲料ノ淨水夥多ニシテ住民ニ近接スルハ公ケノ健康ノ爲メニ甚タ緊要ナルモノトス是レ即チ地方廳ニ於テ屢々巨大ノ金額ヲ抛テ許多ノ井ヲ穿テ若クハ水灌ヲ設ケテ源又ハ河川ノ淨水ヲ遠隔ヨリ引致スル所以ナリ○故ニ此

公ケノ淨水ヲ汚穢スル事

淨水ヲ汚穢スル者ハ本節ノ數條ニ定メタル區別ニ從ヒテ多少損害ヲ住民ニ加フルモノナリ

抑モ茲ニ掲載セル刑ハ「害スルノ意ヲ以テ」(メシヤンマン)人ニ損害ヲ加ヘタル者ニ適用スルニ過キサルヲ注視ス可シ故ニ若シ果シテ拙作若クハ過誤ニ因テ損害ヲ加ヘシキハ其賠償ハ往々純然タル民事上ノ賠償ニ過キサルカ又ハ其刑ハ普通法ニ循ヒ稍ヤ輕キモノトス

本節掲クル所ノ箇條ハ「飲ム可キ」(ポターブル)水即チ人ノ飲料ニ定マリタル淨水ヲ汚穢スルノミニ適用ス是ヲ以テ法文ハ馬若クハ其他ノ獸類ニ飲マシメ又ハ之レヲ洗フヲニ用サタル「アブローウオワール」(牛馬等ニ水ヲ飲マシメ)ノ水ヲ汚穢スルニ適用セス

本節論スル所ノ淨水ハ「公ケノ使用」ニ供スルモノタルヲ要ス何トナレハ私有ノ淨水ヲ汚穢シタルモ民事上ノ賠償ニ止マル可ケレハナリ但シ人ノ健康上ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ此限ニ在ラス

〔附言〕 頒布法典(第二百四十三條)ニハ此「公ケ」云々ノ條件ヲ掲載セス

〔第五百八十七號〕 本條ハ人ノ健康ニ危險ナルニ非スシテ唯飲水ヲ用ユルヲ能ハサルニ至ラシムルヲ想像セリ而シテ假令ヒ健康ニ害ナキモ飲水ヲ用ユルヲ能ハサルシムルハ

住民ハ勞力ヲ費シ又ハ費用ヲ出タシテ更ラニ隔遠ノ地ヨリ飲水ヲ仰カサルヲ得サルカ故ニ其必要ノ飲水ヲ失フニ於テハ著シキ妨害ヲ受ク可シ故ニ犯者ニ對シテ至當ノ刑ヲ科シ以テ此危險ヲ保護スルハ當然ナリトス

本條ニ於テハ飲水ヲ用ユルヲ能ハサラシメタル時間ノ長短ヲ區別セス○之レヲ至當ニ査定スルハ裁判所ノ任ニアリトス

又裁判所ニ於テハ淨水ヲ汚穢シタル種類ヲ考定シ若シ容易ニ取除クヲ得ヘキ藁又ハ速カニ沈没ス可キ土塊ヲ水中ニ投シタルハ其他ノ物件ヲ投シテ水ヲ汚穢シタルヨリモ之レヲ罰スルヲ輕カル可シ

又時トシテハ其罪ノ起訴ヲ爲サ、ルヲ以テ却テ責シトス可キヲアリ亦假令ヒ起訴ヲ爲シテ其罪ヲ問フ可キ場合ニ於テモ法律ハ裁判所ニ附スルニ減輕ニ關スル廣大ノ權限ヲ以テスルカ故ニ唯本條述フル所ノ兩刑ノ一ヲ言渡スヲ許セリ是レ法律カ違警罪ノ事項及ヒ道德上重劇ナラサル或ル輕罪(例ヘハ過誤ニ因スル犯罪)ニ付テモ殆ント常ニ用ユル所ノ方法ナリ(第三百五十三條乃至第三百五十五條參觀)

第二百七十六條

〔第五百八十八號〕 本條ハ必ラス人ヲ害スルノ意ヲ以テ水質ヲ變シタル場合ヲ想像セリ故

公ケノ淨水ヲ汚穢スル事

ニ工業ニ従事スル者勞力又ハ費用ヲ厭フテ染料ノ殘粕、洗汁若クハ其他ノ物質ヲ貯水場ニ流入セシメタルカ如キハ是レ亦健康ニ害アリト雖モ本條ヲ適用セス此等ノ者ハ其職業上ノ規則若クハ一般又ハ一地方ノ警察規則ヲ犯セシナレハ該規則ヲ以テ罰ス可キナリ

第二百七十七條

〔第五百八十九號〕 本條ニ豫定シタル場合ハ最モ希ナルモノニシテ殊トニ末項ノ場合ハ極メテ希ナル可シ故意ヲ以テスル毒殺ハ一人ニ關スル怨恨ヨリ出テ又ハ一人ヲ殺スノミノ利益ヨリ出テタルモノト見做ス可キヲ以テナリ

本條第一項ハ二箇ノ場合ヲ假想セリ即チ飲水ヲ腐敗セシメテ人ヲ疾病ニ罹ラシメ及ヒ死ニ至ラシムルコト是レナリ此二箇ノ場合ニ於テハ共ニ人ヲ害スルノ意ニ出テタルカ故ニ疾病ハ必ラス故意ヲ以テ之レヲ生セシメタルモノナリト雖モ其人ヲ殺シタルニ付テ毒殺ノ刑ニ處センコトハ必ラス死ニ至ラシムルノ意ニ出テタル證アルヲ要ス其證アラサルノ場合ニ於テハ第三百三十四條ヲ適用ス可シ

第三節 健康ニ關スル規則ニ背ク罪

第二百七十八條

〔第五百九十號〕 歐洲數國ニ於テハ自國ト直接ノ關係アル(條更航海上コト)外國ニ流行病

〔エビデミ(甲附言)アリト認メタルキハ其國ヨリ到着スル人及ヒ物ニ對シテ「カラソテ」ス(四十日間避病 碇泊ノ義) (乙附言)ト稱シタル一時ノ上陸禁止ヲ行ヒ以テ該病ノ傳派ヲ防カンカ爲メ其禁止内ニ於テ船中ノ人及ヒ物ヲ検査シ且ツ之レニ豫防ノ處置ヲ施スノ慣習アリ○而シテ此「カラソテ」スノ規則ヲ犯シタルキハ其刑甚ク嚴ナリキ○佛國ニ於テハ其千八百二十二年三月三日ノ法律(今猶ホ存)ニ據レハ之レヲ死刑ニ處スルコトヲ得可シ然レトモ該刑ニ處スルコトナカル可ク且最モ重劇ナル犯罪ニ付テモ猶ホ死刑ヲ適用セサル方法ヲ發見ス可キヲ確實ナリ何トナレハ該刑ハ全ク近時ノ思想ト合ハサルモノニシテ亦刑法ノ大原則ト調和セサル如ケレハナリ

〔甲附言〕 「エビデミ」(流行病)ハ希臘ノ「エビ」ニ上ト云フ義及ヒ「デモス」(人民ト云フ義)ナル兩語ヨリ來ルモノニシテ乃チ「エビデミ」ナル病ハ人民上ニ傳染スル疾病ヲ云フナリ

〔乙附言〕 「カラソテ」スナル名稱ハ中古傳染病東方ノ邦國ヨリ來リシ頃諸般ノ船舶ハ上陸前即チ船中ノ人及ヒ積荷ノ陸地ト自由ノ交通ヲ始メサル前ニ於テ四十日間港内ニ碇泊スルヲ要セシヨリ用井來リシモノナリ

英國ノ如キハ「カラソテ」スノ規則ヲ設ケス蓋シ之レヲ設クルモ到底傳染病ノ傳派ヲ防

クノ効無シト主張セリ而シテ既ニ其無効ニ歸スル以上ハ一時タリトモ陸地ト交通ヲ禁スルキハ大ニ商業ノ妨害トスル可シトノヲ因レリ

日本ニ於テ諸外國概テ設ケタル所ノ規則ヲ採用シタルハ至當ト謂ツ可シ唯其刑甚タ輕ロシ(甲附言)最モ傳染病豫防ニ關シテ緊要トスル所ハ刑ノ嚴ナルヨリモ尙ホ交通ヲ防止セシカ爲メ官廳ノ注意ヲ嚴ナラシムルニ在リ蓋シ官廳ニ於テハ公力ヲ以テ其交通ヲ防クヲ得レハナリ(乙附言)

(甲附言) 傳染病豫防規則ニ關スル諸條例ハ千八百七十八年我國ニテ劇烈ナル虎列刺病流行セル前ニ司法省ノ編纂委員之レヲ起草シ次テ翌年ニ之レヲ再閱セリ是レヲ以テ頒布法典ニハ或ハ罰金ノ高チ増加シタルモノナラン乎

(乙附言) 治外法權ノ原則ハ外國船舶ニ「カランテース」ノ規則ヲ適用スルニ付キ我國ヲシテ甚タ困難ナル地位ニ置クモノナリ

「カランテース」ノ規則ヲ犯シタル罪ノ刑ヲ實行センニハ本條ノ明文ヲ一讀シテ充分ニ明ナルカ如ク二箇ノ條件ヲ要スルナリ、其一 上陸ノ前ニ禁止ノ規則ヲ出シタルヲ要スル事、其二 故意ヲ以テ其規則ヲ犯シタルヲ要スル事はレナリ

若シ管轄應ヨリ禁止ノ規則ヲ出サ、リシキハ之レヲ犯スモ罰ス可キニ非ス是レ醫事法律

ニ禁セサリシ時ト一般ナリ(第二條參觀)若シ又充分ニ禁止ノ規則ヲ公布セスシテ船舶ノ士官及ヒ乗組人之レヲ知ラサリシ時ハ之レヲ犯スモ故意ニ出ルコト非サルカ故ニ罰ス可キヲナカル可シ若シ又乗組人等難船等ニ因テ己レノ意料外ニ陸地ニ達シタル時ハ之レヲ罰ス可キニ非サルヲ猶ホ明瞭ナリトス

第二百七十九條

(第五百九十一號) 本條ハ第一百十條ト第三百三條トヲ集合シテ設ケタル原則ヲ一箇特別ノ場合ニ適用シタルモノナリ○蓋シ船長又ハ官吏ノ尋常ノ懈怠ニシテ其主犯ニ在テハ故ラニ犯シタルヲ要スル所ノ犯罪ト同等ニ罰スルノミナラス尙ホ重ク之レヲ罰スルヲ見テ驚愕スル者アル可シト雖モ本法ハ常ニ犯者ノ身分ニ依テ犯罪構造ノ元素ヲ變スルヲ得ルノミナラス茲ニ故意ヲ要スルノ規則ニ反スル規則ヲ設ケタルハ甚ダ條理ニ適スルモノニシテ其理由ヲ辨明スルヲ容易ナリトス何トナレハ本條ニ論スル諸人ノ懈怠ハ往々人ヲシテ上陸禁止ノヲ知ラシメス遂ニ此罪ヲ犯スノ原因トナル可ケレハナリ然ラハ則チ社會ノ公益ヲ害スルノ甚シキハ固ヨリ明カニシテ又假令ヒ故意ニ出ルニ非スト雖モ官吏ハ豫防ス可キ職分ヲ有シテ之レヲ怠ルノ危險アルヲ以テ乃チ道德上ノ罪モ益々其重キヲ加フルモノナリ

第二百八十條

〔第五百九十二號〕 本條ニ於ケル犯罪ヨリ生スル社會ノ損害ハ大ナラストス何トナレハ既ニ内國ニ於テ傳染病ノ流行スルヲ以テナリ故ニ其刑ハ第二百七十八條ノ半ハ減シタリ
 本條ハ傳染病ノ已ニ内國一島中ニ蔓延シタルト數島ニ蔓延シタルトヲ區別セサルヲ注視ス可シ蓋シ此島ヨリ彼ノ島ヘ傳染スルハ大氣ノ流通ニ因レルヲアルカ故ニ前述ノ場合ニ於ケル如キ充分ノ道理ヲ以テ豫防規則ニ背キタルノ罪ニ歸スルヲ得サレハナリ

第二百八十一條

〔第五百九十三號〕 獸類傳染病(エビヅーチ)トハ或種ノ獸類中ニ蔓延スルモノニシテ(甲附言)特ニ此病ニ感スルモノハ本條ノ明文ニ示シタル三種ノ獸類即チ「シユバリーヌ」(馬種牛種及ヒ羊種)ナリトス○又豚類ハ頗ル許多ノ病ニ感スルモノナルヲ以テ右ノ獸類中ニ加フルヲ得可シト雖モ豚ノ如キハ外出スルヲ甚タ稀ナルヲ以テ之レニ接シテ病ヲ傳染スルノ恐れ少ナカル可シ○最モ傳染病豫防ニ關スル地方警察ノ規則ヲ公布シ而シテ之レニ背ク者アレハ由シヤ本條ヲ適用スルヲ能ハサル場合ナルモ凡テ警察規則ニ背キタルニ關スル一般ノ刑罰ヲ適用スルハ妨ケナシ(第四百八十條參觀)(乙附言)

〔甲附言〕「エビヅーチ」ハギリシヤノ「エビ」及ヒ「ゾ」ヨリ由來ス「エビ」ハ「ゾ」トナリ「ゾ」ハ「ゾ」トナリ

スハ獸ノ義ナリ

〔乙附言〕 頒布法典(第二百四十九條)ノ編纂ハ本條ノ編纂方法ト全ク異レリ即チ頒布法典ノ正條ハ警察處分ヲ要スル病ニ感シタル諸般ノ「獸類」ニ適用セリ

舊草案ノ法文ニハ「地方間ノ傳染病豫防」評言スレハ町村ト町村トノ交通ニ關スル規則ヲ揭示セリ然レ此ノ如ク制限スルハ吾人ノ遺憾トスル所ナリ何トナレハ此ノ如キ禁止法ヲ設クルハ唯府知事縣令ニ過キサレハナリ故ニ吾人ハ該正條ヲ變シテ純然タル町村ノ規則即チ町村内ニ於テ戸長ノ設ケタル規則ニモ適用スルモノト爲シタリ是レ蓋シ第四百七十六條第五項ニ掲ケタル違警罪ノ刑ノ適用ヲ減少スルモノトス

〔附言〕 頒布法典(第二百四十九條)ハ獸類ヲ他所ニ出シタルヲノミテ掲ケタリ

此傳染病ヲ豫防スル地方ノ處置ハ其時ノ情況ニ依リテ異ナルヲアリ一ハ命令ニ屬スルモノニシテ即チ病毒ニ感シタル獸類ノ撲殺ヲ命シ及ヒ斃死若クハ撲殺シタル獸類ヲ或ル深サニ埋瘞スルヲ命スル規則ノ如キ是レナリ一ハ禁止ニ屬スルモノニシテ即チ病毒ニ感シタル獸類ヲ共同ノ牧場ニ放チ又ハ之レヲ公ケノ道路ニ放逸スルヲ禁スル規則ノ如キ是レナリ

〔附言〕 現今佛蘭西ニ於テハ千八百八十一年七月二十一日ノ法ヲ以テ此事項ニ關スル

健康ニ關スル規則ニ背ク罪

規則ヲ細密ニ制定セリ

一旦地方ノ規則ヲ公布シタル以上ハ其規則ヲ知ラスシテ犯シタルキト雖モ之レヲ罰ス可シ蓋シ已ニ公布シタル地方規則ヲ知ラサリシヲ以テ其罪ナシトスルハ本法ノ許サ、ル所ナレハナリ本條ノ場合ハ前二ヶ條ニ豫定シタル上陸若クハ交通ヲ禁シタル場合トハ大ニ異ナレリ蓋シ前二ヶ條ノ禁止ハ他邦ヨリ來リタル旅人ニ適用ス可キモノニシテ彼等ハ流行病感染ノ嫌疑ヲ受ケタルヲ知ラサルコトアル可ケレハナリ

第四節 危險若クハ健康上ニ害アル工業ニ關スル規則ニ背ク罪

第二百八十二條

〔第五百九十四號〕 近世工業ノ途非常ニ進歩シテ大ニ社會ニ功用ヲ爲シタリト雖モ從テ亦新タニ危險ト不便トヲ生シタリ

此損害ハ問々生シ易ク且ツ千差萬別ノモノナルカ故ニ法ノ整頓セル諸邦ニ於テハ諸般ノ工業ニ從事スル職工若クハ工業場ニ接近スル住民ノ爲メニ其生スル所ノ損害ノ度ニ循テ諸般ノ工業ノ部類ヲ分ツノ注意ヲ爲シタリ

其第一ノ部類ハ火藥硝石（炸藥ノ名稱ニシテ主トシテ「ニトログ」ノ製造及ヒ瓦斯製造所ノ如キ暴發又ハ火災ヲ生シ易キ所ノモノトシテ之レヲ稱シテ危險アル工業ト云フ某國

ノ法制ニハ金屬ノ鑄造及ヒ若干馬力ノ蒸氣器械ヲ用ユル工業ヲモ亦此部類ニ入レタリ第二ノ部類ハ總テ人ノ健康ニ害アル惡水、惡烟若クハ惡質ノ蒸氣等ヲ發出スル所ノモノトシ之レヲ稱シテ人ノ健康ヲ害ス可キ工業ト云フ而シテ最後ノ部類即チ第三ノ部類ニハ塵埃若クハ薪、石灰ノ煙又ハ鳴響等ヲ發スルニ因テ人ノ妨害ヲ爲スニ過キサル所ノ工業トセリ

是等ノ工業ノ爲メノ建物ノ創設及ヒ該工業ノ益用ニ關スル諸規則ハ必ラス其部類ニ因テ異ナルモノニシテ佛蘭西ニ於テハ此第一類ノ工業ニ關シテハ通例大政府ノ准許ヲ得ルコトヲ要シ第二類ノ工業ニ關シテハ州長ノ准許ヲ得第三類ノ工業ニ關シテハ郡長ノ准許ヲ以テ足レリトス

此三箇ノ場合ニ於テハ先ツ其地方ニ於テ利害「デ、コンモド、及ヒデ、アンコンモド」ニ關シテ調査ヲ爲シ以テ其准許ヲ與フルニ付キ官廳ノ參考ニ供スルモノトス若シ州長又ハ郡長ヨリ准許ヲ與フルコト肯セサル場合ニ於テハ諸願人ハ上官ニ申訴スルコトヲ得ルナリ

是等ノ規則ハ既ニ日本ニ於テモ其一部ヲ採用ゼシモノニシテ又其全部ヲ採用スルニ至ルハ疑ヒテ容レサル所ナリ○然レトモ行政上ノ法律ニ其刑ヲ掲グルハ適當ニ非サル可キカ

危險若クハ健康上ニ害アル工業ニ關スル規則ニ背ク罪

故ニ必ラス之レヲ刑法ニ掲ケサルヲ得ス

本法ハ獨リ初メノ二類ノ建設物ニ付テノミ此條例ヲ遵守セサルノ罪ヲ罰スルモノニシテ人ノ妨害ニ屬スル建設物ニ關シテハ唯民事ノ損害ヲ賠償スヘキ責メニ任セシメ決シテ本法ノ問ハサル所ナリ

本條ニ豫定シタル二箇ノ場合ハ其刑罰金ニ止マルナリ尤モ益用ノ出費ヲ減シテ利益ヲ増加セントノ念ヨリ起リタル犯罪ニ關スルカ故ニ通例ノ罰金ヨリモ稍ヤ其類ヲ増シタルナリ

第二百八十三條

〔第五百九十五號〕 豫メ官許ヲ受ク可キ條件ノ外又法律ニ於テ是等ノ製造人ニ對シ其益用中ニ盡ス可キ條件ヲ命スルヲ得可シ○行政官モ亦時ト場合トノ景狀ニ依リテ人ト所有權トヲ保護ス可キ諸般ノ處置ヲ下スヲ得可シ

斯ル補充ノ諸條件ヲ遵守セサル罪ノ刑ハ豫メ官許ヲ得可キ條件ニ背キタル時ヨリモ必ラス輕カラサルヲ得ス何トナレハ工業ノ主長タル者終始其益用ヲ監督スルヲハ其工業創設ノ際豫メ行フ可キ一箇又ハ數箇ノ法式ヲ遵守スルニ比スレハ更テニ困難ナルヲ以テナリ○加之此刑ハ犯罪ノ度毎ニ屢ニ科スルヲアルカ故ニ再ヒ科スルヲ得サル刑ヨリモ輕カレ

ヘキハ當然ナリ

但シ前條ニ爲シタル二種ノ工業間ノ區別ハ本條ニモ存在スルヲハ敢テ言テ俟タサルナリ

第二百八十四條

〔第五百九十六號〕 災害ヲ豫防ス可キ處置ヲ怠リタリト雖モ之レカ爲メ人ト物トニ毫モ眞實ノ損害ヲ生セサルコトアル可シ然ルモハ則チ前二條ノ場合ニ屬スルモノトス

蓋シ此場合ニ於テハ元來犯罪ハ爲メニ社會ノ損害ヲ生シタル時ニ非サレハ之レヲ罰ス可カラサル本法ノ原則ヲ離レタルモノト信ス可カラス此場合ニ於ケル社會ノ損害ハ危險ヲ受クルニ在リ故ニ社會カ受クル所ノ危險縱ヒ意外ニ其結果ヲ生セサルナリトモ其危險アルハ社會ノ爲メニ眞ノ損害ナリトス○是レ蓋シ既ニ設定シテ又既ニ數回陳述セシ所ノ論理タリ

然リト雖モ若シ火藥等ノ暴發ノ爲メニ職工、近傍ノ住民又ハ通行人ノ死傷ヲ致シタルモ若クハ健康ニ害アル工業ノ爲メニ人ノ疾病ヲ醸シタルモ如キ實際災害ノ生シタルモハ則チ此ノ如キ結果ニ至リタル過失殺傷ニ關スル本法ノ更テニ嚴ナル規則ヲ適用スヘキナリ

第五節 埋葬規則ニ關スル犯罪

埋葬規則ニ關スル犯罪

第二百八十五條

〔第五百九十七號〕 凡テ公同ノ墓地ハ成ル可ク一般ノ健康ヲ保護シ得可キ條件ヲ以テ官廳之レヲ撰定スルヲ要ス是ヲ以テ甚タ人家ニ接近セル地ハ避ケサルヘカラス又水源所在ノ高地ハ之レヲ用ユ可カラス〔附言〕且死屍ノ露出スルヲ避ケンカ爲メ埋葬ノ度毎トニ充分深ク埋瘞スルヲ要ス○又官廳ニ於テ死屍ヲ犯サ、ラシムルノ監察ヲ容易ナラシメンカ爲メ埋葬ヲ一所ニ集ムルヲ良シトス

〔附言〕 然レトモ日本其他ノ邦國ニ於テモ埋葬地ヲ高所ニ設定スルノ慣習アリ千八百四年六月十二日ノ佛蘭西法律第三條ニハ埋葬地ヲ高所ニ設ク可キ旨ヲ命シタリ然ルニ高地ヲ經流シテ落ツル水ノ腐敗スル危險アリタリ是ヲ以テ又千八百八年三月七日ノ布令ニテ墳墓ヨリ百〔メートル〕^{(一)メートルハ我}_{(三)尺二寸九分二厘}以内ニ井ヲ掘ルヲ禁シタルナリ若シ人民自己ノ所有地内若クハ公ケノ墓地外ニ其親族ヲ埋葬スルノ自由ヲ有セシキハ此豫防ノ處置ハ無効ニ屬ス可キヲ知ルヘキナリ

其他尙ホ後日ニ至リ若シ遺骸ノ露出セシ時ニ其變死ニ係ルヲ覺リタリト雖モ犯罪ノ確證ヲ得ルノ手段ナキ不便アリトス
故ニ本法ハ地方官廳ノ允許ヲ得タルニ非スシテ墓地外ニ死屍ヲ埋葬セシ者ニ對シ罰ヲ定

メタルナリ

扱テ此允許ヲ與フ可キ官廳ハ府知事縣令タルカ若クハ郡區長タルカ將タ戸長タルカ如何ニ至リテハ刑法ニ於テ決ス可キモノニ非サルナリ此允許ハ假令ヒ既ニ准許セラレタル親屬ノ墓地ニ合葬スルキト雖モ必ス埋葬ノ度毎トニ之レヲ受クルヲ要ス又本法ハ墓地外ニ埋葬ヲ爲サシメタル者ト之レヲ爲シタル者ト又僧徒ノ如キ之レニ關涉スル者トノ間ニ刑ノ區別ヲ立テサルナリ故ニ此等ハ皆ナ共犯ト看做スヲ得ルナリ本條第二項ニ記シタル例外ノ場合ハ傳染病、戰爭又ハ洪水ニテ道路ノ壅塞シタル際ニ生スルヲアル可シ

本條第三項ハ改葬ノヲニ關ス而シテ法式ヲ遵奉セスシテ擅マニ死屍ヲ掘出スルハ一般ノ健康ニ危險アルニ因レリ

第六節 有害ノ飲食物ノ販賣

第二百八十六條

〔第五百九十八號〕 本條及ヒ次ノ數條ニ豫定セル犯罪ハ貪慾ヨリ起レルモノナレハ則チ嚴刑ニ處シタリ殊トニ其飲食物ヲ偽造シタルニ因テ人ニ災害ヲ加ヘタルキハ嚴刑ニ處ス可

有害ノ飲食物ノ販賣

キヲ當然ナリ

一一〇

夫レ商人、人ノ健康ヲ害ス可キ物質ナルヲ知テ之レヲ飲食物ニ混和スト雖モ惡意ヲ以テ之レヲ爲スコ非ス必ラスヤ此物質ハ飲食物ノ形色香味若クハ重量ヲ添フルヲ以テ利益ヲ得ルカ故ニ之レヲ爲スナリ然レトモ是レ蓋シ甚ダシキ不道德ノヲト謂ハサル可カラス何トナレハ此徒ハ同類ノ健康ヨリ寧ロ一身ノ利益ヲ優レリトシタレハナリ佛國ニ於テハ水若クハ無色ノ飲料ヲ葡萄酒ニ加ヘタルヲ掩蔽センカ爲メ異質物ヲ以テ之レニ着色シ或ハ飲料ノ醋ノ酸味ヲ増加センカ爲メ礫性ノ酸質物ヲ用非或ハ乳汁ノ分量ヲ増サンカ爲メ石灰ノ混シタル水ヲ用非ルヲ等往々ニシテ之レアリ此等ノ物質ハ之レヲ加ヘタル飲食物ノ全量ニ比シ極メテ少量ナルキハ甚ダシキ危險ニ非スト雖モ其大量ナルカ又ハ此ノ如ク混和スルニ因リ特別ノ物質ヲ構成スルキハ甚ダ危険ナリトス

買主ニ於テ飲食物ノ偽造ナルヲ知ルキト雖モ以テ其賣主ノ刑ヲ免セス何トナレハ健康ハ不正ノ利ヲ計ル可キ財産ニ非ス又多少必要ナル飲食物ノ代價減少ノ爲メニ犠牲トナル可キモノニ非サレハナリ

本條ハ飲食物ノ偽造ニ因テ毫モ災害ヲ生セザリシキ其偽造ノ罪ヲ罰スルモノナリ故ニ此

場合ニ於テ本法ハ唯罰金ヲ科スルニ過キスト雖モ之レニ加フルニ裁判所ヲシテ其裁判宜告書ヲ公示スルヲ得セシメタリ是レ罰金ヨリモ一層効アルヘキ罰ニシテ再犯ヲ豫防スルノミナラス又此ノ如キ頗ル輕キ罰金ノミニテハ敢テ恐レサル所ノ初犯ヲ遏ムルヲ得ヘキモノナリ

其偽造シタル飲食物ヲ毀棄スルハ第五十五條ノ一般ノ原則ニ適スル者ナリ然レモ茲ニ之ヲ明記シタルハ宜シキヲ得タリト云フ可シ何トナレハ其之レヲ明記スルニ於テハ該犯罪ニ因テ得タル所ノ認定スルニ困難ナル利益ノ沒收ノヲ茲ニ記載スルニ及ハサレハナリ其他偽造ノ爲メニ既ニ使用シタル物質ニシテ犯者ノ所有スル者ナリト雖モ之レヲ以テ更ラニ偽造ヲ爲スヤ如何ハ定メ難ク又其物質ノミニテハ確然禁制物ト認メ難キニ因リ之レカ沒收、毀棄ヲ爲スヲ得ス

〔第五百九十九號〕 自カラ腐敗シ又ハ變質シタル飲食物ニ付テハ假令ヒ賣主其腐敗シ變質シタルヲ知リ而シテ其健康ニ有害ナルモノト雖モ本條ハ此等ノ物件ニハ適用セス何トナレハ飲食物ハ種々ノ原由ニ因テ變質スルモノニシテ商人ニ在リテハ違警罪ニ觸ル、トモ其全部ノ滅盡ヲ避ケントスルハ自然ノヲナリ(第四百七十六條第四項)最モ人ノ健康ニ害ナキ物質ヲ飲食物ニ混和シタル者ハ唯違警罪ニ處スル而已(第四百七十八條第一項)

有害ノ飲食物ノ販賣

一一一

第二百八十六條第二

〔第六百號〕 本條ハ舊草案ニ出テサル所ニシテ初メ編纂委員ノ少數ハ之レヲ設クルノ説ヲ主張シタリト雖モ遂ニ其説ヲ達スルヲ得サリキ○編纂委員多數ノ説ニ因レハ此節ノ末尾ニ於テ過誤ニ因スル殺傷ノ刑ニ處スルヲ以テ足レリト信シタルナリ○然レトモ是レ甚タ異ナレル二箇ノ場合ヲ混同スルモノト謂フ可シ○抑モ過誤殺傷ノ場合ニ於テハ犯者ノ道德上ノ罪タル一點ハ注意ヲ缺キタルニ在テ是レ畢竟疎虞懈怠ノ罪トス然ルニ本條ノ罪ハ貪慾ヨリ起リタルモノニシテ其道德上ニ背クノ點甚タ異ナリトス且ツ社會ノ危險頗ル大ニシテ此罪ハ多人數ヲ害シ又再三之レヲ犯スヲアル可シ何トナレハ其貪慾心ハ常ニ犯者ノ胸裏ニ存スヘキヲ以テナリ

〔附言〕 頒布法典亦此條例ヲ設ケス而シテ千八百七十一年三月二十七日ノ佛法律ニモ亦此條例ヲ缺キタリ

第二百八十七條

〔第六百一號〕 本條ニ於テ第二百八十五條（第二百八十六條ノ誤リナラン乎）ノ場合ヨリモ更ラニ多キ罰金ヲ科スルヲ見テ驚愕スル者アル可シ何トナレハ此犯罪ノ原由ハ疎虞懈怠ニ出テタルニ過キサルノ一アルカ故ニ必ラスシモ貪慾ヨリ起リタルモノト見做ス可カラサレハナリ然レトモ

本條ニ論スル藥劑ノ性質ノ爲メニ社會ノ危險頗ル大ナルヲ注意セサル可カラズ
賣藥規則ニ於テ營業者ニ守ラシム可キモノハ毒植物（ベチノーズ）又ハ毒質物（トクシツク）
〔附言〕チ鎖鑰シタル場所ニ入レ置イテ濫リニ散乱セシメサル事醫師又ハ管轄廳ノ命ナクシテ該藥劑ヲ販賣スルノ禁其他藥劑ノ性質及ヒ外用タルニ過キサルハ其外用タルヲ示シタル記標ヲ封皮箱、瓶等ノ器物ニ記スヘキノ命令是レナリ

〔附言〕「ベチノーズ」ノ物質トハ植物ヨリ製シタルモノニシテ其汁液ハ人ヲ死ニ至ラシメテ甚タ危險ナルモノヲ云フ又「トクシツク」ノ物質トハ金屬即チ礦性物ヨリ製シタルモノニシテ其鹽同上ノ危險アルモノヲ云フナリ

本條第二項ハ第二百八十五條（第二百八十六條ノ誤リナラン乎）ノ場合ニ類スル場合ヲ豫定セリ蓋シ犯罪ノ原由利益ヲ圖ルニ出テタレハナリ然レトモ全ク同一ノ場合ニ非ラス即チ本條ノ第二項ニ於テハ犯者道德ニ背クヲ少ナシ何トナレハ其賣渡シタル物質ハ病氣ヲ治スルヲアルモノナレハ必ラスシモ有害物ト云フヲ得サレハナリ然レトモ社會ノ危險ニ至リテハ一層大ナリ蓋シ該物質ノ有害ノ程度ハ一層大ナレハナリ○是ヲ以テ本條第二項ニ掲ケタル刑ハ偽造ノ飲食物ノミチ賣渡シタル者ニ對スルヨリモ更ラニ重シ○加之第一項ニ謂ユル懈怠ノ罪ヲ犯シタル賣藥營業者ノ刑ヨリモ又更ラニ重シトス何トナレハ免許ヲ受ケスシテ賣藥

有害ノ飲食物ノ販賣

營業ヲ爲シタル者ハ本條ニ罰スル疎虞懈怠ノ罪ノ外ニ自由ナラサル商業ヲ營ミタル罪ヲ犯シタレハナリ

但シ本條第二項ノ刑ヲ適用スルコ付テハ必スシモ營業ノ分限ナクシテ販賣スル者賣藥營業者ノ爲メニ定メタル規則ヲ犯シタルヲ要トセス

第二百八十八條

〔第六百二號〕 第二百八十六條第二ヲ增加シタルニ因リ本條ノ規則ハ前條ノ犯罪ヨリ生スル不幸ナル結果ニノミ適用スルモノナリ○舊草案及ヒ頒布法典ニ於テハ此規則ハ有害物ヲ混和シタル偽造ノ飲食物ノ販賣ト毒質物ノ不法ノ販賣トニ等シク適用セシモノナリ然レトモ有害ノ飲食物ヲ販賣シタル罪ハ犯者ノ貪慾心ヨリ出テタルニ因リ若シ之レカ爲メ人ニ災害ヲ加ヘタルキハ一層重大ナル責任アルヲ證明セリ

第七節 醫術ヲ不法ニ施行スル事

第二百八十九條

〔第六百三號〕 玆ニ豫定シタル犯罪ハ本法平生ノ所爲ヲ以テ罰スルノ要款ト爲セル稀ナル場合中ノ一ナリトス○實ニ一時ノ情狀ニ因テ朋友僕婢若クハ貧人ヲ看病シ之ニ藥劑ヲ與ヘ又ハ其助言ヲ爲シタル者并ニ非常若クハ危急ノ場合ニ於テ負傷者ヲ治療シ藥物ヲ賣シ

又ハ出産ヲ助ケタル者ヲ罰スルハ道理ニ適セサル可キ

唯本法ノ豫防ス可キ所ハ濫リニ内科外科又ハ産科ノ醫業ヲ行フニ在リトス

本法ニ於テハ犯者慰勞金ヲ收メテ以テ利益ヲ圖リタルコトハ必要トセサレトモ平生醫業ヲ行フコト必要トセサルヲ得ス何ントナレハ社會ヲ害スルノ實點ハ唯此ニアルヲ以テナリ

〔附言〕 頒布法典(第二百五十六條)ハ平生醫業ヲ爲シタルコトヲ要セス然レトモ醫師ノ職

業ヲ行フコトヲ述ヘテ醫術ノミヲ施スコトヲ述ヘサルニ因リ畢竟歸スル所ハ草案ト同一ナ

リト見做スヲ得可シ何トナレハ一二ノ醫術ノミヲ施シタリトモ職業ヲ行ヒタルモノニ非サレハナリ

其他裁判所ニ於テハ眞ノ慈惠ヲ以テ不適法ニ醫術ヲ施シタル者ト不正ノ利ヲ圖リテ醫術ヲ施シタル者トノ間ニ必ラス差等ヲ立ツルヲ得可ク即チ裁判所ニ於テハ本刑ノ最下點及ヒ減輕ス可キ情狀ヲ酌量スルノ外尙又禁錮ニ處セサルヲ得ルノ權能アリ何トナレハ本條ノ禁錮ノ刑ハ必ラスシモ科スヘキモノニ非サレハナリ

第二百九十條

〔第六百四號〕 本條ノ規則ハ屢々掲出スル所ニシテ又之レヲ掲出スルハ必要ナリ然レトモ

醫術ヲ不法ニ施行スル事

茲ニハ毫モ別段ノ解釋ヲ要セス

第七章 公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪 森 順 正 譯

公衆ノ風儀ニ對スル不敬 第二百九十一條 何人タリトモ公ケノ場所若クハ公衆ノ目ニ觸レ得ヘキ場所ニ於テ故意ヲ以テ風儀ヲ害スヘキ所爲ヲ行フタル者ハ十五日以上二月以下ノ重禁錮、貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百五十八條○佛刑、第二百三十條)

猥褻ノ物品ノ公然販賣 第二百九十二條 何人タリトモ猥褻ノ書冊、圖書若クハ比喩其他風儀ヲ害スヘキ性質ノ物品ヲ公然販賣シ又ハ販賣若クハ貸貸ノ爲メ陳列シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

携賣 單ニ該物品ノ隱密ノ携賣、貸貸若クハ販賣アリタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ノミチ言渡ス可シ

賭博ノ始 佛國千八百八十一年七月二十九日ノ法律、千八百八十二年八月二日ノ法律) 第二百九十三條 何人タリトモ自己ノ家宅若クハ公ケノ場所ニ於テ僥倖ヲ期スル賭博ヲ私計シ以テ自己ノ利益ヲ圖リタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金

賭博現行犯 第二百九十四條 前條ノ條件アル時僥倖ヲ期スル賭博現行犯ニテ發見セラレタル者ハ十五日以上二月以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

例外 場錢ハ之ヲ沒收スヘシ 純ラ無償ナルカ又ハ單ニ現場ニテ消費ス可ク且ツ純粹ノ歡樂ニ供スル物品ヲ賭シタル僥倖ノ博戯ハ本條例規ノ限ニ在ラス(刑、第二百六十一條○佛刑、第四百十條、第四百七十五條第五項)

利益ヲ獲テスル富者ノ事 第二百九十五條 自己ノ利益ノ爲メ公ケノ富講ヲ設ケタル者又ハ富籤ノ發賣ヲ幫助シタル者ハ第二百九十三條ニ記載セル刑ニ處ス(刑、第二百六十二條○佛刑、第四百十條、佛千八百三十六年五月二十一日ノ法律)

富籤發賣ニ因リテ得タル金額ヲ其儘ニ發顯スル者ハ差押テ沒收ス可シ反對ノ場合ニ於テハ富講ノ發起人又ハ主タル連類國庫ニ對シテ發顯セラレサル金額ニ等シキ罰金ニ處セラレヘシ然レモ若シ既ニ抽籤ヲ實行シ當籤物ヲ交付シタル者ハ沒收スヘキ金額ヨリ其價額ヲ扣

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

二一七

除ス可シ

施濟ノ富（官許ヲ得サル施濟ノ富講ニ係ルキハ發起人及ヒ主タル連類單ニ第二百九十三條ニ記載セ
ル罰金ノミニ處セラル可シ富籤ノ發賣ニ因リ得タル金額ハ之ヲ沒收スヘシト雖ヒ行政官ニ

於テ其全部若クハ幾分ヲ其目的タリシ事柄ニ適用スルヲ得（佛千八百四十四年五月二十
二日ノ命令ト對比スヘシ）

法教ニ對（公然 第二百九十六條 總テ神社、寺院、墓所其他宗教ニ屬スル場所ニ於テ日本ニ公認シ又ハ縱容
ノ不敬 セラレタル法教ニ對シ故意ヲ以テ公然不敬ノ所行ヲ爲シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕

禁錮貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

右ノ場所ニ於テ教徒ノ說教又ハ宗徒ノ禮拜ニ障礙若クハ妨害ヲ加ヘタルキハ其刑一月以上

三月以下ノ輕禁錮五圓以上貳拾圓以下ノ罰金タルヘシ（刑、第二百六十三條○刑、第二百六十
條乃至第二百六十四條）

加重 若シ數人連合シ又ハ他宗ノ教徒右ノ罪ヲ犯シタル時ハ前記ノ刑三等ヲ加フ（刑、零）

墳墓ノ掘 第二百九十七條 墳墓ヲ掘發シテ死屍ヲ露ハシ又ハ之ヲ納レタル棺槨ヲ露ハシタル者ハ三

月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ犯罪人死屍ヲ移轉シ又ハ之ヲ殘毀シタルキハ二年以上五年以下ノ禁錮拾圓以上五拾圓

以下ノ罰金ニ處ス（刑、第二百六十五條○草、第二百六十條）

（皇室ノ陵墓ニ對シ右ノ犯罪ヲ行フタルキハ前刑ニ一等乃至二等ヲ加フ）

此條ノ罪ハ未遂犯タリトモ仍ホ罰スヘキモノトス（刑、第二百六十六條）

要旨

第二百六十一條

第六百五號 公然風儀ヲ害スヘキ所行ヲ爲スノ特別ナル危害

第六百六號 此犯罪ヲ構造スルノ條件

第六百七號 一私人ニ對スル猥褻ノ罪ハ第三編ニ讓リタル事

第六百八號 何ノ故ニ法律ハ亂倫其他風俗ヲ害スルコト一層重大ナル所行ト雖ヒ公行其他

本條ノ犯罪構造スル情狀ナキハ之ヲ罰セサルカ

第二百九十二條

第六百九號 猥褻ノ冊子又ハ物品ノ販賣若クハ陳列○隱密ノ携賣

第二百九十三條

第六百十號 僥倖ヲ期スル賭博ノ不正ニシテ社會ニ危害アル事

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

第六百一十一號 賭博ノ始計ヲ爲シタル者、博徒ノ結黨

第二百九十四條

第六百一十二號 單ニ賭博ヲ行フタル者ノ刑、現行犯ノ必要並ニ場所ノ區別ノ事

第二百九十五條

第六百一十三號 富講ハ僥倖ヲ期スルノ性質アル事發起人ノ刑

第六百一十四號 沒收、特別ノ困難

第六百一十五號 施濟ノ富講

第二百九十六條

第六百一十六號 公認シ又ハ縱容セラレタル法教ヲ尊敬スヘキ事

第二百九十七條

第六百一十七號 墳墓ヲ尊敬スヘキ事

第二百九十一條

〔第六百五號〕 本條及ヒ次條ニ論スル所ノ事項ハ立法者チシテ他ノ事項ニ於ケルカ如ク文辭ヲ精詳ニスルヲ得セシメサル性質ノモノタリ是レ法律ハ風俗ヲ害スル罪ノ性質ヲ明示スルニ方リ却テ自カラ一般ノ風儀ヲ害スルニ至ル可カラサルニ由ル〇註解者モ亦タ其文字ヲ撰摘スルニ於テ頗フル困難アリ〇然レモ裁判所ノ賢明ナル必ス能ク法律ノ精神ト其目的トヲ討究シ以テ法律ノ明言セサル所ヲ補フナル可シ蓋シ法律ノ精神及ヒ目的ハ他ノ惡例ヨリモ一層傳播シ易キ惡習ヲ示ス者ヲ罰シ以テ善良ナル風俗ヲ社會ニ存セントスルニ在リ

〔第六百六號〕 此罪ヲ構造スルノ性質ハ罪ス可キ所爲ノ公行ニ在リ何ントナレハ爰ニ社會ノ危害ヲ生スルモノハ畢竟其公行ナレハナリ故ニ若シ公然之ヲ行フニ非ラサレハ猥褻ナル所爲タリトモ只タ私德ニ反スル過失ニ屬スルノミニシテ第三編(第二百八十六條以下)ニ記スルカ如ク他人ニ對スル猥褻ノ罪ヲ構造シ罰スヘキモノタルノ場合ニアラサレハ敢テ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ラス

本法ハ「公ケノ場所ト公衆ノ目ニ觸レ得ヘキ場所」ト同一視シ共ニ公然ノ性質ヲ有スルモノトセリ〇故ニ人ノ住居シタル一戸又ハ數戸ノ宅屋ヨリ見ユ可キ私園内ニテ行フタル淫猥ナル所爲加之ナラス室内タリトモ外部ニ通スル窓戶ヲ開放シテ行フタル淫猥ナル所爲ハ本法ノ適用ヲ免カレサルヘシ〇然レモ淫猥ナル所爲ヲ外ヨリ看ラレタルモ之ヲ看タル者ノ好事狡計ニ出テタルモハ然ラサルモノトス
是ヲ以テ「公ケノ場所若クハ各衆ノ目ニ觸レ得ヘキ場所」ナル語ハ偏ヘニ文字上ニ拘泥シ

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

テ狹隘ナル意義ニ解ス可カラス故ニ通行人ノ見ルヲ得ヘキ場所ニ非ラサルトモ隣家ヨリ見ユ可キ所ニ於テ行フタル淫事ハ犯罪ト爲ルモノナリ蓋シ茲ニ所謂「公行」トハ其所爲チ行フタル家ニ住居シ又ハ使役セラル、者ニ非ラサル人ノ目ニ觸ル、トヲ得ヘキノ謂ナリ」夫レ斯クノ如キ所爲チ行フタルハ必ス故意ニ出テタルモノナルヤ敢テ明言スルニ及ハサルカ如シト雖モ本條ニハ其犯罪ヲ「故意ヲ以テ行フタル」ヲ要スト云ヘリ是レ公ケノ風儀ニ對スル無意ノ所行ナシトセサルカ故ナリ例ヘハ急速浴場ニ火ヲ發シ(是レ日本ニ於テハ罕レナラサル所ナリ)浴客衣服ヲ被ルノ暇ナク途上ニ逃出シタル場合ノ如キ即チ是レナリ又出火若クハ地震或ハ持兇器強盜ノ爲メ睡眠中驚愕セラレタル人衣服ヲ被ルノ時ナク道路ニ逃レタル時ノ如キモ同様ナリトス

然レモ其所爲故意ニ出テタルト即チ止ムヲ得サルニ非ラス且ツ重大ト爲スニ足り而シテ人其他人ノ爲メニ見ラル、トアルヘキヲ知リタルトハ他人ノ風儀ヲ害スルノ意思ナキモ猶ホ犯罪トナルモノナリ蓋シ斯クノ如キ場合ニ於テ豫メ注意ヲ爲サ、リシハ即チ風俗ヲ蔑視スルモノニシテ其有罪タルヲ免カレサルナリ

又茲ニ公ケノ風儀ヲ害スヘキモノトシテ罰ス可キ所爲ノ性質ヲ定ムルヲ要ス佛法ハ日本法案ヨリモ更ラニ強キ語ヲ用ヒタリ即チ該法ハ「公然風儀ノ穢害」ト罰スルモノトス(第二二

百二十條

然レモ「ウートラー」シユ(穢害)ノ語タル公ケノ德行ヲ害スルコト一層重大ナル意義ヲ有スルモ罰スヘキ所爲ノ性質ヲ明示スルモノニ非ラサルナリ

凡ソ放蕩淫奔、猥褻ニ屬スル言語唱歌ハ縱令ヒ道德上ニ於テ責罰スヘキモノナリモ所爲ノ語中ニ包含セサルヲ以テ先ツ首トシテ之ヲ除カサル可カラス又言語唱歌ハ品行端正ナル者ニ永ク感覺ヲ止メサルヲ以テ所爲ノ如キ危害ヲ風俗ニ及ホスモノニ非ラサルナリ又公ケノ場所ニ於テ充分ノ注意ナキモ醜態ヲ見ハサスシテ天然ノ需要ヲ滿シタル者ハ其所爲固ヨリ品行上ノ點ニ於テハ甚ダ責罰スヘク且ツ違警罪トシテ罰スヘキモノナリト雖モ(第四百七十九條第十四項ヲ看ルヘシ)本條ノ適用ヲ受ケサルヤ毫モ疑ヲ容レサルナリ」
 「公ケノ風儀ヲ害スヘキ所爲」トハ殆ント特ニ男女ヲ問ハス故意ヲ以テ其一人又ハ數人ノ陰部ヲ公衆ノ目ニ觸レシメタル所爲ノミヲ謂フモノト解スヘク且ツ法律ノ精神ニ從ヘハ淫慾ヲ遂クルノ目的ニテ其所爲チ行フタルヲ要ス故ニ公ケノ場所若クハ公衆ノ目ニ觸レ得ヘキ場所ニ於テ皮膚ヲ露ハシ又ハ全ク裸體ニテ沐浴スルノ所爲ニテモ他人ノ目ニ觸レシメントノ意思アラサルトハ風儀ヲ害スル所爲ト稱ス可カラス是レ亦ク違警罪ニ過キサルモノナリ(第四百七十九條第十五項)

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

〔第六百七號〕 第三編(第三百八十六條以下)ニ至リ其尙ホ他ニ「風俗ニ對スル」輕罪加之ナラ
ス重罪アルヲ看ル可シ然レモ其罪ハ一人ニ對スル重輕罪ニシテ強姦、暴行ヲ以テシ又
ハ暴行ヲ以テセサル猥褻ノ罪、姦通、重婚等即チ是レナリ○重婚ノ罪ニ至テハ一人ニ對
スル犯罪(即チ前配偶者ニ對スル罪)トセンヨリ寧ロ公ケノ德行ニ對スル犯罪トシテ本章
ニ規定スヘキモノナリ然レモ犯罪タル姦通ノ情重キモノト看做シ之ニ次テ規定スルヲ慣
例トス

〔附言〕 佛蘭西ニ於テハ重婚ノ罪ヲ罰スルニ有期徒刑ヲ以テシ(刑法、第三百四十三條)
重罪ノ稱ヲ附ス日本ニ於テハ輕罪タルノミ

〔第六百八號〕 歐洲ノ法律中公行ナキモ公ケノ德行ヲ害スルモノトシテ或ル他ノ所爲ヲ罰
スルモノ多シト爲ス此所爲タル不義ハ一層大ナリト雖モ本法ニハ之ヲ記載セス亂倫及ヒ
天然ニ戻ル淫猥ノ所爲即チ是レナリ○蓋シ此事タル別ニ法律中特殊ノ條項ヲ設ケテ之ヲ
規定セス唯タ公行又ハ身体ニ對シ暴行アリタルト普通法ニ據リ罰スルノミヲ以テ允當ナ
リト認メタリ公行及ヒ暴行ノ情狀ナキ以上ハ斯クノ如キ事實ノ搜索ヲ爲スヲ難カルヘク
且ツ却テ風俗及ヒ一家ノ安寧ニ害アルヘシ唯タ或ハ公行又ハ暴行アリタルカ爲メ事實ノ
證明セラレタルニ於テハ之ヲ以テ風俗ヲ害スル罪ノ加重情狀ト爲スヲ得ヘシ然レモ此等

ノ事實ハ日本ニ於テ屢々見ル所ニ非ラサルカ故ニ敢テ法律中特殊ノ嚴例ヲ設ケテ之ヲ公
言スルニ及ハサルナリ

〔附言〕 獨乙法典ニ於テハ公行若クハ暴行ノ情狀ナキモ猶ホ之ヲ罰スヘキモノトセリ
〔第七十三條乃至第七十五條〕○伊太利法案ニ於テハ暴行ヲ以テ犯シタルトキノミ此
等ノ行爲ヲ罰スルモノトセリ此場合ニ於テハ此所爲ヲ以テ犯姦罪ノ加重情狀ト爲スモ
ノナリ(第三百二十八條及ヒ第三百二十九條)○佛法典第三百三十三條及ヒ本案第三百
八十九條第二ニ制定セル刑ノ加重ノ理由ヲ緣族即チ亂倫ニノミ歸スルハ誤マレリ寧ロ
權威ノ濫用ヲ以テ其理由ト爲スモノナリト謂ツ可シ

第二百九十二條

〔第六百九號〕 本條ニ論スル所ノ事實モ亦タ公行即チ惡情ヲ傳播スル所ノ醜例ヲ流布シタ
ルヲ待テ始メテ犯罪ヲ構造スルモノトス風俗ヲ害スルヲ以テ罰スヘキ所爲ノ事ニ付キ前
條ニ述ヘタル所ニ據テ之ヲ見レハ敢テ本條ニ所謂猥褻即チ風儀ヲ害スル冊子、圖書若ク
ハ比喩ノ果シテ如何ナル物カヲ指定スルニ及ハサルナリ此等ノ諸物ハ前條ニ假定シタル
風俗ヲ害スヘキ所爲ノ稗說若クハ圖書ナリト謂フ可キナリ○唯タ文章及ヒ圖書ハ多少省
恕スヘキモノアルヲ以テ裁判所ニテ其罰スヘキモノタルヤ否ヤヲ認定スルカ爲メニハ犯

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

罪物件ヲ有セサル可カラサルニ注意スヘシ

又本法ハ隱密ノ販賣ニ對スルヨリ公然ノ販賣又ハ陳列ニ對シ更ラニ嚴ナルニ注意スヘシ

○蓋シ公然ノ販賣ニ付テハ醜例更ラニ大ニシテ通行人ト雖モ思ハスシテ其目ヲ害セラルルコトアルヘキナリ然ルニ隱密ノ販賣又ハ携賣ニ至テハ其物件一層少數ナル人ノ目ニ觸ルルニ過キス然レモ犯罪人ハ一般ニ誰レ彼レノ差別ナク不品行ナル好事ノ情ヲ満足セシメテ欲スル者ナリト認ムル所ノ諸人ニ之ヲ示スカ故ニ恰モ竊カニ公衆ニ示シタルカ如シ是レ本法ノ嚴ニ之ヲ罰スル所以ナリ尤モ此場合ニ於テハ單ニ罰金ニ處スルノミ

本條ノ場合ニ於テ前條ノ場合ニ於ケルヨリ罰金ノ巨額ナルハ決シテ怪ム可カラサルナリ何ントナレハ本條論スル所ノ犯罪ハ原ト利益ヲ圖ルノ意ニ出テタルモノニシテ即チ貪慾ヨリ起レルモノナルカ故ニ其刑ノ殊トニ金額上ニ係ルヘキコト嘗テ既ニ述ヘタルカ如シ又後段ニ至リ猶ホ屢々之ヲ見ルヘシ

茲ニ須ラク注意スヘキハ差押ヘタル物品ヲ沒收セサル事(即チ國庫ニ沒入セサル事)是レナリ即チ此等ノ物品ハ之ヲ毀棄スルモノトス

第二百九十三條

〔第六百十號〕 押モ賭博ナル者ハ原ト之ヲ行フ者ノ自由ナル意思ノ結果ニシテ且ツ詐欺、欺

騙アラサルモノト想像スルカ故ニ皮相視スレハ法律ノ之ヲ罰スルヲ許カル者アルヘキナリ

○然レモ賭博ニハ罰スヘキ犯罪ノ通常ノ二元素ヲ具備スルコト容易ニ見ルヲ得ヘキナリ

○蓋シ賭博ハ貪慾即チ正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ヲ得ント欲スルノ念慮ニ出ル者ナルカ故ニ道德ニ悖戾スル者ナリ○又賭博ハ之ヲ行フ者ノ一人、利益ヲ得レハ他ノ一人必ス落貧ヲ免カレス加之ナラス實際ノ經驗ニ據リテ之ヲ觀ルニ賭博ニ贏チタル金錢ハ概チ遊蕩ニ浪費スルヲ以テ贏者亦タ落貧ヲ免カレサルコト殆ント確然タレハ社會ニモ亦タ害毒ヲ流スモノナリ又賭博ノ情慾ハ賭者ヲシテ之ヲ遂ケンカ爲メニ他ノ犯罪例ヘハ擷取、盜罪其他總テ賭博ヲ爲シ失敗シテ己レニ屬セシ所ノモノヲ擧ク失フタル後猶ホ續テ賭博ヲ爲スノ手段ヲ得ルコト能フヘキ諸般ノ詐欺罪ヲ行ハントノ念ヲ發セシムルニ至ルモノナリ

〔第六百十一號〕 本條ニ於テハ第一ニ自己ノ家宅若クハ其附屬屋又ハ料理店貸坐敷若クハ公道ノ如キ公ケノ場所ニ於テ容易ニ賭博ヲ爲スノ手段ヲ供シ誘餌ヲ排列シ以テ人ニ賭博ヲ教唆スル者ヲ罰ス是レ所謂「賭博ノ始計」ナルモノナリ

其犯罪人自カラ賭博ニ加ハリタルト否トハ敢テ區別ス可キニ非ラス唯賭者ノ利益ノ一部分又ハ賭場若クハ賭博器具ノ貸賃トシテ他人ノ賭博ニ因リ利益ヲ圖リタルノミニテ罰スルニ足レリトス

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

又本條ニ論スル所ハ僥倖ヲ期スル賭博ニ關スルヲ要ス○然レハ純粹ノ僥倖ノミヲ期スル賭博タルヲ要セス故ニ僥倖中術ノ巧拙優劣ヲ參ヘタルキト雖^{ビニ}猶ホ刑罰ヲ免脱スルヲ能ハサルナリ蓋シ賭博中過半ハ僥倖ト術ノ巧拙トヲ參フルモノナリ

之ニ反シテ體操、擊劍、角闘、水泳、競馬、競走等ノ賭博ニ至テハ本條ノ適用ヲ及ボスヘキモノニ非ラス此等ノ事タル體力又ハ身體ノ壯快ヲ增加發達スルヲ得ヘキカ故ニ之ヲ罰センヨリハ寧^ロ却テ之ヲ獎勵ス可キナリ且ツ慣習ニ於テモ之ヲ稱シテ「賭博」ト云ハス「操練」ト云フ

日本ニ於テハ賭博犯其体面ヲ一變シ特ニ公ケノ秩序ニ危害アリト看做サル、^一往々之レ有リ博徒ノ結黨即チ是ナリ○原草案ニハ之ヲ罰セサリシカ本案ニハ頒布ノ法典第二百六十條ニ摸倣シテ第二項ヲ設ケ而シテ賭博ノ利益ノ分配ヲ企圖シタルノ條件ヲ要スル旨ヲ明記セリ此條件タル頒布ノ法典第二百六十條ハ之ヲ明言セスト雖^レ暗ニ之ヲ要スルモノトシタルヤ疑ヲ容レス

第二百九十四條

〔第六百十二號〕 本條ハ單ニ賭博ヲ爲シタル者即チ特ニ自己ノ利害ノミニ付テ賭博ヲ爲シタル者ヲ罰スルモノナリ

該犯ノ刑ハ賭博ノ始計者若クハ結黨シタル博徒ニ對スルヨリ較々輕キノミナラズ賭博者「賭博現行犯ニテ捕ハレタルキ」ニ非ラサレハ適用スルヲ得ヘカラサルモノトス抑モ犯罪ノ現行ナルト否トノ情狀ハ毫モ道德上ノ惡又ハ社會ノ害ヲ變スルモノニ非ラスト雖^レ本條ニ現行犯タルヲ要ストセシハ道理ニ適從スト謂フ可キナリ蓋シ該犯罪ノ終リタル後ニ至リ起訴ヲ許スハ事實發見ノ爲メ危害アリト認メタリ何ントナレハ犯後ノ起訴ヲ許サハ必ス證人ヲ以テ斯ク速カニ過キ去ルヘキ事實ノ證ヲ立ルヲ准サ、ル可カラサルヘシ然ルニ此ノ如キ事實ハ形跡ヲ遺サ、ルヲ以テ遲キニ過キタル搜索ヲ爲スハ甚タ苛酷ニシテ且ツ充分ナル利益アラサルヘケレハナリ○之ニ反シ前條論スル所ノ賭博ノ始計者及ヒ博徒ノ結黨ニ對スル起訴ニ付テハ本法其現行犯タルヲ要セサルナリ

〔附言〕 頒布ノ法典(第二百六十一條)モ亦タ其現行犯タルヲ要セシカ更テニ新法ヲ設ケテ(明治十七年即チ千八百八十四年一月四日)此條件ヲ廢止シ賭博者及ヒ博徒ノ結黨シタル者ノ刑罰ヲ著シク加重シタリ然レハ我輩ハ其嚴例ニ摸倣セズ本條ニ於テモ亦前條ニ規定セル條件ニ從フヘキモノトセリ其意賭博ヲ私計セル者ノ私宅若クハ公ケノ場所ニ於テ其賭博ノ行ハレタルヲ要スル旨ヲ示スモノナリ故ニ前條ニ規定

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

シタルカ如ク賭博ヲ私計スル者ナクシテ唯賭者中一人ノ私宅ニ於テ賭博ヲ爲シタル者ハ
刑罰ヲ免カル、モノトス○又道路外若クハ公衆ノ目ニ觸レサル田野或ヒハ森林ニ於テ賭
博ヲ爲シタル際捕ハレタル者ニ對シテモ本刑ノ適用ヲ爲ス可カラス

〔附言〕頒布ノ法典(第二百六十一條)ニハ右ノ條件ヲ要セサルカ故ニ朋友相集リ其一人
ノ私宅ニ於テ賭博ヲ爲シタル時ト雖ヒ猶ホ罰セラルヘシ

佛法典ハ毫モ單ニ賭博ヲ爲シタル者ヲ罰スルコトナク唯ク賭博始計者ヲ罰スルノミナリ

〔第四百十條及ヒ第四百七十五條第五項〕

又賭博者ヲ罰センニハ其自己ノ利益ヲ圖リテ之ヲ爲シタルヲ要ス故ニ「純テ無償ナル」僥
倖ノ博戯ハ本法刑罰ヲ科セサルナリ而シテ此語タル意義絶体完全ナリト雖ヒ本法ノ精神ハ
實「益」トナルニ非ラスシテ唯ク一層ノ歡樂ヲ添ヘンカ爲メニ一二厘、一個ノ天保通寶乃至
一錢ノ如キ些少ノ錢ヲ賭シタル者等ニ刑罰ヲ科セサルニ在リトス又「賭博ヲ爲ス間」消費
ス可キ物品ヲ賭シタル者ハ其酒若クハ菓子等ノ如キ「純粹ノ歡樂」ニ屬スルモノタルニ於
テハ本法ノ許ス所ナリ然レモ若シ消費者ニ於テ米又ハ人ノ生活ニ必要ナル食品ノ代金
ヲ賭シタル時ハ本刑ニ處セラルヘシ
賭博即チ賭博者其目前ニ置キ又ハ失敗ノ場合ニ於テ保證タルヘキモノトシテ箱中ニ備ヘ

タル金額ハ本法之カ沒收ヲ爲スヘキモノトセリ是レ其金額ハ犯罪ノ手段タルヲ以テナリ
其他賭博ノ器具ニ至テハ亦ク沒收ス可キモノナルコト毫モ疑ナ容レスト雖ヒ敢テ本條ニ明
言スルヲ必要ト認メサルナリ

第二百九十五條

〔第六百十三號〕富講トハ概テ極メテ些少ナル金ヲ賭シテ當籤物即チ多少巨額ナル價額ノ
物件ヲ獲セシムル所ノ僥倖ヲ期スル手段ヲ云フ○凡ソ富講ノ方法如何ナク述ヘンニ先ツ
數多ノ富籤ヲ作り其籤ニハ各々異ナル番號ヲ記シ其價極メテ些少ナルモノナリ而シテ各
籤皆當籤物ト稱スル高價ノ物件ヲ得ルノ僥倖ヲ期スルコトヲ得ヘキモノトス○其當籤物ハ
數多ヲ得ヘキコトアリ又一個ニ止マルコトアリテ或ハ金額或ハ不動産或ハ不動産ナリトス是レ
時トシテハ直チニ相當ノ代價ヲ以テ賣却スルコト能ハサリシ物ヲ其價額外ニ賣却スルカ爲
メニ用ユル所ノ手段タリ○其富籤ノ悉ク賣レタル時ニ至リ抽籤ヲ行ヒ概テ第一ニ出テタ
ル番號ヲ有スル者最大ノ當籤物ヲ得ルモノトス
故ニ富講ハ直ニ僥倖ヲ期スルノ賭博ニシテ之ヲ責罰スルヲ適當ナリトス何ントナレハ是
レ亦タ他ノ賭博ノ如ク正當ノ原因ナクシテ一方ノ利益ト他ノ一方ノ損失トヲ來スモノナ
レハナリ○加之ナラス其僥倖モ決シテ同等ニ非ラサルニ注意スヘシ蓋シ富講ヲ設ケタル

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

者ハ必ス當籤物ノ價ト相ヒ同シキカ又ハ之ニ超過スル價額ノ富籤ヲ發スルカ故ニ決シテ損失ヲ被フルコトナカル可シ之ニ反シ富籤ヲ買フタル者ニ至テハ發賣シタル富籤ノ數夥ナルカ故ニ其利益ヲ得ルノ僥倖極メテ少シ

本法ハ富講ノ發起人及ヒ富籤ノ發賣ヲ幫助シタル者ヲ罰スルノミ○若シ此クノ如ク法律ニ制限ヲ加ヘサルキハ其富籤ヲ買フタル者モ亦タ共犯トシテ之ヲ罰セサル可カラズ然レモ斯クノ如クスルハ則チ法律ノ嚴例ヲ違フ度外ニ及ホスモノナリト認メタルカ故ニ本法ハ歐洲諸國ノ法律ト等シク發起人及ヒ其主タル連類ヲ罰スルニ止マレリ加之ナラス法律ノ目的トスル所ハ富籤ヲ買フ者ヲ保護スルニ在ルヲ以テ之ヲ罰スレハ却テ論理ニ適セサルヘシ且ツ之ヲ購求シタル者ハ其富籤代金ヲ失フニ因リ既ニ責罰アリト謂フヘキナリ何ントナレハ抽籤前ニ富講ノ發覺スルキハ抽籤ヲ行フコト能ハスシテ富籤代金ノ返還ヲ得ルコト能ハサルヘク加之ナラス抽籤ヲ實行シタルキタリトモ未ダ當籤物ヲ交付セサルキハ贏者之ヲ得ルノ訴權ヲ有セサル可ケレハナリ但タ當籤物ヲ交付シタルキハ之ヲ取戻スコト能ハス是レ禁制賭博ノ民法上ノ規則ナリトス

〔第六百十四號〕 原案ニハ毫モ沒收ノ事ヲ記載セサリシカ是レ一ノ闕典ニシテ須ラシク補填スルヲ要スルモノトス(附言アリ)○佛蘭西ニ於テハ千八百三十六年五月二十一日ノ特別

法ヲ以テ刑法第四百十條ヲ追補シ此事ニ付キ頗フル嚴例ヲ設ケタリ即チ當籤物トシタル動產物ハ之ヲ沒收シ不動產ノ當籤物タルキハ其沒收ニ代フルニ其評定價額ノ沒收ヲ以テセリ是ヲ以テ其私計者纔カニ二三ノ富籤ヲ發賣シタルニ過キサルキト雖モ猶ホ當籤物ノ價額ヲ沒收セラル、コアルヘキナリ然レモ斯クノ如キハ其犯罪ノ爲メ社會ニ及ホス害惡ト刑罰トノ權衡ヲ全ク失スルモノト謂ハサル可カラズ
故ニ我輩ハ全ク異ナル所ノ計算法ヲ取レリ蓋シ當籤物ヲ以テ犯罪ノ用ニ供スル器具ト看做スハ其當ヲ失スルモノコシテ此性質ヲ有スルハ寧ロ富籤ナルカ故ニ本條ニハ第一未ダ發賣セサル富籤ヲ犯罪ノ用ニ供スル器具トシテ沒收シ其既ニ發賣シタルモノハ其價額ヲ犯罪ノ利得トシテ沒收ス○然レモ若シ抽籤ヲ實行シテ當籤物ヲ交付シタルキハ犯罪人ヲシテ正當ニ己レニ屬シタル所ノモノト正ニ得タル所ノモノト併セテ損失セシメサルカ爲メ富籤發賣代金ヨリ其價額ヲ扣除ス

〔第六百十五號〕 此クノ如キ嚴格ナル禁制ヲ附シタル富講ハ法文ニモ言ヘルカ如ク私計者ニ於テ私利ヲ圖ルノ富講ナリ○夫ノ施濟ノ富講ニ至テハ初メ之ヲ緘黙ニ附シ去ルコト詳言スレハ暗ニ之ヲ聽許センコトヲ思考シ加之ナラス明カニ之ヲ聽許センコトヲ思考セリ然レモ施濟チ口實トシテ利益ヲ圖ルノ富講ヲ設ケ又ハ一時ノ役場ヲ得富講ノ元資中ヨリ報酬ヲ

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

受クルノ手段ト爲スノ恐レアルカ故ニ本法ハ官許ヲ得サル施濟ノ富講ヲ設クルヲ禁止シタリ重大ナラサル富講ニ付テハ府知事縣令ニ於テ其許可ヲ與ヘ其他ノ富講ニ付テハ内務卿之ヲ與フヘシ

〔附言〕 頒布ノ法文ハ利益ヲ圖ル富講ヲ罰スルノミ(第二百六十二條)

此場合ニ於テハ發起人ノ刑更ラニ輕キヲ當然ナリトス故ニ本法ハ禁錮ニ處スルヲナク唯々五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スルノミ但タ發賣シタル富籤ノ利得沒收ニ至テハ之ヲ存スト雖モ本法ハ行政官ニ於テ發起者及ヒ加入者ノ好意ヲ徹セシムルヲ許ス加之ナラス之ヲ勸奨スト謂フモ敢テ不可ナキカ如シ

第二百九十六條

〔第六百十六號〕 凡ソ各人其奉スル所ノ宗教自國ニ於テ公認セラレ又ハ少クモ其法律ニテ准許セラレタルニ於テハ必ス其宗教ヲ實行スルコト付キ法律ノ保護ヲ受ク可キハ萬邦普通ノ公法ノ原則ナリ○然ルニ若シ其宗教ヲ信スル者己レノ目前ニ於テ其宗教ニ對シ侮辱、凌蔑ノ所行ニ遇フコトアラハ此保護完全タリト謂フ可カラス

〔附言〕 頒布ノ法典(第二百六十三條)ハ凌辱ヲ受ケタル宗教ノ公認セラレタルト單ニ縱容セラレタルトヲ區別セス

本法ハ宗教上ノ場所ニ於テ其侮辱ハ凌蔑ヲ行フタルコト非ラサレハ之ヲ罰セス其他ノ場所ニ於テハ其所爲縱令ヘ咎ムルニ足ルヘキモノナリト雖モ猶ホ罰スルコト得サルモノトス例ヘハ一私人其邸宅ノ前ニ其宗教ノ標識ヲ掲ケタルト如シ此場合ニ於テハ其標識ヲ掲ケタル者ニ於テ他ノ仇讐視スル所トナリ不當ナル駁撃又ハ舉動ヲ挑唆シタル不注意、輕卒ナル信仰ヲ爲シタルノ責アルナリ

本條ニ定ムル所ノ刑ハ輕禁錮ニ止マリ重禁錮ニ至ラス是レ本條論スル所ノ罪ハ思想ノ自由ニ對スル犯罪ナルニ由ル

若シ宗教ニ對シ凌蔑ヲ爲シタルニ止マラスシテ其禮典又ハ外形ノ實行ニ障礙ヲ爲シ妨害ヲ加ヘタルトハ其刑一層重シトス是レ此際ニ於テハ宗教ノ自由ヲ害スルコト一層大ナレハナリ

又犯罪ノ本人他宗ノ教徒タルトハ侮辱ノ刑及ヒ宗教ノ執行ニ加ヘタル障礙ノ刑共ニ之ヲ加重ス○此場合ニ於テハ道德上ノ罪惡及ヒ社會ノ害惡一層重大ニシテ之ヲ認ムルコト容易ナリ蓋シ各宗ノ教徒ハ自己ノ宗教ヲ尊敬セシムルニ於テ最モ利益ヲ有スルカ故ニ亦々總テ他ノ宗教ヲモ尊敬ス可キノ理ヲ解スヘキコト常人ノ比ニ非ラサルナリ

〔附言〕 頒布ノ法典(第二百六十三條)ハ此加重ヲ設ケス

公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

第二百九十七條

〔第六百十七號〕 死者ヲ尊敬ス可キハ何レノ國ニ於テモ認定シタル原則ナリ加之ナラス此點ニ付テハ未タ開明ノ域ニ至ラサルノ人民却テ其進步ノ更ラニ著シキ人民ヨリ一層慎重ナルニ注意スヘシ然レモ往々謬信ニ陷ヒルコトアリ
本條ハ舊慣ニ據リ墳墓ニ加ヘタル凌蔑ノ程度ヲ區別セリ○其區別タルヤ尙ホ之ヲ増加スルヲ得ヘシト雖モ唯二個ノ場合ヲ區別スルヲ以テ足レリト認メタリ
但シ皇室ノ陵墓ヲ犯シタル場合ニ於テハ其刑ヲ加重スルヲ必要ト認メタリ

第八章 商業、工業及ヒ農業ノ自由ニ對スル罪

必要ノ需用品 第二百九十八條 凡テ一私人ニ對シ重キ脅迫又ハ暴行ヲ用ヒ若クハ詐欺ノ計策ヲ以テ米穀其他一般ノ使用ニ缺ク可ラサル食用品タル產物又ハ膏油、薪炭、建築用ノ木材ノ搭船若クハ登岸、運輸若クハ賣買ニ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮五圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

有益ナル需用品 前項ニ記載シタル以外ノ需用品又ハ商品ニ關シテ右ノ犯罪ヲ行フタルキハ本刑ニ一等ヲ減ス(刑、第二百六十七條)

公ケノ舊 第二百九十九條 勳產又ハ不動産所有權若クハ收買權ノ權賣又ハ物品ノ供給、工事其他或ル請負ノ入札ヲ爲スニ當リ暴行ヲ爲シ又ハ書面若クハ言語ヲ以テ重キ脅迫ヲ爲シ又ハ詐欺ノ計策ヲ以テ其權賣又ハ入札ノ自由ニ妨害ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百六十八條○佛刑、第四百十二條)

職工ノ徒 第三百條 凡テ職工、工場長其賃銀ヲ増加セシメ又ハ農工若クハ商業ノ作業ノ條件ヲ變更セシメンカ爲メ通謀シテ他ノ職工若クハ雇主ニ對シ暴行、重キ脅迫若クハ詐欺ノ計策ヲ行ヒ一箇若クハ數箇ノ工場ニ於テ作業ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百六十九條、第二百七十條○佛刑、第四百十四條、第四百十五條、第四百十六條)

雇主ノ徒 第三百一條 凡テ土地ノ所有主、雇主、製造所ノ主人若クハ商館ノ主人、賃銀ヲ減少シ又ハ作業ノ條件ヲ變更セシメンカ爲メ通謀シテ他ノ所有主、雇主製造所ノ主人若クハ商館ノ主人ニ對シ暴行、重キ脅迫若クハ詐欺ノ計策ヲ行ヒ以テ作業ノ自由ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十一條○佛刑、第四百十四條乃至第四百十六條)

一層重キ刑ニ處ス 第三百二條 本章ニ豫定セル情狀アルニ方リ需用品、商品若クハ器械ノ毀損アリタルキハ 商業、工業及ヒ農業ノ自由ニ對スル罪 二二七

第四百七十一條ニ記載セル刑中諸條ノ刑ヨリ重キモノヲ適用スヘシ(刑、零)
 [暴行及ヒ脅迫ノ通常刑モ亦タ其前條ノ刑ヨリ重キキハ等シク適用スヘキモノトス]
 第三百三條 凡テ虚偽ノ風説又ハ其他詐欺ノ計策ヲ以テ第二百九十八條第一項ニ指示セル
 需用品ノ定價ニ昂低ヲ生セシメタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十二
 條○佛刑、第四百十九條、第四百二十條)

要旨

第二百九十八條

第六百十八號 商業及ヒ工業ノ自由ノ利益

第六百十九號 自由妨害ノ多少有害ナル需用品若クハ商品ノ二箇ノ種類

第二百九十九條

第六百二十號 糶賣又ハ入札ニ加ヘタル妨害ノ事

第三百條

第六百二十一號 作業ノ自由ニ職工ノ加ヘタル妨害ノ事

第三百一號

第六百二十二號 雇主ノ行フタル右ノ犯罪ノ事

第三百二條

第六百二十三號 一層重キ刑アル時ハ其適用ヲ爲ス可キ事

第三百三條

第六百二十四號 虚説ノ刑ノ制限、民事上ノ責任

第二百九十八條

[第六百十八號] 米穀ノ搭船ニ妨害ヲ加フルハ米穀不熟ノ時ニ當リ人民其食糧ノ價騰貴セ
 ルカ爲メニ騷擾シ必要第一ノ需用品缺乏センコトヲ恐レテ其輸出ヲ拒ムニ至リタル場合ノ
 外敢テ之ヲ犯スコトナカルヘシ又之ニ反シテ米穀豐饒ナル時ニ方テハ間々農民ノ其登岸ヲ
 拒ムコトアルヲ見ル何トナレハ之カ爲メニ既ニ低落セル米價ノ益々低下スルニ至ル可ケレ
 ハナリ

蓋シ國ノ人口ニ應スル糧食ヲ確保シ需用品ノ價ト其作出ノ費用トノ間ニ相當ナル權衡ヲ
 維持スルカ爲メ如何ナル處置ノ必要ナルカヲ考定スルハ一私人ノ得テ爲スコト能ハサル所
 タルヤ明カナリ○一私人タル者縱カニ右ノ處分如何ナルヘキヤヲ議スルヲ得ルノミ之ヲ
 施スハ中央官廳又ハ地方官廳ノ任ナリトス而シテ官廳スラ猶ホ其處分ヲ施スニ方テハ極

商業、工業及ヒ農業ノ自由ニ對スル罪

メテ戒慎ヲ用ヒサル可カラス何ントナレハ商業ノ利益ノミニ任スルモ商人ハ決シテ米穀ノ乏シキニ因リ其價ノ既ニ甚ク騰貴セル地方ニ於テ之ヲ買入ル、コトナカル可ク又之ニ反シテ其豐饒ナルカ爲メニ其價ノ既ニ頗フル低落セル地方ニ之ヲ輸送スルコトナカル可キハ實際ノ經歷ニ於テ證明セシ所ナレハナリ

現時經濟說ノ最モ進歩セル諸邦ニ於テハ概テ政府ハ需用品ノ出入ニ一切官權ノ處置ヲ施スコトナク爲サス又如何ナル場合ト雖モ地方ニ關スル處置ヲ爲スコトナク唯タ商業上ノ行爲ニ任セテ國內ノ諸部ヲ生産ト需用トノ權衡ヲ立テシメ特ニ凶荒甚シキ時ニ於テノミ全國ヨリ穀類ノ輸出ヲ妨ケ又ハ禁スルニ止マルモノトス又政府ハ穀類ノ非常ニ充足セル場合ニ於テモ決シテ其輸入ヲ妨害セス何ントナレハ商業ノ實際ニ就テ之ヲ見ルニ其輸入ヲ爲スニ不利ナル時機ヲ撰ソルトレンテ之ヲ爲ス者決シテ之レ有ルコトナカル可ケレハナリ

本法ハ需用品ノ流通ニ加ヘタル妨害ノ暴行、重キ脅迫若クハ詐欺ノ計策ニ出テタルトキ之ヲ罰スルモノトスシルキニラシ暴行及ヒ重キ脅迫ノ手段ニ付テハ敢テ實例ヲ擧グルニ及ハス又詐欺ノ計策ニ至テハ或ハ輸出者ヲシテ盜賊又ハ海賊ノ危害ヲ恐レシメ或ハ輸入者ヲシテ散掠ノ危害ヲ恐レシムルヲ目的トシタル虛構ノ確言タルコトアリエニボレタトワル

〔附言〕 本節ニ規定スル諸般ノ犯罪ニ付キ原案ニハ斷リ暴行脅迫ノミヲ記載セシカレ

欺ノ計策ヲ以テ之ト同一視セシハ頒布ノ法典ニ模倣シタルナリ

本條ハ暴迫ノ「コントル、レ、ナルチキリエー」私人ニ對シテ「エ、ン、ヂ、ス、ハ、ン、ゼ、ー、ア、ル」行ハレタルコトヲ假定ス是レ其官吏ニ對シテ行ハレタルトキハ抗官ノ罪アルカ故ニ第六十七條ノ適用ヲ爲スヘキニ由ル

〔第六十九號〕 本條ニハ諸種ノ需用及ヒ商品ノ間ニ區別ヲ爲シ其第一部類ヲ人民ニ必要ナルモノト看做サレタル需用品トシ第二ノ部類ヲ其他單ニ之カ爲メニ有益ナル諸物品トセリ蓋シ其第二種ノ商業ニ加ヘタル妨害ヨリ第一種ノ商業ニ加ヘタル妨害ヲ罰スルノ更ラニ嚴ナルコトハ理解シ易キ所ナリ

本法ハ其第一ノ部類ニ屬スル所ノ需用品ノ完全ナル列擧ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ其二三者ヲ指示シタル後其使用ノ「エ、ン、ヂ、ス、ハ、ン、ゼ、ー、ア、ル」一般ニシテ且ツ欠クヘカラサル「エ、ン、ヂ、ス、ハ、ン、ゼ、ー、ア、ル」二個ノ條件ヲ要スルコトヲ示スニ止マレリ實際上某々ノ需用品果シテ此性質ヲ具有スルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ犯罪ノ行ハレタル地方人民ノ慣習及ヒ需用ヲ參酌シテ決定スヘキモノナリトス

之ニ反シ第二ノ部類ニ至テハ多クハ外國ヨリ舶載スルカ如キ金屬、贅澤物、織物類其他諸般ノ器械ニ至ルマテ總テ前項ニ記シタル以外ノ需用品及ヒ商器ヲ包含スルモノナリ〇故ニ貿易上保護主義即チ禁止主義ヲ主張スルノ徒カ外國物産ノ輸入ヲ拒マント欲スル者ハ本條第二項ノ適用ヲ受ク可キナリ蓋シ此經濟上ノ論題ハ各國ニ於テ猶ホ異議アル所ニシ

テ之ヲ斷定スルハ政府ノ權内ニ在リ決シテ人民ノ關スル所ニ非ラサルナリ

第二百九十九條

〔第六百二十號〕「アヂユヂカシヨソ」(落札)トハ對手ニ最モ利益アル條件ヲ提供スル所ノ人ニ一個ノ利益ヲ歸與スルノ謂ナリ(附言アリ)「アヂユヂカシヨソ」ニ二個ノ主タル種類アリ一チ「アヂユヂカシヨソ、アウ、アンシエール」(最高價ヲ提供スル者ニ歸與スル)ト云ヒ一チ「アヂユヂカシヨソ、アウ、ラベール」(最低價ヲ提供スル者ニ歸與スル)ト云フ○第一種ノ「アヂユヂカシヨソ」ニ於テハ受取ル可キモノ代價トシテ最高ノ金額ヲ辨償シ又ハ提供スル所ノ者ヲ撰ンテ之ニ歸與シ第二種ノ「アヂユヂカシヨソ」ニ於テハ行フ可キ業務ノ爲メニ最低價ノ報酬ヲ請フ者ヲ撰ムモノトス○賣買及ヒ賃貸ハ之ヲ糶賣ニ附ス詳言スレハ最高額ヲ提供スル者ニ之ヲ與フ之ニ反シテ物品ノ供給、執行スヘキ事業ハ之ヲ入札ニ附ス詳言スレハ最低價ノ報酬ヲ望ム所ノ者ニ之ヲ命ス

〔附言〕佛語「アヂユヂカシヨソ」ハ元ト羅馬語ニ由來ス羅馬人ハ「裁判官ノ爲シタル所

有權附與」ノ事ヲ述フルコ此語ヲ用非タリ○現時ニ至テハ其適用最早同シカラスト雖

モ亦タ差押物件ノ賣買ニ付キ行フ所ノ「アヂユヂカシヨソ」ハ羅馬時代ト同一ノ意義ヲ

有スルモナリ官ノ權下及ヒ官ノ爲メニ執行スヘキ事業若クハ實行スヘキ供給ノ許與

ニ付キ此語ヲ用ユルハ其意義ヲ擴張シタルモノナリ

原案ノ法文ニハ二箇ノ小缺典アリ然レモ之ヲ補填スルコ容易ナリトス即チ第一原案ニハ所有權ノ「アヂユヂカシヨソ」ノミヲ言フニ過キサリシカ「バイユ」即チ「ロカシヨソ」(二語共ニ「ナ」モ亦タ之チ「アヂユヂカシヨソ」ニ附スルコアリ然ルコ法律ニ所有權ノ「アヂユヂカシヨソ」ヲ豫定スルコ止マルモハ賃貸ノ「アヂユヂカシヨソ」ヲ妨害スル者ヲ罰スルコ難カルヘシ第二原案ハ糶賣ノ自由ニ加ヘタル妨害ヲ豫定スルノミナレモ亦タ他ニ「アヂユヂカシヨソ、アウ、ラベール」ニ應スル所ノ一語アリ佛語ニ於テハ此「アヂユヂカシヨソ」ノ場合ニハ復タ「アンシエール」(糶賣)ト云ハスシテ「スミツシヨソ」(入札即チ請負ト)云フ○本案ハ此二箇ノ増補ヲ爲シタルヲ以テ一層完全ナルヘキナリ

原案ニハ糶賣ノ自由ヲ妨害スル手段トシテ詐欺ノ計策ヲ記載セサリシカ本案ニハ之ヲ増補シタリ是レ佛法典ト少シク異ナル所ナリ該法典ニハ同一ノ目的ニテ贈與又ハ約束ヲ爲セシコチ假定ス(第四百十二條)此手段(贈與又ハ約束)タル其稀ナルヘキハ暫ク之ヲ措キ詐欺ノ計策中ニ入ルヘキモノト信スルカ故ニ敢テ茲ニ之ヲ掲載セス

本條第一項ニ假定スル所ハ公ケニ爲セル「アヂユヂカシヨソ」ノ事ナリト雖モ一私人ノ利益ニ係ルモノナリ第二項ハ一般ノ利益ノ爲メ「アヂユヂカシヨソ」ヲ爲シタルコチ假定ス

商業、工業及ヒ農業ノ自由ニ對スル罪

此際ニ於テハ犯罪ノ害一層重大ナルカ故ニ其刑モ亦タ一等ヲ加重セリ

第三百條

〔第六百二十一號〕 一千八百三十二年ノ佛刑法典ニ於テハ賃銀ヲ増加セシメント企テタル者ニ對シ甚タ嚴格ナル法ヲ設ケタリ即チ之ヲ罰スルニ必スシモ脅迫又ハ暴行アリタルヲ要セス唯タ若干ノ職工、一致通謀シ徒黨ヲ結ヒタルヲ以テ足レリトシ、拒工ト稱スル作業ノ拒絶ニ因テ其徒黨ヲ爲シタルノ形跡顯ハレタルニ過キサル時ト雖モ仍ホ然リトセリ
○此法例タル千八百四十九年及ヒ千八百六十四年ニ於テ漸次之ヲ改更シ遂ニ本條ニ指示セル目的ニ出テタル脅迫、暴行又ハ詐欺ノ計策ヲ爲シタル時ノ外之ヲ罰セサルニ至リタリ(佛刑法、第四百十四條)○然レモ新法ニ於テハ通謀、徒黨アリタルヲ必要トセス纔カ一人タリトモ脅迫暴行若クハ詐欺ノ計策ヲ爲シタルキハ刑ヲ科スヘキモノトセリ但タ通謀アリタルキハ裁判所ニ於テ監視ヲ附加スルヲ得ルモノトス(同第四百十五條)

日本草案ハ初メヨリ直チニ眞ノ經濟主義ニ基キタリ詳言スレハ作業ノ自由即チ職工及ヒ雇主ノ利益ヲ平和ニ談判スルノ權ハ之ヲ各自ニ與ヘタリ唯タ本法ノ問フ所ハ職工若クハ雇主ヨリ脅迫、暴行又ハ詐欺ノ計策ヲ以テ此自由ヲ妨害シタル時ノミナリ○且ツ本法ニハ徒黨アリタルヲ必要トス詳カニ之ヲ言ヘ、ハ二人若クハ數人同ニ暴行ヲ通謀シタルヲ要ス

ス若シ徒黨ナキキハ脅迫又ハ暴行ノ通常刑ヲ適用スルノミ故ニ或ル場合ニ於テハ其刑較々輕キヲアルヘシ

原案ニハ工業若クハ商業ノ事ヲ豫定シタルノミナレモ農業ノ自由ニ至テモ亦同様ノ保護ヲ加フヘキモノトス○蓋シ原案ニ之ヲ脱セシハ農業ノ雇人徒黨ヲ爲スハ極メテ稀レナルヘキカ故ナリ然レモ立法者ハ總テ類似ノ場合ニ其豫見ヲ推及スルヲ以テ注意ノ宜シキヲ得ルモノトス

本條記スル所ノ「職工又ハ工場長」ノ語タル當ニ現時雇主ノ爲メニ使役セラル、者ノミヲ謂フニ非ラス總テ其平常ノ職業職工タリ又ハ工場長タル者ヲ併稱スルモノト謂フ可キナリ實ニ職工他人ノ作業ヲ妨害センコトヲ企ツルハ其作業ヲ得ルコト能ハサル時ニ在リ

〔附言〕 頒布ノ法典(第二百七十條)ニハ雇人ナル語ヲ用ヒタリ此語タル廣ク職工タルヲ以テ業トスル者ヲ稱スルコトヲ得ルモ亦タ雇入レラレタル職工ナル狹隘ナル意義ニ解スルコトヲ得

第三百一條

〔第六百二十二號〕 本條ニ論スル所ノ犯罪ハ前條ト同一ノ性質ニシテ唯タ犯人ノ身分ニ差異アルノミナリ

商業、工業及ヒ農業ノ自由ニ對スル罪

抑モ刑法ハ一切諸般ノ臣民ニ對シテ同一ナル可シト雖モ亦タ人ノ身分ニ因リ其罪ノ加重スルコト間々之レ有リ○雇主、製造所ノ主人又ハ商館ノ主人徒黨ヲ爲シ併セテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルモノ如キ即チ是レナリ

此等ノ諸人ハ概テ其資産ニ餘裕アルヲ以テ職工ノ自由ヲ阻碍スルニ一層有効ナル手段ヲ有シ脅迫ナク單ニ徒黨ヲ爲シタルノミコトモ既ニ賃銀ノ低下及ヒ作業時間ノ増加等職工ニ不利ナル作業ノ條件ヲ承諾セシムルカ爲メ充分勢力アルモノナリ故ニ道德上其罪一層重シトシ又脅迫手段ヲ用ヰタルモノハ社會ノ害亦タ頗フル著シトス
農業ノ事ニ關シ本條ヲシテ完全ナラシメンカ爲メ雇主、製造所ノ主人及ヒ商館ノ主人ノ外「土地ノ所有主」ヲ附記シタリ

又本條ノ末ニ作業ヲ妨害シタルト云ハスシテ「作業ノ自由」ヲ妨害シタルト云ヒシハ雇主ノ脅迫、作業ヲ妨害スルノ目的ニ在ラスシテ強テ之ニ就カシメントノ目的ニ出ルコトアル可ケレハナリ

本條ニ於テモ亦タ前條ノ場合ニ於ケルカ如ク雇主ノ脅迫、暴行又ハ詐欺ノ計策(通謀)ニ出テタルヲ要ス然レモ職工ハ其犯罪ヲ行フタル時ニ當リ職工トシテ雇ハレタルヲ必要トセサルニ反シ雇主、商館ノ主人又ハ所有主ノ身分ハ犯人ノ現ニ之ヲ有スルヲ要ス故ニ「脅迫」

主ニシテ其業ノ爲メニ破産落簿シ又ハ之ヲ止メタル者本條ノ罪ヲ犯シタルモノハ通常ノ暴行脅迫ノ刑ヲ以テ罰セラル、ノミナリ(然レモ實際斯クノ如キコトアラサルヘシ)

第三百二條

〔第六百二十三號〕 需用品、商品若クハ器械ノ毀壞殘害ニ付キ第四百七十一條ニ制定シタル刑罰ノ前諸條ニ定メタル刑ヨリ重キコトハ稀ナルヘシト雖モ脅迫及ヒ暴行ノ刑ニ至テハ往々之レヨリ重キコトアリ是レ本條ニ之ヲ附記シタル所以ナリ

第三百三條

〔第六百二十四號〕 本法ハ第二百九十八條ニ指示シタル必要ニシテ毫モ闕クテ得ヘカラサル需用品ノ場合ニノミ本條ノ適用ヲ限リタリ○其他ノ需用品及ヒ商品ニ付テハ社會ノ損害一層少ナク加之虚偽ノ風説若クハ詐欺ノ計策ヲ行フタル者ハ其損害ヲ及ホシタル商人ニ對シ民事上ノ賠補ヲ負擔スヘキカ故ニ其制裁ヲ受クルコト充分ナリトス

第九章 公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

第一節 官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

法律施行 第三百四條 凡テ公ケノ官吏故意ヲ以テ其職掌ニ係ル法律若クハ行政規則ヲ公布シ施行シテ缺キタル事 又ハ施行セシムルノ義務ヲ盡サス又ハ他ノ官吏ノ公布若クハ施行ヲ妨害シタル者ハ其等級

公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

又ハ身分ノ如何キ問ハヌ二月以上六月以下ノ輕禁錮貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
(刑、第二百七十二條)

若シ二人又ハ數人ノ官吏通謀シテ此罪ヲ犯シタルキハ本刑ニ一等ヲ加フ(刑、零〇佛刑、第百二十四條)

逆徒鎮制
ヲ缺キタ
ル事

第三百五條 公力ヲ要求シ又ハ之ヲ使用スルノ權アル公ケノ官吏、一揆暴動若クハ兇徒聚
衆ノ鎮制ヲ爲ス可キ時ニ方リ故意ヲ以テ之ヲ要求若クハ使用セサル者ハ二年以上五年以下
ノ輕禁錮貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十四條)

公力ノ不
法ノ使用

第三百六條 前條ノ官吏、法律、規則若クハ其上官ノ處分ノ執行ヲ妨害スル爲メニ公力ヲ要
求シ又ハ使用シタルキハ其刑、輕禁獄タルヘシ
若シ其公力ノ使用ヨリ他ノ適正ノ兵隊又ハ人民ト爭鬪ヲ起スニ至リタルキハ其刑、重禁錮
タルヘシ

前二項ハ場合ニ依リ第百三十四條乃至第百三十七條ニ規定シタル重罪ヲ以テ目的トスル
一揆若クハ暴動ノ首魁若クハ黨與者ニ對シ制定シタル一層重キ刑ヲ適用スルノ妨ケトナ
ラス(刑、零〇佛刑、第百八十八條乃至第百九十一條)

通謀ノ辭
職

第三百七條 凡テ公ケノ官吏二名又ハ數名通謀シテ其職ヲ辭シ故意ヲ以テ或ル公務ノ成就
ヲ妨ケタル者ハ一月以上三月以下ノ輕禁錮五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、零〇佛刑、
第百二十六條)

職務ノ不
當ノ繼續

第三百八條 凡テ公ケノ官吏其職務ノ停止ヲ適法ニ達セラレタル後仍ホ在職シ其資格ヲ以
テ該職務ノ處分ヲ行フタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮五圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處
ス

官吏其職務ヲ任セラレタル期限經過ノ後又ハ其免職若クハ其隨意辭職ノ聽許ヲ知リタル後
仍ホ其職務ノ執行ヲ繼續シタル者ハ三月以上一年以下ノ禁錮拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ
處ス(刑、零〇佛刑、第百九十七條)

他ノ職務
ノ橫領

(公ケノ官吏故意ヲ以テ已ムキ得サルニ非ラサルニ他ノ官吏ノ管轄ニ屬スヘキモノタルヲ
知リ命令又ハ禁止ノ處分ヲ行フタル者ハ前項ニ記載セル刑ニ處ス)刑、零〇佛刑、第百二十七
條乃至第百三十一條)

禁止シタ
ル商業

第三百九條 凡テ府縣ノ行政事務ヲ任セラレタル官吏其職務ヲ行フ管轄地内ニ於テ米穀、
生絲、膏油、薪炭、若クハ建築用ノ木材ニ關スル商業ヲ爲シタル者ハ自己ノ名稱ヲ以テスルト
公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

假定ノ名稱ヲ以テスルト介入者ノ名稱ヲ以テスルト分タス又公然爲シタルト伴僞ノ所爲ニ依リタルトチ問ハス五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ該官吏其所有地又ハ其耕作地ノ或ル生産物ヲ其管轄内ニ於テ賣却スルハ其地ノ所在如何チ問ハス本條ノ限ニ在ラス(刑、第二百七十五條○佛刑、第七十六條)

第二節 官吏人ノ身体ニ對スル重罪及ヒ輕罪

權力ノ濫 第三百十條 凡テ公ケノ官吏其資格ヲ以テ人民ニ其之レニ要求スルノ權ヲ有セサル所爲ノ成就チ擅ニ命令シ又ハ其權利若クハ適法ノ權能ヲ行フチ惡意ヲ以テ不當ニ妨害シタル者ハ

十一日以上二月以下ノ輕禁錮貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十六條○佛刑、第二百十四條第一項)

擅恣ノ逮捕 第三百十一條 凡テ司法警察若クハ行政警察ノ官吏現行犯ノ場合ノ外、法律ニ制定シタル程式並ニ其他ノ規則及ヒ條件ヲ遵奉セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ逮捕セシメタル者ハ擅恣逮捕

ノ罪ヲ以テ論シ此一事ノミチ以テ十五日以上三月以下ノ重禁錮貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

不法ノ拘 若シ該官吏ノ所爲若クハ懈怠ニ因リ逮捕ノ後不法ノ拘留アリタルキハ通常人民ノ犯シタル權ニ人ヲ監禁スルノ罪ノ刑ヲ適用スヘシ(刑、第二百七十八條○佛刑、第二百十四條第一項)

裁判官ノ不法ノ命 第三百十二條 (豫審判事其他ノ裁判官毫モ自由剝奪ヲ受ケシムヘキ者ニ非ラサルチ知リ又ハ法律ニ依循シテ其訊問手續ヲ爲サス其逮捕ヲ命令シ又ハ之ヲ繼續シタルキハ前條ニ記載セル區別ニ從ヒ該條ニ制定シタル刑ニ照シテ各一等チ加フ)(刑、零○佛刑、第二百十四條第二項、第二百二十一條、第二百二十二條ト對照スヘシ)

監獄内ニ不法領取又ハ拘置チ爲シタル事 第三百十三條 凡テ監督其他獄舎ノ看守長、裁判宣告書、令狀又ハ其他正當ナル逮捕ノ命令書ヲ檢視セス囚人ヲ領取拘置シタル者ハ擅恣拘留ノ罪ヲ以テ論シ前條ニ從テ處斷ス

不法拘留ノ事ニ關スル懈怠ノ罪 第三百十四條 凡テ司法警察又ハ行政警察ニ附屬セル官吏監獄内ニ擅恣ノ拘留アルチ知リ又ハ私宅内ニ監禁アルチ知テ速ニ之ヲ調査檢證スルチ拒ミ又ハ之ヲ怠リ且ツ其管轄チ有スルキ之ヲ制止セス又ハ反對ノ場合ニ於テ之ヲ管轄官廳ニ報告セサル者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮四圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十七條○佛刑、第一百十九條)

囚人ニ對スル凌虐ノ所遇 第三百十五條 (凡テ警察官吏、囚人ノ看守若クハ護送人囚人ニ對シ必要ノ食物若クハ衣服ヲ屏去シ又ハ之ニ對シ暴行、若クハ獄則ニ准サ、ル嚴刻ノ所爲ヲ施シ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其犯罪ニ因テ

公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

身體ノ傷害ヲ生シ又ハ終身ノ癡疾ニ致シタル時一層重キ刑ニ處スルハ此限ニ在ラス(刑、第
二百八十條)

自狀ヲ得
申カ爲メ
ノ暴行凌
虐ノ所遇
第三百十六條 凡テ裁判官、檢察官吏、警察官吏若クハ囚人ノ看守、被告人ニ對シ白狀又ハ陳
述ヲ爲サシメシメカ爲メニ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ重
禁鋼貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ場合ニ依リ故意ノ毆打創傷ノ爲メ定メタル一層
重キ刑ニ處スルハ此限ニ在ラス(刑、第二百八十二條○佛刑、第百八十六條)

同一ノ目
的ニ出テ
タル脅迫
第三百十七條 前條ト同一ノ目的ヲ以テ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲サント脅迫シタル
ニ止マル時ハ其刑二月以上一年以下ノ重禁鋼拾圓以上五拾圓以下ノ罰金タルヘシ(刑、零)

裁判否拒
ノ罪
第三百十八條 凡テ民事又ハ行政裁判官、刑事又ハ陸軍裁判官假令ヒ其管轄外ノ事ト雖モ
自己ニ付セラレタル事件ヲ審判セサルニ因リ其長官ノ督責ヲ受ケ仍ホ十五日ノ後正當ノ事
故ナクシテ其事件ノ本案ニ關シ又ハ自己ノ管轄ニ關シ其判決ヲ爲スヲ拒ミ又ハ怠リタル
者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪又ハ輕罪事件ニ關シ被告人未決拘留ヲ受ケタルキハ懈怠シタル裁判官罰金ノ外十
五日以上三月以下ノ輕禁鋼ニ處セラル可シ(刑、第二百八十三條○佛刑、第百八十五條)
第三百十九條 凡テ行政又ハ司法部ノ公ケノ官吏、仲人、贈與、贈與ヲ收受シ又ハ金額、有價

物其他賄賂ノ目的ニテ之ニ附與シ又ハ提供シタル利益ノ提供若クハ約束ヲ聽許シタル者ハ
其直接タルト間接タルト間ハス此一事ヲ以テ二月以上一年以下拾圓以上四拾圓以下ノ罰
金ニ處ス

若シ其利益ノ爲メニ官吏次條ニ豫定シタル以外ノ反則又ハ不法ノ處置ヲ行ヒ又ハ其行フ可
キ處分ヲ爲サ、リシキハ本刑ニ一等ヲ加フ但シ其處置又ハ無爲ノ輕重ニ應ジ一層重キ刑ア
ルキハ之ヲ適用スヘシ(刑、第二百八十四條、第二百八十五條)

承前
第三百二十條 凡テ刑事ノ裁判官又ハ陪審官(事件ノ本案ニ付キ)適法ノ判決ヲ言渡スカ爲
メナリトモ贈與ヲ收受シ又ハ約束ヲ聽許シタル者ハ此一事ヲ以テ三月以上二年以下ノ重禁
鋼貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ其言渡シタル判決不法ニシテ被告人ニ利アルキハ六月以上三年以下ノ重禁鋼三拾圓以
上七拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ其判決不法ニシテ被告人ニ不利ナルキハ二年以上五年以下ノ重禁鋼四拾圓以上百圓以
下ノ罰金ニ處ス

然レトモ若シ前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シ宣告シタル刑前項ノ刑ヨリ重キキハ前ノ第二
百五十四條及ヒ第二百五十五條ヲ以テ受賄ノ罪アル裁判官又ハ陪審官ニ適用スヘシ(刑、第

公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

二百八十六條○佛刑、第百七十七條第百七十八條第百八十一條第百八十二條

怨恨若クハ愛情

第三百二十一條 刑事裁判官又ハ陪審官愛情若クハ保護ニ因リ又ハ怨恨若クハ惡意ニ因リ〔本案ニ付キ〕不法ノ判決又ハ認定ヲ爲シタルキハ被告人ニ利ナルト不利ナルトヲ問ハス前條後ノ三項ニ照シテ處斷ス(刑、第百八十七條○佛刑、第百八十三條)

贈賄者ノ刑

第三百二十二條 該官吏、仲裁人又ハ陪審官ニ賄賂トシテ贈與又ハ約束ヲ爲シタル本犯ハ前諸條ニ記載シタル區別ニ從ヒ收受聽許シタル者ト同刑ニ處ス(刑、零)

未遂犯

〔賄賂ハ未遂犯タリトモ仍ホ罰ス可キモノトス〕(刑、零○佛刑、第百七十九條)

沒收

第三百二十三條 何レノ場合ニ於テモ賄賂トシテ贈與シ且ツ收受セラレタル金額又ハ有價物ヲ其儘受賄官吏ノ掌中ニ發顯スルキハ之ヲ沒收ス反對ノ場合ニ於テハ發顯セサル金額ニ等シキ罰金ニ處ス(刑、第百八十八條○佛刑、第百八十條)

第三節 官吏國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

竊取詐取

第三百二十四條 凡テ國庫ノ會計吏、政府若クハ行政官廳ニ屬スル需用品其他或ル物件ノ

受托者若クハ監守者其職務ニ據リ保有スル所ノ金額若クハ有價物ノ全部又ハ一部ヲ竊取シ若クハ詐取シタル者ハ竊盜ノ刑ニ照シニ等チ加フ

議會計吏ノ竊取若クハ下級ハ自カラ官吏ノ資格ヲ有セスト雖モ前項竊取ノ罪ニ照シテハ

盜ノ刑ニ照シニ等チ加フ其使丁ニ付テモ亦同シ

但シ何レノ場合ニ於テモ其職務ニ關スル證書、簿冊若クハ文書類ノ偽造アリタルキハ官文書偽造ノ刑ニ照シテ處斷ス(刑、第百八十九條○佛刑、第百六十九條以下)

不正ノ得益、利益

第三百二十五條 〔凡テ官吏其職務ニ據リ契約若クハ落札、工業若クハ供給物ノ監督及ヒ一般ニ國ノ公領又ハ私領ノ資産ニ關スル處置ヲ爲ス〕任セラレタル者其處置ニ關シ金額又ハ金額ニ評定スルヲ得ヘキ利益ヲ收受シ又ハ聽許シタルキハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ其實得シタル利益ノ四分一ヨリ少ナカラス二分一ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス但シ第三百二十三條ニ規定シタル如ク該利得ハ之ヲ沒收スルモノトス(刑、零○佛刑、第百七十五條)

收斂罪

第三百二十六條 凡テ租稅、其他或ル入額又ハ政府若クハ行政官廳ニ收納スヘキ元金ノ取戻ヲ任セラレタル公ケノ官吏、手傳役、屬吏故意ヲ以テ全部又ハ一部ノ正數外ナル金額若クハ有價物ヲ納メシメ又ハ領收シ自己ノ所有ト爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第百九十條○佛刑、第百七十四條第一項及第二項)

〔會計吏正當ニ徵收シタル税金中ヲ以テ與ヘラル、所ノ控除金ヲ不正ニ徵收シタル税金中ヨリ領取シタル場合ニ於テモ亦同一ノ刑ヲ適用ス〕(刑、零)

第三百二十六條第二 (本節ニ規定シタル犯罪ハ未遂犯タリトモ仍ホ罰ス可キモノトス)(刑、

公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シタル重罪及ヒ輕罪

要旨

第六百二十五號 本章ニ論スル犯罪ノ三様ノ目的ニ據リ其區別ヲ立テタル事

第一節 公益ニ對スル官吏ノ重罪及ヒ輕罪

第三百四條

第六百二十六號 本節ノ犯罪ノ稀ナル事、其國事犯ノ性質ヲ帶フル事

第六百二十七號 通謀ノ場合ニ於テ加重ヲ爲ス事

第三百五條

第六百二十八號 逆徒ト通謀シタル官吏ノ犯罪ハ共犯トシテ之ヲ罰シ從犯トシテ罰セサル事

第三百六條

第六百二十九號 公力ノ有罪ナル使用

第三百七條

第六百三十號 通謀シタル辭職

第三百八條

第六百三十一號 停止又ハ終了シタル職務ノ不當ノ繼續

第六百三十二號 職務ノ橫領即チ僭奪

第三百九條

第六百三十三號 府知事及ヒ縣令ニ禁止シタル商業

第二節 官吏身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第三百十條

第六百三十四號 權力ノ濫用ヲ爲シテ命令若クハ禁止ノ處分ヲ行フタル事

第三百十一條

第六百三十五號 擅恣ノ逮捕

第六百三十六號 不法ノ拘留

第三百十二條

第六百三十七號 命令者ニ對スル加重ノ事

第三百十三條

第六百三十八號 監獄ノ看守長囚人ノ不法ノ領取及ヒ拘置ヲ爲シタルノ刑

公クノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

第三百十四條

第三百三十九號 不法拘置ノ制止ヲ爲サ、ル事

第三百十五條

第三百三十九號ノ二 囚人ニ對スル凌虐ノ所遇

第三百三十九號ノ三 火災若クハ水災ノ場合ニ於テ囚人ヲ解放セス因テ死ニ致シタル事

第三百十六條及第三百十七條

第三百四十號 拷問廢止ノ刑法上ノ制裁

第三百十八條

第三百四十一號 裁判否拒ノ罪、其危害、其構造ノ性質

第三百十九條

第三百四十二號 行政官吏又ハ裁判官賄賂ヲ收受シタルノ罪

第三百二十條

第三百四十三號 刑事ニ於テ本案ノ裁判ニ關シ裁判官賄賂ヲ收受シタルノ罪

第三百二十一條

第三百四十四號 偏頗又ハ怨恨ニ因リ不法ノ裁判ヲ宣告シタル事

第三百二十二條

第三百四十五號 贈賄者ノ刑

第三百二十三條

第三百四十六號 沒收○收受シタル金額ノ現存セサルモノヲ罰金ニ代フル事

第三節 官吏、國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第三百二十四條

第三百四十七號 國ノ財産ノ盜奪、官吏其他國ノ財産監守ヲ任セラレタル屬吏ニ對シ刑

ヲ加重シタル事

第三百二十五條

第三百四十八號 官吏其職務ニ關スル處置ヲ爲スニ對リ收得又ハ求索シタル不正ノ利益

第三百二十六條

第三百四十九號 官吏收斂ノ罪附法律ノ沒收ヲ命セサル理由

第三百二十六條第二

第三百五十號 未遂犯ノ處刑

〔第三百二十五號〕 本章ハ犯人ノ身分ト其豫定スル所ノ犯罪ノ類別多キトニ因リテ大ニ緊

公クノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

要ナルモノトス是レ則チ三箇ノ目的ニ基ヒテ設ケタル普通犯罪ノ區別即チ公益、一般ノ利益ニ對スル犯罪、身體ニ對スル犯罪、財産ニ對スル犯罪ノ三種ノ區別ニ應シ本章ヲ分テ三節ト爲シタル所以ナリ

然リト雖此區別ハ搜索便利ノ爲メ理論上ノ指示タルニ過キスシテ純然之ニ依循スルヲ能ハサルナリ若シ一ニ之ニ依循セントセハ併記スルヲ至當トスルノ事モ之ヲ分離セサルヲ得サルヘシ○例ヘハ法官ノ被告人ヲ害スル判決ヲ宣告セシカ爲メニ賄賂ヲ收受シタル者ハ人ノ身體ニ對スル罪ヲ犯スモノナルニ其被告人ノ爲メニ賄賂ヲ收受シタルハ公益ニ對スル罪ヲ犯スモノナルカ如シ又之ト同シク刑事ニ於テ賄賂ヲ收受シ以テ被告人ニ不利ナル不法ノ判決ヲ宣告シタル者ハ人ノ身體ニ對スル罪ヲ犯スモノナレト民事ニ於テ所有權又ハ義務ニ係ル争訟ニ關シ賄賂ノ行ハレタルハ人民ノ財産ニ對シ法ヲ犯シタル判決ヲ爲シタルモノトス○又犯罪ノ損害ヲ及ホス所ノモノニ所謂公益タルヨリ寧ロ國ノ財産タルヲ往々之レ有リ然レト斯ク相ヒ接近セル事件ヲ分離シテ規定スルハ鎖末ノ極ニ失スルモノトス

第一節 官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第二百四條

〔第六百二十六號〕 本條規定スル所ノ犯罪ハ察スルニ頗フル稀レニ行ハル、所タルヘシ何ントナレハ官吏毫モ之ヲ犯スノ利益アルヲナク且ツ其目的ヲ達スルヲ難カルヘケレハナリ○抑モ官吏ハ法律ノ權ヲ使用スルヲ怠ルヨリモ寧ロ之ヲ使用スルニ傾向スル者ナリ然リト雖法律ノ公布及ヒ施行ヲ任セラレタル官吏(例ヘハ府知事、縣令ノ如キ)ノ權力ヲ減殺スル法律出テ、其官吏該法律ノ施行ヲ取扱ハシムルヲ遲延スルヲナキヲ保セサルナリ其官吏ノ職分ヲ缺キタルヲ單ニ懈怠ヨリ生シタルニ非ラスシテ故意ニ出テタルヲ要ス勿論其社會ニ及ホス直接ノ損害ニ至テハ懈怠ヨリ生シタル場合ニ於ケルモ故意ニ出テタル場合ニ於ケルト同一ナルヲ疑ナシト雖此懈怠ヨリ生シタル場合ニ於テハ道德上ノ罪惡大ニ甚ナク惡例ヲ示スノ危害モ亦タ恐ル可キヲ少シトス且ツ懲戒處分ヲ以テ其職ヲ免スルニ至ルヲ得ルカ故ニ其罪既ニ充分ナリ

又其職分ヲ缺キタルヲ故意ニ出テタルト雖此猶ホ其犯罪ハ輕罪タルニ過キス何ントナレハ政府ハ他ノ官吏ヲ任シテ其法律ヲ公布施行セシムルヲ得ルカ故ニ社會ニ及ホシタル害ヲ容易ニ補フヲ得ヘケレハナリ

夫レ斯クノ如ク法律規則ノ作用ヲ障礙スル所ノ官吏ハ原ト政府ノ目的ニ悖戾スルノ精神ヲ以テ事ヲ爲シタルモノニシテ其結果ハ政府ノ施政上ニ擾亂、妨害ヲ生スルニ在リ故ニ

其犯罪ハ其原由及ヒ結果ニ就テ之ヲ見ルニ國事犯ノ性質ヲ帶フルモノナリ是ヲ以テ本條處スル所ノ禁錮ハ輕禁錮ニシテ服役ナシ

以下第三百八條ニ至ルマテノ諸條ニ規定スル所ノ犯罪ニ付テモ亦タ同一ノ注意ヲ爲スヘシ

〔第六百二十七號〕 二名又ハ數名ノ官吏此罪ヲ遂ケンカ爲メ通謀シテ之ヲ犯シタルキハ本法其刑ヲ加重シ以テ其宜キヲ制シタリ何ントナレハ此場合ニ於テハ社會ニ害ヲ及ホス一層大ナレハナリ○其官吏二人以上ノ同部同等ニシテ且ツ其管轄ヲ異ニスルキハ國內ノ更ラコ大ナル部分ニ犯罪ノ害ヲ及ホスト雖モ本法ハ敢テ行政官吏及ヒ陸軍士官ノ如ク其管轄ヲ同フスル場合ト此場合トヲ區別セス蓋シ二人ノ官吏ヲシテ法律ノ施行ニ關與セシムル場合ニ於テハ是レ畢竟其適正ナル施行ヲ確實ナラシメンカ爲メナリ然ルニ若シ其官吏其職分ニ背戻スルカ爲メニ通謀シタルキハ其害更ラニ大ナルヲ以テ其刑ヲ加重スルヲ至當ナリナス

第三百五條

〔第六百二十八號〕 本條論スル所モ亦タ職分ヲ行フヲ爲サ、ルノ犯罪ナリトス其刑、前條ニ比シテ一層嚴ナルハ之ヨリ生スル所ノ結果一層重大ナルカ故ナリ蓋シ暴動

抗官タル當初之カ防備ヲ爲シテ鎮撫セサレハ遂ニ其猛威猖獗ヲ致シ重罪ニ至ルヲアルヘキナリ

又官吏逆徒ト通謀シテ豫メ其無爲傍觀ヲ約シタル場合ヲ豫定シタリ而シテ之ヲ論スルニ暴動ノ共犯ヲ以テスヘキカ將タ從犯ヲ以テスヘキカヲ決スルハ困難ナキニ非ラサリ○蓋シ皮相視スレハ事ヲ爲スニ非ラスシテ只タ之ヲ爲サス所爲ノ罪アラスシテ無爲ノ罪アル者ヲ「共犯、共同犯」ト稱スルヲ難キニ似タリ○然レモ法文ハ之ヲ以テ共犯ナリト認定セリ何ントナレハ事實ハ名稱ヨリ重要ニシテ無爲ハ則チ「無的ノ事實」ナレハナリ且ツ共犯ト從犯トノ差別ハ其黨與ノ犯罪ヲ遂クルニ「必要」ナルト單ニ「有益」ナルトノ情狀ニ從テ之ヲ定ムルモノナリ(第百十七條及ヒ第百二十二條第二ヲ看ルヘシ)而ルニ官吏故意ヲ以テ暴動ノ鎮制ヲ爲サ、リシキハ一時其成就ヲ確保シタリシヤ明カナリ無爲ヲ以テ共犯トシテ之ヲ罰スルノ場合ハ既ニ數多之レアルヲ見タリ(第二百七十條及第二百七十九條並ニ第二編第三章ノ二、第六條及第十二條ヲ看ルヘシ)本條ノ刑ハ前條ニ於ケルト異ナリテ官吏ノ間ニ通謀ヲ爲シタルニ因リ之ヲ加重セス是レ畢竟其刑既ニ輕罪刑ノ最モ重キモノニシテ裁判官常ニ其最長期(五年)ヲ言渡シ又最長期ニ近キ期限ヲ言渡スヲ得ルカ故ナリ

官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第三百六條

〔第六百二十九號〕 官吏ノ犯罪本條ニ假定スル所ノ重度ニ至リタルモノハ其未タ第三百二十四條乃至第三百三十七條ニ豫定シタル犯罪ノ一タラサル時ト雖モ別段ノ重罪トナルモノナリ

蓋シ第三百二十四條乃至第三百三十七條ハ此等數條中ニ豫定セル重罪ノ性質ヲ悉ク具備スル時ノ外官吏ニ適用スヘカラス唯タ本條處スル所ノ重輕禁獄ノ二刑ヨリ一層重キ刑ニ處スヘキ時ニ於テノミ之ニ適用スヘキモノトス

第三百七條

〔第六百三十號〕 此罪ヲ構造スル性質數多アリ

第一 官吏二人若クハ數多ノ通謀アリタルヲ要ス故コ官吏一人ノ辭職ハ假令ヒ惡意ニ出ルキト雖モ之ヲ罰スヘキコ非ラス何ントナレハ一己ノ辭職ハ原ト天稟ノ能力ヲ行フモノニシテ且ツ其惡意毫モ外コ顯ハレサルカ故コ人心ヲ憤怒セシメ權威ノ濫用ニ涉ル探偵ヲ爲スニ非ラサレハ之ヲ搜索スルコ能ハサルヘケレハナリ之コ反シ合同ノ辭職ヲ目的トスル通謀ハ純粹一人一個ノ所爲ニ非ラスシテ外顯ノ所爲ニ依リ相互コ意思ノ影響ヲ及ホスル故コ其害更テ大ニシテ且ツ危險ナリ容易ニ惡意ノ傳播ヲ得可キナリ

第二 犯人ノ意思管ニ其職ヲ辭スルノミニ在ラスシテ公務ノ成就ヲ妨ケントスルニ在ルヲ要ス是レ本條ニ「故意ヲ以テ」ノ語ヲ以テ示ス所ナリ

第三 合同ノ辭職一時公務ニ阻滯ヲ生シタルヲ要ス故ニ若シ實際公務ヲシテ錯雜ナラシメタルニ過キス敢テ之ヲ阻止セサリシキハ其罪ヲ遂ケサルモノトス而シテ本法ハ爰ニ未遂犯ヲ罰セサルカ故ニ之ヲ不問ニ附ス可キナリ

第三百八條

〔第六百三十一號〕 此罪ハ殆ント前條論スル所ノ罪ノ反對ナル者ナリ即チ惡意ヲ以テ職務

ヲ辭スルニ非ラスシテ停止又ハ免セラレタル職務ヲ不正ニ執行又ハ繼續シタル事是レナリ○然レモ意欲即チ意思ニ關シ注意スヘキノ差異アリトス即チ本條ノ犯罪ヲ罰センコハ本人其停職若クハ免職ヲ知リタルヲ以テ足レリトシ敢テ公務ヲ妨害スルノ意思アリタルヲ必要トセス是レ蓋シ辭職ノ場合ニ於ケルカ如ク自己ノ能力ヲ行フ者ニ非ラサレハナリ○原草案ニハ官吏ノ單ニ停職ヲ被フリタル場合ト免職又ハ辭職ノ場合トヲ處スルニ同一ノ刑ヲ以テセリ○然レモ免職又ハ辭職ノ場合ニハ罪犯最早官吏タラサルカ故ニ之ニ責ヲ歸スルノ所爲ヲ行フニ付キ一層資格ニ乏シキヲ以テ其刑モ亦一層嚴重ナラサル可カラス或ハ此犯罪タル官吏「其職務ノ執行ニ關シ」犯シタル罪ニ非ラサルカ故ニ本章ニ規定スヘ

官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

キモノニ非ラストノ駁論ヲ唱フル者アリト雖ヒ敢テ取ルニ足ラサルナリ本章中ニハ其職務ノ執行ヲ爲スニ方リ」犯シタル犯罪モ亦タ併セテ規定セサルヘカテサルヲハ後段ニ至リ之ヲ見ルヘシ

〔附言〕 第二百六十四條第二ニ於テ官職ヲ借奪セシ者ノ刑ヲ定ムルコ方リ停止セラレタル職務ヲ不正ニ續行スル者ト同刑タルヘシト認メタリ(第二百六十四條註第五百七十一號)然レヒ寧ロ全ク官吏タルヲ止息シタル者ト同一ノ刑ニ處スルヲ至當トスルカ如シ蓋シ第二百六十四條第二ニ於テ停職ノ場合ト同一ノ刑ヲ定メタルハ其際未ダ本條ニ改正ヲ加フルヲ判然タラサリシニ由ル○或ハ今ニ至リテモ更ラニ官職借奪ノ刑ヲ加重スルヲ容易ナルヘシト雖ヒ其詐欺忽チ發覺シ易ク從テ社會ニ害ヲ及ホスヲ甚ナキヲ觀察スレハ此罪タル固ト輕躁ニ出テタルモノナルヤ明カナリ故ニ敢テ其刑ヲ加重セス

〔第六百三十二號〕 又本案ニハ官吏自己ノ職ニ非ラサルノ職務ヲ橫領、借奪シタル者ノ刑ヲ補載シタリ然レヒ之ニ刑ヲ施スカ爲メニハ三個ノ條件具備スルヲ必要トス即チ第一事理ヲ知了シテ借奪ヲ行フタルヲ要ス然ルニ管轄ノ事ニ關シテハ錯誤謬差ニ陥リ易ク其宥恕スヘキヲ甚ダ多キモノナリ第二其借奪ニ比シ一層重大ナル害惡ヲ防クカ爲メ已ムヲ得タルニ非ラズシテ之ヲ行フタルヲ要ス然ルニ管轄ノ事ニ關シテハ錯誤謬差ニ陥リ易ク其宥恕分チ行フタルカ如キハ則チ已ムヲ得サルニ出テタルモノトス第二借奪ニ因リ行フタル處分ノ命令又ハ禁止處分タルヲ要ス是レ其橫奪ノ爲メニ公衆又ハ一人ノ自由ヲ障礙シ往々其處分ノ正當ナルト不正ナルトヲ爭フノ力ナキ者ヲ苦シメタルヲチ假定スルモノナリ故ニ單ニ告諭ヲ爲シタルカ如キハ文書ヲ以テシタルヒト雖ヒ猶ホ本刑ヲ施サ、ルナリ請願ヲ受理スルヲチ拒絕シタルカ如キモ亦タ同一ナリ况ンヤ規則ニ反シテ許可ヲ與ヘタルカ如キハ決シテ本刑ニ處ス可カラズ

第三百九條

〔第六百二十三號〕 本條ニ頗フル巨額ノ罰金ヲ以テ制裁トスル禁制ノ理由ハ一二ニ止マラス三様アリ第一官吏ハ其職務ノ爲メニ全時間ヲ供シ專ラ其心ヲ職務ニノミ用ユ可シト雖ヒ其意ヲ商業ニ用ユル者ハ必然其職務ヲ怠ル可シ第二官吏ハ私利ヲ求索シ貪婪ニ因テ人望ヲ失フ可シ第三殊トニ其官吏ハ自己ノ職務ヲ資トシ己レ一個ノミ知り得タル密事ヲ資トシ其處分スルヲ得ヘキ特殊ノ手段ヲ資トシテ商品ノ相場上自己ニ益アリテ他人ニ害アル可キ影響ヲ及ホス可シ

此最後ノ理由ハ就中最ニ主要ニシテ或ル商業即チ必要ニシテ毫モ闕クヲ能ハサル物品ノ商業ヲ其官吏ノ管轄内ニ於テ行フタル場合ノ外此犯罪ヲ構成セサル所以ヲ證明ス又此理

官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

由ニ據レハ其禁制ノ府知事縣令ノミニ關シ陸軍司令官並ニ局長及ヒ郡區長ニ關セサルノ所以ヲ了解スルヲ得ヘシ

〔附言〕 佛法典ニ於テハ陸軍司令官及ヒ「スー、プレフエー」我郡區長ニ當ルモ亦タ此禁制ヲ及ホス
(第百七十六條)

本條ニ指定シタル商品ノ列擧ハ制限シタルモノニシテ他ノ物品ニ及ホスヲ能ハサルナリ此犯罪ヲ構造スル元素ノ一ハ則チ此物品ノミナリ然レモ尙ホ「其他規則ニ於テ官吏ニ禁止シタル一切ノ商業」ヲ該列記中ニ加フモ敢テ妨ケアルコトナシ

〔附言〕 是レ頒布ノ法典ニ爲ス所ナリ(第百七十五號)然レモ我輩ハ充分此規則ヲ知ラサルカ故ニ斯クノ如ク汎博ナル文辭ヲ用キテ斯クノ如ク巨額ナル罰金ヲ制裁トスルヲ能ハス

然リト雖モ府知事縣令ハ之カ爲メ本條ニ禁スル商業ヲ除クノ外其他ノ商業ハ擧ク之ヲ行フヲ得ルモノト謂フ可カラス上段ニ開陳セル初二箇ノ理由ニ據リ全ク商業ヲ戒ム可キナリ○陸軍司令官ニ至テモ亦タ同様ナリトス○蓋シ此等ノ官吏他ノ商業ヲ爲スルハ必ス其上官ヨリ之ヲ止ム可キノ告諭ヲ受ク可ク尙ホ執拗ニシテ之ヲ止メサルハ其職ヲ免セラレ可クト雖モ罰金ニ處セラルハ有レ可カラス

本條ハ敢テ民法上ヨリ觀察テ下シ官吏ノ法ニ違フテ行フタル商業ニ係ル所爲ハ他人ニ對シ効力ヲ有スルヤ否ヤヲ論定スルニ及ハサルモノナリ蓋シ其所爲ノ無効ハ官吏ヨリ他人ニ對シ訟求スルコトヲ得サルモ他人ヨリ官吏ニ向ヒ訟求スルヲ得ルモノナリ是レ畢竟法律カ保護ヲ加ヘント欲スルモノ第三ノ人ナレハナリ

本條ニ處スル所ハ禁錮ニ非ラスシテ唯タ罰金ノ頗フル巨額ナルニ注意スヘシ是レ其犯罪タル不正ノ利得ヲ生スルコトアルヘキ貪慾ノ罪タルヲ以テナリ

〔附言〕 佛法典(第百七十六條)ニハ「此商業ニ屬スル需用品ノ沒收」ヲ爲スト雖モ本法ハ此極點ノ嚴例ヲ採用セズ

本法ハ官吏其耕作地ノ生産ヲ賣却スルヲ以テ商業ト看做サス此場合ニ於テハ所有者其生産物ヲ賣拂フハ商業ヲ爲スニ非ラスト云ヘル一般ノ原則ニ據ルモノナリ(佛商法第六百三十八條ヲ參看スヘシ)

本條律文ニ官吏ノ「耕作地」ノ生産物ト其「所有地」ノ生産物トヲ併セテ此禁止ノ例外ニ置キシハ之ニ屬スル所ノ土地ト其單ニ賃借シタル土地トノ生産ヲ包含セントノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第二節 官吏人ノ身體ニ對スル罪

官吏人ノ身體ニ對スル罪

第三百十條

〔第六百三十四號〕 本條ノ犯罪ハ未ダ「人身ノ自由ヲ害スルノ罪」ト稱スルモノ、一ニ非ラス何ントナレハ此罪ハ人ノ身体ニ束縛ヲ加フルヨリ寧ロ命令又ハ禁令ヲ下スヲ多クレハナリ○蓋シ禁令ヲ爲ス場合ニ於テハ亦タ權利ノ執行ニ有形ノ妨害ヲ加フルヲアルヘク又往々之レ有ルヲ果シテ眞ナリト雖モ行政上ノ禁制ハ公力ヲ用テ執行スルヲ得可キモノタルヲ原則トスルカ故ニ本條論スル所ノ犯罪ハ其禁制ノ執行方法ニ在ルヨリ寧ロ其不正ナルニ在リトス

然レモ其行フタル處分ノ不正ナルノミヲ以テ未ダ此罪ヲ構成スルニ足レリトセス尙ホ官吏其不正ナルヲ知リシヲ要ス

是レ本條ニ「專擅及ヒ惡意ヲ以テ」ノ語ヲ以テ示ス所ナリ○故ニ單ニ官吏ノ錯誤ニ出テタルモ其其重度ノ如何ニ拘ハラズ本條ノ犯罪ヲ構造セサル可ク唯タ一般ノ原則ニ據リ損害賠償ヲ爲サシメ且ツ其長官ヨリ譴責又ハ其他ノ懲戒處分ヲ爲スノミナリ

本條ニ於テハ總テ專擅ノ處分ヲ一般ニ論シタルナリ然レモ後ニ規定スル所ノ特別ノ場合ニシテ其刑ノ一層嚴ナル場合ニ觸ル、コナキヤ明カナリ例ヘハ租税ノ不法ノ徵收ヲ爲シタル場合ノ如キ是レナリ(第三百二十六條)○但シ此等ノ場合本條ノ限ニ在ラサルヲハ敢

テ明記スルコト及ハサルモノナリト認メタリ何ントナレハ「別段ノ規則一般ノ規則ヲ變スル」ハ法律ノ基本タル原則ナレハナリ

第三百十一條

〔第六百三十五號〕 本條以下ハ人身ノ自由ヲ害スルノ罪ヲ論スルモノナリ

治罪法ニ據ルニ豫審判事ヨリ發シタル令狀又ハ逮捕ノ命令書ナクシテ被告人ノ逮捕ヲ爲スハ原則ニ於テ禁スル所ナリ受刑者ニ至テハ自由剝奪刑ヲ言渡シタル裁判宣告書ニ據テ之ヲ逮捕シ又ハ之ヲ繫獄スヘキモノトス

被告人ニ付テハ現行犯ノ場合ニ於テ例外アリ現行犯ノ場合及ヒ之ニ准ス可キ場合ハ治罪法ニ之ヲ定ム(治罪法草案第百十四條及ヒ第百十五條)○此場合ニ於テハ豫メ豫審判事ノ命令書ナキモ逮捕ヲ爲スヲ得但成ル可ク速ニ其旨ヲ豫審判事ニ報告セサル可カラズ本條第一項ニ規定シ罰スル所ノ場合ハ官吏法律又ハ豫審判事ノ准許アラサルニ逮捕ヲ爲シタルニ在リ○本條ハ前條ニ於ケルト異ナリテ官吏ノ惡意ヲ以テ處分ヲ爲シタルヲ詳言スレハ逮捕ノ不法ナルヲ知テ其處分ヲ爲シタルヲ必要トセス蓋シ法律ノ眼ヲ以テ之ヲ觀レハ官吏ハ逮捕ニ關スル程式ヲ知ラサルヲ得サルモノトス故ニ其逮捕不法ナレハ則チ之ヲ稱シテ「擅恣」ノ逮捕ト云フ可キナリ○然リト雖モ故意ナケレハ犯罪ナシトスル原則

官吏人ノ身體ニ對スル罪

ニ據リ官吏ノ錯誤ニ因リ善意ヲ以テ現行犯ニ逢遇シタリト誤認シタルハ刑罰ヲ免カル可シトセサル可カラス但シ其善意ヲ證スルハ官吏ノ自カラ任ス可キ所ニシテ事實及ヒ法律ノ推測ヲ以テスレハ之カタメ不利ナルヘシ

〔第六百三十六號〕 擅恣逮捕ハ未ダ必スシモ拘留ニ至ルモノニアラス或ハ逮捕ヲ爲シタル者若クハ其長官又ハ豫審判事第一ノ訊問ヲ爲スニアリ其逮捕ノ不法ヲ認メ放免ヲ言渡スヲアルヘキナリ此場合ニ於テハ第一項ノ刑ヲ以テ處スルノミ〇然レハ反對ノ結果ヲ生スルヲ亦タ之レ有リ而シテ不法ノ逮捕ヲ存スルハ其罪更ラニ重ク擅恣ノ拘留即チ擅二人ヲ監禁スルノ罪トナルモノナリ

擅二人ヲ監禁スルノ罪ヲ犯シタル一私人ノ刑ハ第三編ニ之ヲ定ム(第二百五十九條以下)其刑ハ監禁時間ノ長短及ヒ其程度ヲ輕重スル所ノ其他ノ情狀ニ因リ異ナルモノトス
逮捕ヲ爲シタル官吏ヲシテ擅二人ヲ監禁スルノ責ニ任セシメノニハ單ニ不正ノ逮捕ニ次テ拘留アリタルノミナリ以テ足レリトセス尙ホ逮捕若クハ拘留ヲ辯明スル所ノ事實ヲ不當ニ證シタル其官吏ノ書面又ハ言語ニ依レル認定ニ基キ其拘留ヲ爲シタルヲ要ス其他逮捕ヲ爲シタル者自カラ其事實ノ性質若クハ模様ニ付キ錯誤アルヲ認メタル後猶ホ拘留ヲ止息スルヲ爲メ必要ナル處分ヲ爲シテモ亦タ擅二人ヲ監禁シタルモノナリトス

第三百十二條

〔第六百三十七號〕 原草案ニハ適法ノ命令ナクシテ逮捕ヲ爲シタル下役ヲ罰セシモ不法ニ命令ヲ下シタルノ場合ヲ豫定セサリシ是レ須ラク補填スヘキノ缺典ナリシ
本條ハ屢々行フタル單簡ニシテ且ツ原理ニ適シタル方法ヲ以テ此事ヲ規定ス即チ命令者ノ資格ニ基キ下役ニ責ヲ歸スヘキ逮捕若クハ拘留ノ刑ニ一等ヲ加ヘ以テ其刑ト爲セリ
本條ノ適用スル所ハ殊トニ豫審判事タルヘシ何ントナレハ逮捕狀ヲ發シ又ハ解放ヲ爲スヲ任セラレタル者ハ概シテ豫審判事ナレハナリ然レハ亦タ他ノ裁判官ニモ等シク適用スヘキモノナリ例ヘハ裁判所長訟廷ノ犯罪アリタルカ爲メ逮捕ヲ命令シ(治罪法草案第三百十一條及ヒ第三百四十二條ヲ看ル可シ)又ハ罰金ノ辨濟ヲ爲サ、リシカ爲メ逮捕ヲ命令シタルキノ如シ(前編、第二十四條及ヒ第二十八條)
佛法典モ亦タ本條ノ如ク甚ダ限制シタル場合ニ於ケルノ外法官ノ犯シタル此種ノ罪ヲ罰スルヲナシ唯タ其場合ノ少シク異ナルノミ(第百二十一條及ヒ第百二十二條ヲ看ル可シ)

第三百十三條

〔第六百三十八號〕 監獄ノ看守長不法ノ拘留ヲ爲シタル者ニ對シテハ其人ノ逮捕ヲ爲シタル本犯ニ對スルヨリモ本法ノ更ラニ嚴ナルヲ訝カル者アラフ其嚴ナル所ノ點ハ司獄官吏
官吏ノ身體ニ對スル罪

ノ罪ハ必ス擅恣拘留ノ罪ヲ以テ論スルニ因リ其刑ハ不法逮捕ノ刑ヨリ更ラニ重キニ在リトス而シテ其嚴ナル所以ヲ辯明スルコト敢テ難キニ非ラサルナリ何ントナレハ逮捕シタル人ヲ不法ニ領取シ以テ一時ノ逮捕ヲ多少繼續スル拘留ニ變スル者ハ即チ監獄ノ看守長ナレハナリ

抑モ人身ノ自由ヲ妨害スヘカラサルコトハ皆ナ同一ニシテ終始自己ノ權利ノ全部ヲ有シタル者ニ於ケルモ處刑又ハ未決拘留ヲ受ケ之ヲ奪ハレタル者ニ於ケルモ敢テ異ナルコトナシ故ニ監獄ノ看守長ハ不正ニ囚人ヲ領取セサルト之ヲ拘留セサルトニ付キ等シク注意ヲ用井サル可カラス

本條ノ罪ヲ構成スル要件ハ未決拘留ノ出獄期限又ハ刑期ノ滿限ヲ知リテ之ヲ出獄セシメサルニ在リ

蓋シ未決拘留ニ關スルキハ場合ニ依リ豫審判事又ハ裁判所ヨリ發スル所ノ假釋又ハ放免ノ命令ニ因リ其監禁ヲ解クモノトス又處刑ニ關スルキハ必ス入獄簿冊即チ囚徒名籍ニ其刑期ヲ記載セサル可カラス○是ヲ以テ看守長ハ必ス其囚人ヲ釋放スヘキ時日ヲ知ラサルヲ得ス故ニ不法拘留ハ殆ント必ス罰ヲ免カレサルモノナリ

第二百一十四條

(第六百二十九號) 本條ニ論スル犯罪ハ官吏其職分ヲ怠リ之ヲ守テサルノ罪ナリトス是レ既ニ屢々見タル所ニシテ就中第三百四條及ヒ第三百五條ニ出ルカ如シ

凡ソ司法警察ト行政警察トチ分ク警察官吏タル者不法ノ拘留アルヲ知レハ自カラ之ヲ解放セシメ又ハ管轄官ニ申告シテ之ヲ解放セシムルノ義務アルハ亦タ人身自由ノ一個ノ保護ナリトス

官吏中自カラ其拘留ヲ解放セシムルヲ得ル者ト他ノ管轄官ニ申告スルノ外權ナキ者トハ茲ニ列擧ス可キ場合ニ非ラス

然レモ私室監禁ニ關シテ論スレハ都テ法律ニ從ヒ現行犯ヲ檢證シテ裁判所ニ之ヲ訴フルコトヲ得ヘキ司法警察官吏ハ亦タ其現行犯ヲ制止スルコトヲ得ヘシト原則ニ於テ定ムルコトヲ得然リ而シテ私室監禁ナルモノハ繼續セル現行犯ナルコトヲ言テ俟タスシテ明カナリ故ニ司法警察官タル者之ヲ檢證スルヲ得ルニ過キスシテ之ヲ繼續セシメサルヲ得ストスルハ條理ニ違フト謂ハサル可カラス此場合タル恰モ警察官吏カ争鬭ニ遭遇シタル場合ト異ナラサルナリ蓋シ何人ト雖モ此場合ニ於テ該官吏ノ争鬭ヲ檢證スルニ前チ先ツ之ヲ制止スルヲ得ルノミナラス必ス制止セサル可カラサルヲ疑フコトアラサルヘシ

又行政警察官ハ殆ント皆司法警察官ヲ兼任スルモノニシテ其行政警察ノ職務ハ犯罪ヲ未

然ニ防キ之ヲ抑制スルニ在リ故ニ私室監禁ハ常ニ犯罪ノ性質ヲ帶フルヲ以テ之ヲ制止スルヲ得又其司法警察ノ職務ハ之ヲシテ其起訴ヲ請求スルヲ得セシムルモノトス然ルニ獄舎又ハ拘留場ニ於ケル不法ノ拘當ニ付テハ之ト異ナルヘキモノトス○此場合ニ於テハ其拘留ヲ以テ正當ナリトスルヲ推測トスルカ故ニ警察官ニ於テ拘留ノ不正ナルヲ確信シタルルキハ裁判所カ又ハ少クモ豫審判事ニ裁判上ノ判決ヲ要求シテ之ヲ解放セシメサル可カラズ若シ其處分ヲ爲サ、ルキハ該官吏ノ犯罪ト爲ルヘシ又茲ニ須ラク注意ヲ要スルヲアリ即チ本條ニハ官吏監禁若クハ不法ノ拘留アルヲ知リタルルキ現ニ其職務ヲ行フニ際セシヤ否ヤヲ區別セサル事是レナリ何ントナレハ警察ノ職タル繼續シテ間斷ナク行フト謂フモ不可ナキモノナリ故ニ警察官吏其家ニ在リテ自己ノ管轄ニ屬スヘキ犯罪事件アルヲ知リタル者ハ急速ヲ要スルルキハ直チニ之ヲ制止シ又ハ之ヲ確證セシムルノ處分ヲ行ハサルヘカラス

唯タ其現ニ職務ヲ執行セサリシヨリ生スルヲアルヘキハ官吏タルノ名分ヲ以テ處分スルカ爲メニ例ヘハ其徽章ヲ佩ヒ又ハ其補助ノ官吏ヲ要求スルカ爲メ必要ナル時間ヲ適法ニ得ルヲ能フルニ在リ○然レモ總カニ一日タリトモ公暇ヲ得タル官吏ニハ嚴ニ本條ヲ適用

大司カラス

第二百十五條

〔第六百二十九號ノ二〕 原案ニハ囚人ノ護送人若クハ看守人之ヲシテ白狀又ハ陳述ヲ爲サシムルヲ目的トシタル場合ノ外之ニ對シ凌虐ノ所遇ヲ爲シタルノ罪ヲ豫定セサリシ其之ヲシテ白狀又ハ陳述ヲ爲サシムルヲ目的トシタルノ場合ハ次ノ二條ニ於テ之ヲ定ム然ルニ頒布ノ法文ニハ原案ヲ以テ闕典アリトシ之ヲ補填シタリ(第二百八十條)○本案ニハ頒布ノ法典ニ摸倣シテ此追加ヲ爲スニ躊躇セサリシ是レ行フニ易クシテ顯ハル、ニ難キ權力ノ濫用ニ對スル囚人保護ノ趣旨ニ出ルニ由ル蓋シ囚人ハ往々獄則ニ抗抵スルヲ以テ其看守タル者ハ久シカラスシテ慈悲憐憫ノ情ニ乏シク其生來ノ資性ニ從リ或ハ暴虐ノ人トナリ或ハ怨恨ヲ挾ムノ人トナルモノナリ○是ヲ以テ本法嚴刑ヲ設ケテ囚人ニ對スル無情ノ所爲ヲ豫防シタルハ其當ヲ得タルモノトス

此場合ニ於テ囚人ヲ殺害シ又ハ毆打創傷ヲ加ヘタルルキハ頒布ノ法典ニハ本刑ニ一等ヲ加フルト雖モ本案ニハ此點ニマテ其嚴例ヲ用サズ普通法ノ刑ヲ以テ充分ナリト認メタリ〔第六百二十九號ノ三〕 又頒布ノ法典第二百八十一條ニハ水災若クハ震災ノ際囚人ノ看守其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ヲ罰スルニ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フト雖モ亦本條ニハ之ニ摸倣セス何ントナレハ此事實ヲ審案スルハ甚タ危險ナルヘ

官吏人ノ身體ニ對スル罪

ケレハナリ

實ニ此等ノ變災アルニ方リ監獄ノ看守人ハ何レノ時ヲ以テ囚人ヲ解放ス可キカ○蓋シ其時タル必スヤ囚人ノ生命ニ危害ノ切迫セル時ナルヘキヲ言テ俟タスシテ明カナリ然ルニ常ニ斯クノ如ク「口頭ノ約束ヲ以テ解放シタル」囚人ハ復歸セサル恐アリ假令ヘ獄舎ノ毀壞ナキモ仍ホ特殊ノ刑ヲ以テ此逃走ヲ罰スヘシトスルモ到底其恐レナキヲ能ハサルカ故ニ〔附言ノ一〕看守ハ此事ニ付キ深ク注意セサルヘカラス而ルニ若シ法律ニテ之ヲ罰スルヲ甚ク嚴ナルキハ遂ニ反對ノ極端ニ走り危害甚ク少キト雖モ猶ホ囚人ヲ解放スルニ至ルヲアルヘシ〔附言ノ二〕

〔附言ノ一〕 第七十九條ノ註解ニ本條ニハ此場合ヲ處スルニ特殊ノ刑ヲ以テスヘキヲ述ヘタリ(追加ノ部ニ就テ看ルヘシ)

〔附言ノ二〕 就中地震ニ至テハ前表ナキヲ以テ囚人ノ解放必ス或ハ早キニ過キ或ハ遅キニ過クヘキナリ

何レノ場合ヲ問ハス看守好シテ囚人ヲ此種ノ死ニ致スヲ假定スル能ハサルカ故ニ過失殺傷ノ問題ニ非ラサレハ起ルヲナカル可キナリ然ルニ頒布ノ法典ニ豫定セサル所ハ

本案ハ此點ニ付キ毫モ規定スル所ナキカ故ニ普通法ノ刑ヲ以テ前記ノ變災アルニ際シ犯シタル故意又ハ過失殺傷ノ罪ヲ處スルモノトス

第三百十六條及第三百十七條

〔第六百四十條〕 此二條ハ既ニ數年以來公然禁シタル拷問ノ廢止ニ刑法ノ制裁ヲ附シテ之ヲ確定スルモノナリ

此惡ムヘク嫌フヘキ豫審手續タル亦タ殆ント全歐洲諸國ノ法律ヲシテ久シク其体面ヲ損セシメタリシカ今復タ茲ニ其瑕瑾及ヒ弊害ヲ論スヘキニ非ラス其瑕瑾及ヒ弊害ハ日本ニ於テ之ヲ論スルノ有用タリシ時詳言スレハ世論ノ未ダ拷問ヲ廢止スヘシト確定セサリシ時ニ方リ曾テ之ヲ論ジタリ

故ニ此所ニハ此偽證據法ノ苟モ文明國ニ於テハ存行スルヲ得サルモノニシテ法理ノ全ク之ニ反スルヲ述フルヲ以テ足レリトス蓋シ假リニ苦痛ハ被告人ヲシテ其行ハサル犯罪ノ白狀ヲ爲サシムルノ恐レナキモノトスルモ亦タ「何人ト雖モ強テ自カラ己レノ罪責ヲ證言スルニ及ハサル」ノ理ヲ認メサル可カラズ此理タルヤ被告人ニ自カラ己レテ辨護スルノ權アルヲ認ムル以上ハ則チ明白ニシテ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ蓋シ若シ一人ニシテ己レテ辨護スルノ權利ト己レテ論告スルノ義務トヲ併有ストスレハ極メテ牴牾矛盾スル

官吏ノ身體ニ對スル罪

モノト謂ハサル可カラス

或ハ拷問ハ既ニ他ノ證據ニ因リ有罪ト確認シタル者ニ對スルノ外之ヲ用ヒサル時ハ則チ條理ノ立ツ可キモノナリト言フト雖モ決シテ右ノ證據ヲシテ薄弱ナラシムルモノニ非ラズ○實ニ若シ他ノ證據ニシテ既ニ犯罪ノ心證ヲ資ルニ充分ナリト看做スルハ未ダ之ニ對シ言渡シタル所ノ刑ニ非ラサル苛酷ノ苦痛ヲ之ニ加フルヲ無用ナリ若シ又之ニ反シテ既ニ提舉シタル證據ノ未ダ裁判官ノ心證ヲ資ルニ足ラサルハ裁判官強ヒテ被告人ヲシテ自ラ己レノ罪證ノ足ラサル所ヲ補ハシムルノ權利アラサルナリ

又拷問チ是トスル舊論者カ其更ラニ條理ニ適セリト信シタル一他ノ場合アリ即チ被告人一人乃至數人ノ從犯チ有シタル充分ノ證據アリテ而シテ唯タ其從犯ノ其人ニ相違ナキヤ否ヤチ知ルノ一點ニ止マルノ場合はレナリ○然レモ此場合ニ於テモ猶ホ被告人チ強テ其從犯ニ對シ罪責ヲ證言セシムルハ社會及ヒ其代理タル裁判所ノ權利チ有セサル所ナリ且ツ被告人ノ證言ハ其被告人ニシテ殊トニ有罪ト確認セラレタルノ一事チ以テ當ニ之ヲ疑フ可キナリ何ントナレハ其者ハ自己ノ怨ニ報ヒンカ爲メ或ハ從犯ト看做サレタル者ノ身分ニ因リ自己ノ責任チ減少センカ爲メ無辜チ罪スルニ於テ利益チ有スルヲアルヘケレハナ

是ヲ以テ裁判所ハ道義ト性法ニ於テ可認スル所ノ方法ニ依ルニ非ラズンハ決シテ其證據ヲ求ムルヲ爲ス可カラス○斯クノ如クシテ或ハ二三ノ罪人其罪ノ刑罰チ免カレ、トアリトスルモ無辜ニシテ其犯サ、リシ冤罪ノ爲メ罰セラル、者アルニ比スレハ社會ノ害極メテ尠少ナリトス○且ツ拷問チ廢止シタルニ因リ自カラ本邦ニ於テモ亦タ他國ニ於ケルカ如ク往時裁判官ノ心證ヲ資ルニ必要ナリシ法律上ノ證ト稱シタル證據ノ廢止チ爲サ、ルチ得サルニ至リタリ故ニ今日裁判官ハ其心證ヲ作りタル所ノ證據ノ方法如何ニ拘ハラズ其良心ト靈智トニ從ヒ判定チ爲シタルハ何人ニ對シテモ之ヲ報告スヘキノ責アルヲナク後ニ至リ豫定スルカ如ク其認告ニ付キ誠實チ缺キタルト雖モ猶ホ裁判所ニ對シ責任ヲ負フヲナシ(參照治罪法草案第六十條)

第三百十七條ノ實行シタル凌虐ノ所遇ニ對スルヨリ凌虐ノ所遇チ爲サントノ脅迫ニ對シ更ラニ寛ナルハ道理ノ當然ナリ

何レノ場合ニ於テモ拷問又ハ恐嚇手段チ用ヒタルカ爲メ實際白狀又ハ陳述アリタルト否トチ區別セサルモノトス

第三百十八條

〔第六百四十一號〕 本條ニ豫定シ罰スル所ノ犯罪ハ之ヲ稱シテ「裁判拒」ト云フ○凡ソ裁判

官吏ノ身體ニ對スル罪

官其裁判ス可キ職分ヲ缺キタル者ニ對シテハ法律ニ於テ幾許ノ嚴格ヲ示サ、ルヲ得サルモノトス何ントナレハ民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テハ道德上又ハ金額上ノ重大ナル利益ノ關係スルヲアレハナリ且ツ若シ人民成ル可ク迅速ニ裁判所ノ判決ヲ得ルヲ能ハサルキハ遂ニ自カラ己レノ裁判ヲ爲スニ至ルノ恐アル可シ是レ社會全体ノ構成ニ反スルモノナリ一佛法典ニ於テハ此點ニ付キ數多ノ法例アリ其一ハ民法(第四條)ニ出ツル所ニシテ裁判否拒ノ罪ノ性質ヲ定メ其二ハ訴訟法(第五百六條乃至第五百八條)ニ出ツル所ニシテ之ヲ證明スルノ方法ヲ示シ其三ハ刑法(第八十五條)ニ出ツル所ニシテ此罪ヲ罰スルモノナリ何レノ部内何レノ階級ニ屬スルヲ問ハス成ル可ク各部ノ區域ヲ擴メ以テ凡ソ裁判官タル者ハ都テ裁判スヘキノ職分アルノ意ヲ示セリ故ニ本邦他日商法裁判官ヲ置クキハ商法裁判官ハ「民事」裁判官ノ部ニ屬ス可シ又輕罪及ヒ違警罪裁判官ハ言ヲ待タスシテ「刑事」裁判官ノ部ニ屬スヘキヲ明カナリ又海軍裁判官ハ「陸軍」裁判官ノ部ニ屬スヘキナリ

〔附言〕 若シ本邦海軍ノ際ニ方リ戰利法院ヲ設クルヲアラハ本條ニ就キ觀察ヲ下セハ民事裁判所ト看做サンヨリ寧ロ行政裁判所ト看做ス可キナリ

又本條ノ律文ニハ特ニ裁判官ノ管轄邊ヲ以テ之ヲシテ判決ヲ爲サ、ルヲ許スモノニ非ラ

又ハ拒絕ヲ爲シタルヲ必要トス

又ハ拒絕ヲ爲シタルヲ必要トス
 斯クノ如ク司法部ノ官吏ニシテ他ノ者ニ督責ヲ爲スノ權ヲ有スル者ハ必ス司法部ノ構成ニ關スル法律及ヒ規則ヲ以テ充分精詳ニ之ヲ定メサル可カラス○蓋シ各裁判所ノ檢察官斯クノ如キ命令ヲ爲スノ資格アル可キヲハ今ヨリ之ヲ定ムルヲ得是レ理ニ於テ當ニ然ルヘキ所ナリ何ントナレハ檢察官ハ殊ニ一般ノ利益及ヒ裁判事務ノ運行整頓ニ關シテハ執行權ヲ代理スルモノナレハナリ又裁判所モ該命令ヲ爲スノ資格ヲ有スルモノトス大審院ニ於テスラ猶ホ司法卿ニ其指令ヲ乞フ必要トセス然レモ司法卿ハ固ヨリ自カラ其命令ヲ下シ又ハ大審院ノ檢事長ヲシテ之ヲ下サシムルヲ得ルヲ明カナリ
 其刑ニ至テハ被告人ニ對シ未決拘留アリタル所ノ事件ニ關スル時ニ非ラサレハ禁錮タラス是レ亦タ應報刑ノ純理及ヒ正義ニ照シテ是ナルニ方リ之ヲ用ユルモノナリ

第三百十九條

〔第六百四十二號〕 本法ノ官吏懈怠ニ因リ其職分ヲ闕キタル者ニ對スルヨリ貪慾ニ因リ之ヲ闕キタル者ニ對シテ更テニ頗フル嚴ナルハ道理ニ適從スルモノナリ○本條ニ於テモ亦タ裁判否拒ノ罪ニ係リ唯ク其原因ノ差異アルノミナルヲアリ又不法ノ處置ヲ行フタルヲ

官吏人ノ身體ニ對スル罪

アリ○若シ其不法ノ處置本節ニ論スル特殊ノ犯罪ニ係ルモハ其各本條ニ照シ其刑ノ本條ニ定ムル刑ヨリ更ラニ重キトハ之ニ從テ處斷ス可キナリ例ヘハ裁判官賄賂ヲ受ケ不法ニ未決拘留ヲ遷延シタル場合ノ如キ是レナリ此場合ニ於テハ其拘留擅恣拘留ノ罪トナリ第三百十二條ニ從テ罰スヘキモノナリ第三百十六條ニ豫定セル犯罪ノ如キモ亦之ニ同シ

第三百二十條

〔第六百四十三號〕 本條ハ特ニ刑事ノ裁判事件ニ關シ裁判官賄賂ヲ收受シタルノ罪ヲ論スルモノナリト雖モ亦タ前條ハ毫モ此事項ニ適用チ及ホスモノニ非ラスト信ス可カラズ左レハ本條ニテ特ニ豫定シタル所ニシテ「本案ニ付キ」判決ヲ言渡シ又ハ言渡スヘキ場合ヲ除クノ外都テ賄賂ヲ收受シタル場合ハ前條ニ據リ處斷スヘキモノトス是ヲ以テ豫審判事ノ判決ノ如キ前條ノ支配スル所ナリトス而シテ前條ニ於テハ本條ニ定メタル區別ヲ爲スコトナク其處分ノ被告人ニ不利ナルト利ナルトト問ハサルナリ但タ前既ニ開陳シタル所ノ格別重大ナル處置ニシテ特殊ノ刑罰アルモノハ此限ニ在ラス

〔附言〕 本條ニ本案ニ付キノ語ヲ加ヘシハ各條ノ適用ヲシテ一層詳ラカナラシメシカ爲メナリ

本條ニ於テモ亦タ前條ノ如ク先テ賄賂ノ目的ニテ賄賂又ハ約束手懸附シタルノ一事ニシ

罰シ敢テ之カ爲メ不法ノ處置ヲ爲シタルヤ否ヤト問ハス又其賄賂ノ適法ナル判決ヲ得ルヲ目的トシタルヤ將タ不法ナル判決ヲ求ムルヲ目的トシタルヤ其被告人ニ利ナルカ爲メナリシヤ將タ其不利ナルカ爲メナリシヤヲ區別スルコトナク等シク之ヲ罰ス○次テ交々其判決ノ被告人ニ利ナルト不利ナルトヲ豫定シ各箇ノ場合ニ付キ其刑ヲ加重セリ茲ニ須ラク注意ヲ要スルモノアリ即チ被告人ノ權利ヲ傷害シタル時ニ於テハ社會ノ權利ヲ傷害シタル時ニ於ケルヨリ法律ノ一層嚴格ナルヘキ事是レナリ是レ賄賂收受ノ如キ事項ニ於テ通則トスル所ナリ○又本條ニ於テハ偽證ヲ爲シタル者ニ對スルカ如ク有罪ノ裁判官ヲシテ其不正ニ被告人ヲ處斷シタル刑ニ反坐セシメ以テ一種ノ應報刑ヲ用ユルヲ見ルヘシ

第三百二十一條

〔第六百四十四號〕 本條ト前條トノ差異ハ不法ノ判決ヲ爲シタル所以ノ念慮ニ關スルモノニシテ即チ本條ニ於テハ貪慾ヨリ起リタルモノニ非ラス必ズ真正ノ裁判ト相ヒ容ルベク不能ハサル愛憎ノ情ヨリ起リタルモノナリ

本條ハ前條第一項ヲ適用セスシテ裁判官不正ノ判決ヲ言渡シタルモ外之ヲ罰セサルコトニ注意スヘシ○實ニ裁判官被告人ニ對シ愛憎ノ情アルモ其情ノ未タ不法ノ處置ニ依リ顯

官吏人ノ身體ニ對スル罪

ハレサル以上ハ之ニ其責ヲ歸スルヲ難カルヘシ然ルニ彼ノ贈與又ハ約束ノ聽許ニ至テハ未タ判決ヲ爲サスト雖モ既ニ其事ノミヲ以テ不法ノ處置ト爲スモノナリ

第三百二十二條

〔第六百四十五號〕 約束ヲ爲シ又ハ贈與ヲ爲シタル贈賄ノ本人受賄裁判官ト同一ノ刑ニ處セラル可キハ理ノ當然ナリトス或ハ此者ハ單ニ從犯タリト言フノ論者アレモ決シテ從犯タルモノニ非ラスシテ共犯タリ主タル正犯タルモノナリ又多クハ其犯罪ノ教唆者タルモノナリ○此場合タル證人賄賂ヲ收受シタル場合ト同一ナリ(第二百五十八條ヲ看ルヘシ)而シテ原案ニハ受賄ノ罪未遂犯ノ事ヲ遺脱セシカ茲ニ之ヲ追加セシハ此二者同一ノ點ヲシテ完全ナラシメンカ爲メナリ

且ツ官吏若クハ裁判官ニ賄賂ヲ贈リタル者ノ刑モ亦タ其賄賂ノ爲メニ生シタル結果ニ從ヒ其官吏若クハ裁判官ニ對スルト同様ノ區別アリ

第三百二十三條

〔第六百四十六號〕 賄賂トシテ附與シ且ツ收受セラレタル物件ノ沒收ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ之ニ因テ得タル物件ヲ沒收スヘシトノ一般ノ原則ニ適從スルモノナリ而シテ賄賂ノ事項ニ於テハ其贈與ニ箇ノ性質ヲ併有スルモノトス即チ贈賄者ニ付テ之ヲ觀レハ犯

罪ノ手段即チ其用ニ供シタル物件ニシテ之ヲ收受シタル者ニ付キ之ヲ觀レハ犯罪ニ因リ得タル物件ナリ然レモ只タ之ヲ提供シタルニ過キサレハ未タ之ヲ沒收セス之ヲ收受シタルニ至リ始メテ沒收スルカ故ニ其沒收ニ附セラレハ犯罪ニ因リ得タル物件ノ名義ニ由ルモノトス

此場合ニ於テ特別ノ嚴例タル所ノモノハ收受シタル賄賂價格ノ其儘發顯セサルモ之ニ等シキ金額ノ罰金ヲ科スル事是レナリ此法タル原ト佛蘭西法典第百七十七條ニ摸倣シタル所ナレモ之ニ比スレハ二箇ノ點ニ付キ較々寛ナリトス蓋シ佛法典ニ據レハ賄賂價格ノ二位ヲ以テ其罰金トシ且ツ其價額ノ實際收受セラレタルト單ニ約束シ而シ其約束ノ承引セラルトチ區別スルヲナシ是レ第二ノ場合ニ於テハ辨明スルノ難キ所ナリ何ントナレハ其承引シタル約束ハ毫モ義務ヲ生セサルカ故ニ受賄官吏ノ利益アラサレハナリ

〔附言〕 證人賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テハ沒收ノ事ヲ記載セサリシ然レモ偽證人ノ收受シタル有價物ヲ其儘發見シタルモハ普通法ニ依循シ犯罪ニ因リ得タル物件トシテ沒收ニ附スヘキヤ敢テ疑ヲ容レズ(第五十五條註解ヲ看ルヘシ)然レモ其儘之ヲ發見セサルモハ沒收ニ代フルニ罰金ヲ以テスヘカラス蓋シ此例外タル嚴法ヲ施スカ爲メニハ正條アルヲ要ス而ルニ證人ノ事ニ關シテハ其正條ナク又之ヲ設ケサルヲ可ナリトス

官吏人ノ身體ニ對スル罪

第三節 官吏、國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第三百二十四條

〔第六百四十七號〕 或ル論者ノ説ニ據レハ官ノ財産ヲ盜取シタル罪ハ一個人ノ財産ヲ盜取シタル罪ヨリモ當ニ嚴罰ニ處スヘキナリ何ントナレハ此罪ハ間接ニ一般國民ヲ害スルモノナレハナリト然レモ亦タ此盜罪タル世人一般ニ其害ヲ被フルモ各人其害ヲ被フルハ極メテ僅少ナル價格ニ過キサルヲ以テ社會ニ害ヲ及ホスヲ勘シト謂フヲ得ヘク加フルニ此盜罪タル或ハ犯人ノ道德ニ違背スルヲ表スルノ點モ亦タ少シト謂フヲ得ヘシ其故ハ官府ノ人タルコトハ一ノ想像ニシテ世人皆ナ必スシモ充分明カニ之ヲ解セサルヨリ或ハ其權利ヲ犯スコトヲ慎マサルコトアルヘケレハナリ

夫レ然リ然リト雖モ國庫又ハ官府ノ財物ヲ詐取スル時ハ公務ニ錯雜ヲ生スルヲ以テ少クモ尋常竊盜犯ト同等ノ刑ヲ加フヘキナリ
此等ノ説ハ既ニ第二百十條ノ註解ニ於テ既ニ之ヲ開陳セリ

然レモ官府ノ財産ヲ盜取シタル罪犯ノ原ト之ヲ防衛スヘキ者即チ其監守タルキハ其刑ヲ加重スヘキ所以ヲ解スヘキナリ蓋シ此場合タル雇人其家長ノ財物ヲ盜取シタルノ場合ト同様ノ位置ニ在ルモノニシテ且ツ監守ハ種々ノ特權ヲ有スルヲ考フレハ其不忠一罪甚ク

ク從テ其刑モ加重スヘキヲ解セサル可カラズ

佛法典ハ此點ヲ觀察スルノ極端ニ走り官府ノ財物詐取ノ本犯タル會計吏ヲ處スルコト恐ラクハ嚴苛ニ過キタリ該法ニ據ルニ詐取シタル金額ノ三千「フラン」以上ニ超過スルキハ有期徒刑ニ處シ加フルニ詐取金額ニ應シタル罰金ヲ科ス斯クノ如キハ嘗テ用ヒタルコトナキハ尋常竊盜犯ノ刑ニ二等ヲ加フルヲ以テ足レリトス是レ本條ニ定ムル所ナリ○以下説ク所ノ第二項ニ記載セル屬吏若クハ下役ニ係ルキハ等シク此嚴例ヲ用ユルト雖モ唯タ一等ヲ加フルノミ

〔附言〕 本條第二項ハ嘗テ第三百二十五條ナリシ然レモ此二箇ノ場合ハ甚ク相ヒ同シキカ故ニ之ヲ併記スルニ若カサルナリ而シテ木案第三百二十五條ニハ原案ニ脱漏セシ一箇ノ法例ヲ定ム

國庫又ハ官府ノ財物ノ會計吏ニハ往々屬吏又ハ下役ナルモノアリテ事務ヲ掌トリ長官其責ニ任ス此故ヲ以テ屬吏又ハ下役ハ公ケノ官吏ノ性質ヲ帶ヒサルナリ○若シ此等ノ者國庫ノ財産ヲ盜取シタルノ罪ヲ犯スキハ會計吏ト同様ノ嚴法ヲ以テ之ヲ罰スルコト能ハスト雖モ尋常刑ヲ以テ之ヲ罰スルハ亦タ爲シ難キ所ナリ是ヲ以テ本條ハ此點ニ付キ折衷ノ處

官吏、國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

分チ施セリ

本條ニハ此等屬吏若クハ下役、盜罪ノ正犯タルヲ假定ス其從犯タルニ過キサルキト雖モ其原則ハ同一ナリ即チ其正犯タルキニ比スレハ一等ヲ減シ處斷セラルヘキモノトス然レモ其資格ノ爲メニ一等ノ重キヲ加フルヲ以テ一等ヲ減スルモ其局尋常ノ盜罪犯ト同刑ニ處セラルヘシ

又本條ニハ該屬吏ノ使吏ヲ以テ之ト同一視シタルニ注意スヘシ是レ其使吏ハ官金ノ出納及ヒ殊トニ物品ノ出入ニ付キ本官會計吏ヨリ屬吏ニ與ヘタル信用ヲ分ツモノナルカ故ナリ

又本條ニハ「場合ニ依リ偽造ノ刑ヲ適用ス可キ旨ヲ附記シタリ蓋シ其之ヲ明記セシ所以ハ其盜罪ヲ犯シタル後偽造ノ罪ヲ犯シタルキハ其盜罪ヲ犯スチ容易ナラシメンカ爲メニ非ラスシテ之ヲ掩蔽シ刑罰ヲ免カレンカ爲メナルニ因リ其罪ノ程度ヲ減少スヘシト主張スル者ナキヲ保ス可カラサレハナリ然レモ道理ニ基テ之ヲ見レハ此理由タル以テ偽造ノ刑ヲ免カレシムルノ原由ト爲ス可カラス又之ヲ減スルスラ猶ホ得テ爲ス可カラサルモノナリトス加之ナラス盜罪ヲ行フタルノ後ニ至リ犯シタル偽造ニテモ豫メ決意シテ行フタルヲアルヘキナリ

第二百二十五條

〔第六百四十八號〕 本條論スル所ノ官吏ノ犯罪ハ原草案ニハ之ヲ規定セサリシ此罪タル亦タ國益ニ害ヲ及ホスモノナリト雖モ賄賂ノ場合中ニモ包含セス又前條ニ規定シタル竊取ノ場合中ニモ包含スルモノニ非ラス

茲ニ論スル所ノ不忠ノ罪ハ官物ノ盜罪即チ官ノ財物ヲ竊取シタル罪ニ比スレハ道義ニ戻ルヲ較々輕キモノナリ是レ其禁錮ノ前條ノ場合ニ於ケルヨリ短キ所以ナリ然レモ其詐僞タル行フヲ易クシテ發顯スルヲ難キカ故ニ社會ニ及ホスノ害ハ一層大ナリトス是レ罰金ノ多寡ヲ一定セスシテ不正ニ實得シタル利益ニ應セシメタル所以ナリ○其罰金タル沒收ヲ爲スヲ能ハサル時之ニ代フル所ノ罰金ヲ言渡スノ妨ケトナルモノニ非ラス

第二百二十六條

〔第六百四十九號〕 本條ニ規定シ處斷スル所ノ犯罪ハ歐洲ニ於テ「コンキユシヨン」(收斂罪)ト稱スル所ノモノナリ「コンキユシヨン」ト云ヘル詞ハ原ト拉丁語ヨリ來リタル所ニシテ不正ヲ行フタル權力ノ効ニ因リ虐取、^{エグレストレシヨン}覓得ノ義ヲ示スモノナリ

本條ハ犯人不正ニ徵收シタル金額ヲ私取セシメテ目的トシタルヲ假定ス故ニ會計吏職務ニ熱心スルノ方向ヲ誤マリテ國庫ノ利益ノ爲メ納稅者ノ納ムヘキ所ヨリ多ク徵收シタル

官吏、國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

其ハ縦令ヒ情ヲ知テ爲シタルト雖モ本條ノ刑ヲ適用スヘキニ非ラサルナリ
 然ルニ頗フル困難ナル一ノ場合現出スルコトアルヘシ例ヘハ佛國ニ於テ許多ノ場合ニ行ハ
 ル、カ如ク租稅官吏其徵收シタル稅金中ヨリ控除金ヲ受クル時即チ是レナリ斯クノ如キ
 場合ニ於テ法律ノ明文ナキモハ政府ニ納ムル租稅ヲ領取スルニ際シ不正ニ其控除金ヲ得
 タルモ其官吏ヲ本條ノ刑ニ處スヘキヤ否ヤヲ決スルコト容易ナラサルヘシ
 蓋シ道理ト納稅者ニ加フ可キ保護トニ據テ之ヲ觀レハ須ラク同一ノ嚴法ヲ以テ處斷スヘ
 キニ似タリト雖モ原案ニハ此場合ヲ豫定セス而シテ本法第二條ニ據ルニ何等ノ刑ト雖モ法
 律ニ指定セル犯罪ヲ豫定シ且ツ處斷スル明文アラサレハ之ヲ言渡スヲ得サルカ故ニ本案
 ニハ特ニ一項ヲ加ヘテ其同一ノ嚴法ヲ以テ處斷スヘキ旨ヲ明示セシ
 本法ハ佛國法(第七十四條第五項)ト異ニシテ茲ニ沒收ヲ設ケス又之ニ代フルノ罰金ヲ
 モ設ケサルニ注意スヘシ○其理由ハ不正ニ徵收シタル金額ハ納稅者ニ還附スヘキモノナ
 ルカ故ナリ

第二百二十六條第二

(第六百五十號) 又本節ニハ未遂犯ノ事ニ關シ須ラク補填スヘキノ闕典アリシ蓋シ本節ニ
 豫定セル犯罪ハ原ト財產ニ對スルモノナルカ故ニ其性質上其手段及ヒ其目的ニ據リ豫定
 シ罰スルヲ得ヘキ執行ノ着手アルヘキモノナリ○是レ官府ノ財產ノ盜取、詐取ニ付テハ
 顯然タル所ナリ又第二百二十五條ノ不忠ノ罪及ヒ收斂罪ニ付テモ其然ルヘキ所以ヲ解ス
 ルハ容易ナリトス

第三編 一私人ニ對スル重罪及ヒ輕罪

要旨

第六百五十一號 本編第二章ニ分チタル事即チ身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪並ニ財產ニ對スル重罪及ヒ輕罪ノ第二章ニ分チタル事

〔第六百五十一號〕 本編ヲ分テ二部ト爲シタルハ全ク至當ノ分別ナリトス

實ニ一私人ハ重罪若クハ輕罪ノ爲メニ様ニ害ヲ被フルコアルヘキナリ第一ニハ其有形若

クハ無形ノ身體詳言スレハ其身體及ヒ其名譽又ハ其位嚴ニ於テ害ヲ被フルコアルヘク第

二ニハ其財產即チ其資産ニ於テ害ヲ被フルコアルヘキナリ

是レ則チ本編第二章ニ分チタル所以ナリ

又其重輕罪ノ各類各種ニ因リ特ニ之ヲ一節ト爲シ以テ別々ニ之カ註解ヲ附ス

〔附言〕 前二編中數節ニ細別シタル諸章ニ於テ或ハ全章ノ法文ヲ擧トク記載シ次テ之

カ註解ヲ附シタルモノアリ(第一編第二章、第四章、第五章、第八章及ヒ第二編第六章及第九章)或ハ各節其法文ヲ擧テ別ニ之カ註解ヲ附シタルモノアリ(第二編第四章及第五章)

○其理由ヲ解スル敢テ難キニ非ラス蓋シ之ヲ併記セルハ其事項ノ相ヒ接スルコト甚タ緻密ナルカ故ニシテ之ヲ分離セシハ其關係ノ較々密ナラサルカ故ナリ其併記スヘキモノ

ヲ分離シ其分離スヘキモノヲ併記スルハ共ニ其不便ノ等シキモノナリ

第一章 身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一節 謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

謀殺

第三百二十七條 豫謀シテ故殺即チ故意ノ殺害ヲ爲シタルノ罪ヲ犯シタル者ハ「謀殺ノ罪」

ト稱シ死刑ニ處ス(刑、第二百九十二條○佛刑、第二百九十五條乃至第二百九十八條、第三百二

條)

承前

第三百二十八條 故殺ハ豫謀ナキト雖ヒ之ヲ行フニ先チ又ハ之ヲ行フニ方リ身體ノ支解

折割ヲ爲シ拷責ヲ用ヒ又ハ其他殘虐ノ所爲ヲ加ヘタルキハ亦タ「謀殺」ト稱ス(刑、第二百九十

五條○佛刑、第三百三條)

毒殺

第三百二十九條 死ニ致ス可キ性質ノ物品ヲ配劑シ以テ故意ノ殺害ヲ爲シタル者ハ豫謀ナ

キト雖ヒ「毒殺ノ罪」ト稱シ死刑ニ處ス(刑、第二百九十三條○佛刑、第三百一條、第三百二條)

他ノ重罪

第三百三十條 故殺ノ目的、他ノ重罪若クハ輕罪ヲ設備シ或ハ容易ナラシメ又ハ其重罪若

クハ輕罪ノ正犯或ハ從犯ノ逃走又ハ脱刑ヲ助クルニ在ルキハ亦タ死刑ニ處ス(刑、第二百九

十六條○佛刑、第三百四條第一項及第二項)

豫謀ノ故

第三百三十一條 凡ソ前諸條ニ記載シタル以外ノ故殺ハ無期懲罰ニ處ス但シ本法特ニ一

重キ刑又ハ輕キ刑ヲ制定シタル場合ハ此限ニ在ラス(刑、第二百九十四條○佛刑、第三百四條

第三項)

死ニ致シタル誘導

第三百三十二條 豫謀故殺ノ刑、毒殺ノ刑又ハ單純ナル故殺ノ刑ハ場合ニ從リ、人ヲ死ニ致

スノ意ニ出テ詐術ヲ以テシ且ツ惡意ヲ以テ直接ニ之ヲ死ニ致シタル所爲ヲ行フノ誘導ヲ爲

シタル者ニ適用スヘキモノトス但シ自殺ニ加功シタル罪ニ關シ第五節ニ定ムル者ハ此限ニ

在ラス(刑、第二百九十七條)

故殺ノ執行ニ際シ行フタル

第三百三十三條 人ヲ死ニ致スノ意ニ出テ前諸條ニ豫定シタル情況ノ一アリテ(其執行ニ

過誤ノ殺害)

際シ)偶然ニ因リ他ノ人ヲ死ニ致シタル者ハ恰モ故意ヲ以テ之ヲ行フタルカ如ク其殺害ノ

刑ニ處スヘシ(刑、第二百九十八條)

要旨

第六百五十二號 故意殺害ノ極重ナル事

第六百五十三號 豫定シタル故殺ノ種類ニ付キ佛法典ト日本法案トノ比較ノ事

第三百二十七條

第六百五十四號 故殺ノ罪責ニ及ホス豫謀ノ影響

身體ニ對スル重罪及ヒ輕罪 謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

第六百五十五號 豫謀ノ事ニ關シ起ル所ノ事實上及ヒ法律上ノ問題
第六百五十六號 何ノ故ニ本法ハ待伏ノ事ヲ掲ケサルカ
第六百五十七號 何ノ故ニ本法ハ故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ノ場合ノ外豫謀ノ情狀ヲ參酌

セサルカ

第六百五十八號 豫謀ハ犯罪構成ノ事實ナルカ將ク加重ノ情狀ナルカ
第六百五十九號 豫謀ハ法律上ノ宥恕及ヒ減輕ノ情狀ヲ排除スルモノニ非ラス
第六百六十號 諸般ノ故殺ノ種類ニ普通ナル注意ノ事

第三百二十八條

第六百六十一號 故殺ヲ行フニ先チ又ハ之ヲ行フニ方リ殘虐ノ所爲

第三百二十九條

第六百六十二號 毒殺ハ未タ必シモ豫謀ニ出ツルモノニ非ラス

第六百六十三號 何ノ故ニ毒殺ハ常ニ單純ノ故殺ヨリ一層嚴ニ之ヲ罰スルカ

第六百六十四號 毒殺罪構成ノ元素

第六百六十五號 毒物配劑ノ方法ハ敢テ論究ヲ要セサルモノナリ

第六百六十六號 施用シタル物品ノ性質

第六百六十七號 傳染病ヲ感セシメタルノ所爲

第三百三十條

第六百六十八號 他ノ重罪若クハ輕罪ニ附帶セル故殺ノ罪、佛法典ノ非難

第六百六十九號 本案ハ二罪ノ間ニ原因ト結果トノ關係アルヲ必要トス

第六百七十號 附帶ノ重罪若クハ輕罪故殺ノ目的タルキハ其既遂犯タルヲ必要トセス加
之謀試スラ猶ホ之ヲ必要トセス

第三百三十一條

第六百七十一號 故殺、死刑之廢止

第三百三十二條

第六百七十二號 直接ニ他人ヲ死ニ致シタル誘導ノ罪

第三百三十三條

第六百七十三號 死ニ致サント謀リタル人ニ非ラサル他ノ人此點ニ付キ佛法典ニ律條ナ
キ特殊ノ理由、何ノ故ニ日本ニ於テハ特ニ之ヲ規定スルヲ要スルカ

第六百七十四號 其刑罰ノ辨明、區別

第六百七十五號 原案ノ律文ニ短文ナリト雖モ重要ナル追加ヲ爲シタル事

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

〔第六百五十二號〕 夫レ生命ハ吾人カ吾人ノ同類ニ對シ尊重スヘキ財産中第一位ヲ占ムルモノニシテ其名譽及ヒ其自由ヨリモ一層貴重ナルヤ言ヲ竣タスシテ明カナリ蓋シ名譽及ヒ自由ニ加ヘタル傷害ニハ輕重アルヲ限ナシト雖モ生命ニ對スル傷害ニハ輕重アルヲナク且ツ殊トニ他ノ傷害ハ賠補スルヲ得ヘキモノナレモ生命ニ對スル傷害ニ至テハ之ヲ賠補スルヲ能ハサルナリ、

蓋シ社會開明ノ進歩愈々大ナレハ人命愈々貴重スヘキモノタリ何ントナレハ各人ノ重要ナルヲ社會ノ關係ト共ニ増加シ各人ノ生存ハ人類ヲシテ相共ニ接セシムル所ノ許多ノ關係ヲ保持スル環圖ニシテ之ヲ破フレハ必ス利益ト親愛トヲ害スルヲ著シケレハナリ〇既ニ社會及ヒ法律スラ猶ホ極重ノ罪人ニ生命ヲ奪フノ權アリトスルヲ非難スル者アルニ至リタリ是ニ由テ之ヲ見ルモ正當ノ原因ナク故意ヲ以テ其同類ヲ死ニ致シタルノ罪ハ至大ノ重罪ト看做サ、ル可カラズ

是故ニ故意殺害ヲ本章第一節ニ論シタルハ必然ノ理ニ出ルモノトス

〔第六百五十三號〕

佛法典ニ於テハ數多ノ情況アルニ方リテハ故意殺即チ故意殺害ノ罪ヲ加重シ都テ死刑ニ處ス其情況左ノ如シ

第一 被害者ノ身分、被害者ノ身分犯人ノ尊屬親又ハ親屬見タルヲアリ其新産兒タルモ

ノハ自己ノ子タルト他人ノ子タルトヲ區別セズ此際ニ於テハ其故殺罪ヲ稱シテ（尊屬親殺害ノ罪）單ニ殺害罪ト又ハ（嬰兒殺害ノ罪）單ニ殺害罪ト云フ（第二百九十九條及第三百條）

第二 決心ノ程度又ハ執行ノ際殘酷ナル程度（豫謀、待伏、拷責又ハ殘虐ノ所爲）此際ニ於テ

ハ其故殺罪ヲ稱シテ「謀殺ノ罪」ト云フ（第二百九十六條乃至第二百九十八條及第三百三條）

〔附言〕 此他尙ホ被害者ヲ死ニ致シタルノ方法死刑ヲ惹起スル所ノ場合ヲ加フルヲ得

ヘシ陰陽毀損ノ場合即チ是レナリ（第二百十六條）然レモ此所爲タル其實故殺ト稱スヘ

キ者ニ非ラス何トナレハ此場合ニ於テハ其殺害ノ故意ニ出テサルヲアルヘケレハナリ

第三 死ニ致スカ爲メ用ヒタル方法（毒物）此場合ニ於テハ其故殺ヲ稱シテ「毒殺罪」ト云フ

〔第三百一條〕

第四 他ノ重罪又ハ輕罪トノ附帶此場合ニ於テハ敢テ其故殺ニ特別ノ名稱ヲ附セズ（第

三百四條）本案ニハ零シテ「附帶ノ故殺罪」ト云フ

以上ノ區別ヲ爲スニ際シテ佛法典ハ順項、故殺、殺親罪、殺兒罪、豫謀、待伏、毒殺ノ定義ヲ示

シタリ

日本法案ハ數多ノ點ニ付キ該法ヲ摸倣セズ

第一 本案ハ定義少シトス而シテ其下ス所ノ定義ハ主格ヲ有セズシテ客格ヲ有ス

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

第二 本案ハ特別ニ殺兒罪ヲ罰セス是ヲ以テ被害者ノ年齢ノ外他ニ加重ノ理由アルニ非ラサレハ死刑ヲ以テ此故殺ヲ處斷スルヲナシ且ツ佛法典ノ此重罪ノ定義ハ意味晦澁ナリトス何ントナレハ第三百條ニ用ヰタル「新産兒」ナル詞ハ精詳ナラサルモノナレハナリ

〔附言〕 佛法ノ精神ヲ考フルニ「新産兒」(ヌーボウ、チー)ナル詞ハ未タ身分取扱役ニ出產ヲ申述セス且ツ其申述ヲ爲スヘキ三日ノ期限未タ經過セサル兒子ヲ指スモノナルヤ疑ナシ(伊太利刑法草案第三百七十四條第二項對照)

第三 本案ハ更ラニ二種ノ故殺ヲ豫定シ之ヲ處斷ス蓋シ其一ハ明文ナクシテ罰スルヲ難キモノト認メタリ(第三百二十二條)又他ノ一モ普通ノ故殺罪中ニ包含セントセハ困難ナキヲ能ハサルモノナリ(第三百二十三條)

且ツ本案モ亦タ豫謀シ又ハ殘虐ノ所爲ヲ用ヰテ犯シタル故殺罪、毒殺罪及ヒ殺親罪ヲ處スルニ其刑ヲ加重シ死刑ヲ以テス○殺親罪ニ至テハ以下數節ノ後ニ於テ尊屬親ニ對スル自餘ノ重罪及ヒ輕罪ト共ニ之ニ規定ス(第九節)

第三百二十七條

〔第六百五十四號〕 本案ハ此短文ナル律條中ニ「故殺」ノ定義ト「謀殺」ノ定義トノ二箇ノ定義ヲ併セテ掲載セリ然レハ佛法典(第二百九十條及ヒ第二百九十八條)ノ如ク之ヲ以テ特ニ

一條ノ目的ト爲サス唯タ之ヲ附記スルノミニシテ直ニ豫謀ニ出テタル故殺罪ノ刑ヲ定メタリ

又豫謀ノ定義ニ至テハ敢テ之レヲ下サス何トナレハ豫謀ノ文字ノミニ據テ之ヲ見ルモ充分其性質ヲ解スルヲ得ヘケレハナリ蓋シ豫謀トハ「所爲ニ先チタル決意」ナルヤ言ヲ竣タスシテ明カナリ例ヘハ凶器ヲ購求シ又ハ之レヲ準備シタルノ所爲、被害者ニ遇フ前ニ於テ之レヲ佩ヒ、之レニ對シ殺害ノ脅迫ヲ爲シタルノ所爲ノ如キ即チ是ナリ○然レハ此クノ如キ所爲又ハ少クモ殺害ノ脅迫ノ如キ外顯ノ所爲ニ依リ發顯セサル以上ハ豫謀アリト爲シ難キカ故ニ故殺犯ノ白狀ニ依リ後ニ至テ覺知シタル豫謀ハ毫モ之レヲ問フ可キコト非ラス

又本法ハ殺害ニ先チテ豫謀ヲ爲シタル時間ノ長短ヲ問ハサルナリ蓋シ其決意ノ充分所爲ニ先チテ罪犯ノ精神ニ熟考ノ良好ナル結果ヲ生シ得ヘキニ否ラスシテ却テ執行ニ至ルマテ其惡圖ヲ固執シ本法極度ノ嚴刑ニ處スルノ旨趣ト爲ル可キ最大ノ罪惡ヲ表スルニ足リ且ツ極メテ犯罪ノ遂行ヲ確保シ社會ノ害惡ヲ増加シタルヤ否ヤヲ判定スルハ事實裁判官法官又ハ向後定ムヘキ裁判規則ニ依リ陪審官ノ任スヘキ所ナリトス

〔第六百五十五號〕 然リト雖モ豫謀ノ事ニ付キ起ルヲアルヘキ困難ハ舉トク事實上ノ問題

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

タルニ非ラス純粹ノ法律ニ係ルモノアリテ其判定ハ獨リ裁判官ニノミ屬スヘキカ故ニ大
 審院ノ審判ニ附スルヲアルヘシ○例ヘハ毆打創傷ヲ豫謀シタルニ過キスト雖モ其所爲ヲ
 行フニ際シ剛強ナル抵抗ニ遇フテ遂ニ之ヲ死ニ致スノ意ニ轉シタル者ハ豫謀シテ人ヲ殺
 シタル犯者ト看做ス可カラス

之ニ反シ犯者ノ意思未必ノ件、尙ホ不確定ナル情况例ヘハ被害者高價ノ物件ヲ携帯スル
 カ某々ノ同伴スルアル歟又ハ己レニ對シ斯々ノ舉動ヲ爲ルカ如キ眞僞ノ疑ハシキ情况ニ
 依リ故殺ヲ行ハントスルニ在ルキタリトモ豫メ謀リタルモノト謂フ可キナリ○又故殺犯
 ノ意思ニ於テ未タ被害者ノ誰タルヲ定メサリシキト雖トモ所爲ノ前既ニ故殺ノ決意ヲ爲
 シタリシキハ豫メ謀リタル者トス例ヘハ逃走ノ囚徒カ第一ニ來リテ追捕セントスル公力
 者アラハ之ヲ死ニ致サント決意シ又ハ一人タリトモ己レヲ捕ヘントセハ之ヲ死ニ致サ
 ント決意シタルモノ如シ○佛刑法(第二百九十七條)ハ斯クノ如ク故殺罪ヲ行フニ付キ意
 思ニ條件アルモ豫謀シテ人ヲ殺シタル者トナスト明カニ之ヲ認メタリ

之ニ反シ故殺犯其被害者ニ逢遇スヘキ場所ナルヲ知リテ其所ニ行クニ方リ兇器ヲ携帯シ
 タルトキノ如キハ其平常該兇器ヲ携帯スト稱シ又ハ其襲撃セラレタル時自己ヲ防禦セン
 カ爲メ之ヲ携帯セリト稱スルヲアルヘキヲ以テ事實ノ問題ニ屬スルモノナリ

〔第六百五十六號〕

本案ニ於テハ「待伏」ヲ爲シテ故殺ヲ行フタルノ罪ヲ謀殺罪トシテ附記セ

サリシ然ルニ佛法典ニハ之ニ謀殺罪ノ名稱ヲ附シテ之ヲ記載セリ(第二百九十八條)○實

ニ待伏ハ竊カ^{スレトヤ}人ノ來ルヲ待テ以テ之ヲ死ニ致サントシ又ハ之ヲ毆打創傷セントスルモ

ノナレハ豫メ決意ヲ爲シタルヤ明カナルカ故ニ必ス豫謀ノ場合ト看做スヘキモノナリ○

我輩カ「竊カ」ト言フ所以ハ待伏ノ性質タル人ニ認メラレサルニ在ルカ故ナリ佛法典ニ

ハ此情况ヲ必要トセス、然リト雖モ顯然人ノ來ルヲ待ツモ竊カニ之ヲ待ツモ共ニ豫謀罪

ヲ構成スルモノナリ

〔第六百五十七號〕

本法斯クノ如ク重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ先チ其決意アリタルヤ否ヤヲ區

別スルハ故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ノ場合ノミニ在ルヲ須ラシク今ヨリ注意スヘシ蓋シ盜

罪、偽造罪、背信罪ノ如キ其他ノ犯罪並ニ公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪ノ大半ニ至リテハ豫

謀ニ出ルヲ殆ント必然ニシテ多クハ其行爲ト離ル可カラサルモノナリ是故ニ立法者豫謀

ヲ以テ其刑ヲ制定スルノ基礎ト爲シタルモノト看做サ、ル可カラス○良シ假リニ其犯罪

ヲ行ハントノ決意ヲ爲シタルハ之ヲ實行シタルノ際ニ在リトスルモ最短期ト最長期トノ

距離アルヲ以テ裁判官豫謀ノ情狀ヲ參酌スルヲ得ヘキナリ

之ニ反シテ故意ニ出テタル殺害及ヒ毆打創傷ハ法律ニ於テ常ニ甚タ重大ナル重罪又ハ輕

罪ト看做スモノニシテ其性質上甚ク異ナルニ様ノ精神意欲ニ因リ犯スヲアル可キ所ノモノトス即チ一ハ一時ノ激怒ニ因テ之ヲ犯シ一ハ積久ノ怨恨及ヒ憎惡ニ因テ之ヲ犯スヲアリ此第二ノ場合ニ於テハ嘗テ述ヘタル如ク其重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ付キ惡意極メテ深キヲ表シ其社會ニ及ホスノ害モ亦タ更ラニ大ヒナリトス何ントナレハ其罪ノ害ヲ加ハヘント謀ラレタル者ハ殆ント之ヲ逃ル、ト能ハサレハナリ是ニ由テ見レハ法律ノ自カラ其刑ヲ加重シタルハ條理ニ適スルモノト謂フヘキナリ

〔第六百五十八號〕 故殺及ヒ毆打創傷ノ豫謀ハ加重ノ情狀ナルカ將タ其罪ヲ構成スルノ元素ナルカニ至テハ佛國ニ於テ往々人ノ論議スル所ナリ此問題タル實際上ノ益ヨリモ寧ロ理論上ノ益多キ所ナリト雖モ陪審ニ問題ヲ附スルノ方法ニ於テ緊要ナルモノナリトス日本ニ於テハ治罪法中犯罪構成ノ事實ニ關スルモ加重ノ情狀ニ關スルモ陪審ニ問題ヲ附スルノ方法ヲ同様ニ規定シタリ故ニ此難事ハ殆ント消滅シタリト謂フ可キナリ(治罪法草案第四百七十八條乃至第四百八十條ヲ看ルヘシ)○然レモ理論上之ヲ論スレハ故殺罪ノ豫謀ハ謀殺罪ナル特別ノ重罪ヲ構成シ之ニ特殊ノ名稱ヲ附スルモ之ニ反シテ毆打創傷ニ付テハ此犯罪ノ加重情狀ニ過キスシテ特ニ其名稱ヲ變スル者ニ非サルヲ認ム可キナリ(實ニ故殺罪ニ付キ豫謀アルトキハ第二百二十七條ニ據リ死刑ヲ惹起スルモノナリ然ルニ

第七十九條ニ據ルニ死刑ハ加重ノ情狀ニ因リ逐次刑ヲ陞シ以テ之ニ至ルヲ得ヘキモノニ非ラス○故ニ強盜ヲ遂ケンカ爲メ被害者ヲシテ不治ノ痲疾ニ致シタル者ハ第四百二十六條第二項ニ據リ無期徒刑ニ處セラル、ニ過キス而シテ其暴行ノ豫謀ニ出テタルヲ證セラ、トアル可シト雖モ單ニ加重ノ情狀ニ因リ其刑ヲ加重シテ死刑ニ至ル可キニ非ラサルナリ

〔第六百五十九號〕 本法ニ於テ豫謀ニ出テタル故殺罪ノ爲メ制定シタル刑ニ付テハ敢テ茲ニ論スルヲ要セサルナリ○若シ死刑ニシテ其適用ノ一ニ付キ正當タラシメハ必スヤ罪犯激怒忿恚ニ出テタル宥恕ナクシテ他人ノ生命ヲ絶テタル場合ニ在リトス蓋シ激怒忿恚ハ往々人心ヲ惑亂シ自ラ抑制スルノ暇ナクシテ人ヲ殺スニ至ラシムルモノナリ故ニ未タ全ク死刑ヲ廢止スルニ至ラスト雖モ濫リニ之ヲ用ヒサルノ法制ニ於テモ謀殺ノ場合ニ在テハ之ヲ存行セリ蓋シ宥ニ他人ノ生命ヲ尊重セサルノミナラス亦タ其憎ム可キ所業ニ於テ沈思熟考シタル惡意ヲ表セシ者ノ生命ハ之ヲ尊重スルニ及ハスト信シタリ是レ應報主義ノ遺跡ニシテ碩學ナル法律家ト雖トモ多クハ猶ホ其正當ナリトスルノ謬感ヲ抱ク所以ナリ

〔附言〕 千八百十年佛刑法謀殺條ノ理由説明書中參事院議員「フォール」氏言ヘルアリ曰

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

ク「謀殺罪ノ刑ハ死刑ニシテ應報刑ナリ」ト而シテ同氏ハ其辨明ヲ爲サンコトナカメタリ然レモ本法定ムル所ノ此嚴刑ハ豫謀故殺ノ通常ノ性質ニ基ク所ニシテ或ル特別ノ場合ニ於テハ事實ノ情況ヨリ生スル減刑ヲ許サ、ルニ非ラス

例ヘハ二十歳以下ノ幼者ニ付キ年齢ニ關スル宥恕ヲ爲シ（第九十三條及第九十四條）又本夫其婦ヲ姦通現行犯ノ際ニ捕ヘ其婦又ハ其共犯ヲ死ニ致シタル者ニ宥恕ヲ與フカ如シ（第二百四十六條）○此等ノ故殺罪ハ豫謀ニ出テ、犯スコアル可ク又多クハ豫謀ニ出テ、犯スモノナリ例ヘハ本夫其婦ノ不品行ヲ確知シ又ハ單ニ其嫌疑ヲ懷キ兇器ヲ準備シ竊カニ其姦夫姦婦ヲ襲フコトヲ得ヘキ機會ヲ埃ツトキノ如キハ則チ故殺又ハ毆打創傷ヲ豫謀シタルモノナリ固ヨリ其意思ニ於テハ犯姦アリ且ツ其現行ヲ認メ始メテ故殺ヲ行ハント欲シタルコト論ヲ埃タスト雖トモ既ニ上ニ論述シタルカ如ク此情況アルモ豫謀ノ情質ヲ失ハシムルモノニ非ラス○故ニ本夫ノ刑ヲ大ニ減等スルハ畢竟法律上ノ宥恕ニ因ルモノトス之ニ反シ豫謀ニ出テタル故殺罪ニ付テハ挑唆ヨリ生スル法律上ノ宥恕ヲ見サル可シ（參看第三百四十二條）何トナレハ挑唆ハ之ヲ受ケ直チニ故殺ヲ行フタル時ノ外之ヲ宥恕スヘキ旨趣ト爲ラサレハナリ蓋シ挑唆ヲ受ケ直チニ故殺ヲ行フタルトキ之ヲ宥恕スルヲ得ヘキ所以ノモノハ犯人多少條理アル所ノ激怒ヲ抑制スルノ違アラサリシカ故ナリ然ルニ豫

謀シテ其故殺ヲ行フタルトキハ則チ怨恨ヲ挾ミ報讐ノ精神ニ出ルモノニシテ宥恕ヲ准スヘキノ限ニ在ラサルナリ

減輕ノ情狀ニ至テハ原ト變化極リナキ事實ニ關スルカ故ニ自餘ノ場合ニ於ケルカ如ク事實裁判官ノ認定ニ任ス

〔第六百六十號〕 本條ヲ說キ終ルニ臨ミ須ラク注意ヲ喚起スヘキモノアリ即チ謀殺罪ノ場合ニ於テモ亦タ自餘ノ故殺罪ノ場合ニ於ケルカ如ク生命ニ傷害ヲ加ヘタル時ヨリ致死ニ至リシ時間ノ遲速ヲ問ハサル事是レナリ蓋シ犯人ノ意思殺害ニ在リテ而シテ其所行ノ爲メニ死ヲ來シタルトキハ其罪既遂タルモノナリ

又其毆打創傷タル其被害者ニ非ラサリセハ不幸ノ結果ヲ生セサルヘキニ其年齢、不具若クハ虛弱ノ爲メ遂ニ之ヲシテ致命ノ重傷ヲラシメタルヤ否モ敢テ本法ノ問フ所ニ非ラサルナリ蓋シ此場合ニ於ケルモ亦タ他ノ故殺罪ノ場合ニ於ケルト等シク其犯罪ハ死去ノ原因タルモノニシテ而シテ犯人ハ總テ其犯罪ノ結果ノ責ニ任セサル可カラサレハナリ

〔附言〕 伊太利法案（第二百七十六條）ノ法規ハ其用語ノ意義汎博ナルヨリ此場合ニ於テ右ニ反對ノ論決ヲ來シ本刑ニ一等ヲ減スヘキノ似タリ

第三百二十八條

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

〔第六百六十一號〕 本案ノ法規ハ佛蘭西刑法(第三百三條)ニ模倣シタルモノニシテ該條豫定
 スル所ノ重罪タル千八百十年ニ於テハ甚ク罕レニ見ル所タルニ至リシモ千八百三十二年
 ニ於テ之ヲ保存セリ日本ニ於テ之ヲ取用スルハ敢テ益ナキニ非ラサルナリ
 抑モ佛蘭西第一共和政治ノ際ニ當リテヤ殆ント全國ノ正兵擧トク外役ニ用サレタリ故
 ニ行政及ヒ司法警察ノ充分ナラサルヲ以テ人体及ヒ財産ニ對スル重輕罪大ニ増加シテ實
 ニ慘狀ヲ極メタリキ加之兇徒結合シ兇器ヲ携帯シ隊伍ヲ成シテ諸州ニ横行シ最モ恐怖ス
 可キ掠奪ニ從事スル者アリテ屢々家宅ノ住人ニ迫リ藏匿シタル財貨ノ所在ヲ言ハシメン
 カ爲メニ或ハ其ノ足ヲ烈火ニ烙リ或ハ其ノ身体ヲ支解折割スルカ如キ實ニ戰慄ス可キ拷
 責ヲ加ヘタリ○佛刑法第三百三條ハ此類ノ重罪ノ爲メニ編纂シタルモノナリ○然レトモ
 特ニ之カ爲メニ一條ヲ設ケタルノ必要ハ明白ニ非ラス何トナレハ此場合ニ於テハ概テ其
 故殺罪ト共ニ他ノ重罪即チ強盜罪ヲ犯シタルモノナレハ此情狀アルヲ以テ死刑ヲ惹起ス
 ルニ足リシヲ猶ホ方今ニ於ケルカ如クナレハナリ且ツ斯クノ如キ故殺罪ハ豫メ謀ルニ非
 ラスシテ之ヲ犯スヲ極メテ稀レナリシ

以上開陳シタル理由アルニ拘ハラヌ日本法案ノ編纂者ハ同様ノ法則ヲ取用シタリ蓋シ此
 法則ハ法文ニ記スルカ如ク豫謀ニ出テ故殺罪ヲ行フタル場合ノ外ニ非ラサレハ有用ナカ

ル可ク又故殺罪ト共ニ他ノ重罪ヲ犯シタル場合ノ外ニ非ラサレハ有用ナカル可キヤ明テ
 カナリト雖トモ特ニ本條ノ適用ヲ爲スヲ日本ニ於テ稀レナルニ拘ハラヌ故殺犯カ本條ニ
 指示シタル所爲ヲ以テ非常ノ殘酷ヲ表シタル場合ノ爲メニ有用ナリトス且ツ裁判日誌ニ
 就テ之ヲ見ルニ往々此豫見ノ徒贅ニ非ラサルヲ證スルモノアリ

本條ノ法文ニハ佛刑法ト異ナリテ其罪犯ノ既ニ「兇徒」ナルヲ要セサルニ須ラク注意ス

ヘシ是レ特別ニ構成ノ條件ヲ設ケテ法律ノ範圍ヲ限縮スルノ必要アラサレハナリ

又本條ハ此特別ノ謀殺罪ノ場合ヲ構成シ得キ殘酷ナル所爲ノ種類ヲ限定セス是レ大ナ
 ル不便アルヘキカ故ナリ故ニ人ノ犯スニ堪ヘタルモノト認メタルカ如ク殘忍ナル所爲ノ
 醜目ヲ法律ニ掲載スルヨリ寧ロ多少其所爲ヲ判定スルノ權ヲ裁判官ニ委スルノ勝レルコ
 若カス加之其目ヲ掲載スルモ或ハ實際ニ於テハ仍ホ之ニ超過スルノ所爲アル可キナリ
 又本法ニ於テハ故殺ヲ行フニ先チ又ハ之ヲ行フニ方リ殘虐ノ所爲ヲ加ヘ又ハ身體ヲ支解
 折割シタルヲ假定スルノ注意ヲ爲シタリ故ニ若シ故殺ノ後ニ至リ被害者ノ死屍ヲ支解
 折割シタルハ尋常ノ故殺罪ニ比スレハ一層重要ノ意思ヲ表スト雖トモ謀殺罪ヲ構成ス
 ルモノニ非ラサルナリ

第三百二十九條

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

〔第六百六十二號〕 毒殺罪ノ豫謀ニ出テサルコトハ甚タ稀レナリ何ントナレハ罪犯ハ概テ死ニ致スヘキ性質ノ毒物ヲ豫メ準備セサルヲ得サルヘク又其毒物ヲ被害者ノ食物又ハ飲料ニ混入スルカ爲メ好機會ヲ設クサルヲ得サル可ケレハナリ○斯クノ如キ場合ニ於テハ本條ノ法則敢テ有用ナラス第三百二十七條ヲ以テ足レリトス

〔附言〕 佛蘭西刑法理由説明書ニ於テ〔毒殺ハ必然豫謀ヲ想像ス〕ト説キタルハ不當ノ言タルニ拘ハラズ刑法學者中尙ホ此説ヲ主張スル者多シ是レ法律ノ條例ヲ無用ニ歸シ若クハ豫謀ニ關シ法律上ノ推測ヲ設クルモノニシテ此推測タルヤ事實ヲ以テ翻轉スルヲ得ヘク從テ刑ノ適用上一大困難ヲ生スルコトアル可キナリ

然レモ其豫謀アリタルヤ否ヤニ付テ疑アルノミナラス犯人ノ此重罪ヲ決心セシハ其決行ニ先ツ僅カニ一瞬間ニ過キサルノ證アリタル時ト雖モ仍ホ其刑ハ死刑タル可キナリ〔第六百六十三號〕 蓋シ毒殺ニ關シテ法律ノ是ノ如ク嚴ナル所以ヲ説明スルコト極メテ容易ナリトス是レ他ナシ彼ノ毒殺罪タル兇器其他ノ器械ヲ以テ故意ニ毆打創傷シテ人ヲ殺害スルモノニ比スレハ其罪惡一層甚タシク從ツテ社會ノ禍害モ亦タ一層大ナル可ケレハナリ○加之毒殺罪ナルモノハ道德ニ悖戾シ罪惡ヲ表スル一層甚シカル可シ何トナレハ該犯罪ハ其所爲最モ卑怯ナルモノナリ何トナレハ犯人被害者ト相ヒ對スルニコアラズ又縱令ヒ

被害者ノ面前ニ在ルコト雖モ之ニ敵意ヲ示スニ非ラスシテ滋養ノ飲料食物ニ假裝シテ毒物ヲ使用シ其死ニ致スヲ隱蔽スルヲ以テナリ又此罪ニ付テハ自ラ抑制スルヲ得サリシ所ノ激怒ヲ諒ス可キ害惡ノ理由アルコトナシ何トナレハ隱然全ク其自由ニ任セテ惡計ヲ逞フスルモノナレハナリ

其他社會ノ危險モ亦極メテ大ナリ○被害者ハ殆ント其害ヲ避クルコト能ハス何トナレハ被害者ニ於テ毫モ覺知スルニ由ナキ害ヲ避クルノ道ナキヲ以テナリ故ニ毒殺ニ付テハ被害者之レヲ防止シテ毆闘スルノ道モナク又之レヲ避ケテ逃走スルノ手段モナク且ツ醫療ヲ加フルモ殆ント常ニ晩カル可ケレハナリ

又其他社會ノ損害ハ毒殺ノ犯人其罪ノ發覺ヲ免ル、コト容易ナルニ在リトス蓋シ被害者若クハ病ニ罹リテ死シタリト見ユ可ク縱令ヒ毒殺タルヤノ疑ヒアルコト雖モ之レヲ證スルコト極メテ難カル可ク又之レヲ證シ得タルコト雖モ其本犯ヲ發見スルコト甚タ難カル可シ何トナレハ該犯ハ屢々故殺罪ノ因テ發露スル所ノ血痕其他毆闘ノ痕跡ヲ毫モ其本犯ノ身體ニ存セサルヲ以テナリ且ツ被害者死スルノ前之レニ向テ何人ノ所爲ニ出ツルヤヲ問フコト得タルコト雖トモ被害者其殺害人ヲ知ラサルノミナラス如何ナル害ニ罹リテ死スルヤヲモ知ラサルコトアルカ故ニ之レヲ指定スルヲ得サル可キナリ

是ヲ以テ實際毒殺罪ハ發覺スルヨリハ遂ニ知レヌシテ存スルモノ多キノ恐レアリ而シテ又其罪ヲ認定シタルト雖トモ本犯其罪責ニ關シテ確實ナル證據ナキノ故ヲ以テ罪ヲ免ル、ト屢次之レアル可キナリ

〔第六百六十四號〕 今茲ニ毒殺罪ヲ構成ス可キ元素ヲ考窮スルニ其元素タル本法ノ明文ニ依レハ「死ニ致ス可キ物品ノ施用」ニ在ルコトヲ見ル可シ○但シ本條ニ於テハ佛蘭西刑法(第三百一條)ニテ規定シタル毒物効驗ノ遲緩ヲ問ハス又其施用方法ノ如何ヲ論セス又其結果ノ如何ヲ區別セサル所ノ條例ヲ約略シタルモノナリトス此條例中最初ノ二條例ハ前段明記セサルモ暗ニ包含スルモノトシテ之レヲ刪除シ後ノ條例ハ本法ノ總則ニ違フモノトシテ之レヲ刪除シタリ何トナレハ本法ノ總則ハ佛蘭西刑法ノ總則ト異ナリ犯罪ノ結果ニ付テ一太區別ヲ設定シ以テ闕効犯未遂犯ハ既遂犯ニ比スレハ一層輕ク罰スレハナリ(第二百二十五條乃至第二百二十八條)○蓋シ佛蘭西刑法ニ於テハ右ニ關シテ特ニ刑ノ階級ヲ定ムルノ必要アルコトナシ是レ該法ニ於テハ闕効犯未遂犯ハ常ニ既遂犯ヲ以テ罰スルヲ以テナリ(第二條)

彼毒物効驗ノ遲速ニ至リテハ刑ノ輕重ヲ定ムルニ於テ毫モ影響ヲ及ホス可ラサルモノニシテ本法ニ於テハ殊更ラニ之レヲ記載スルヲ要セザリシト明瞭ナリトス蓋シ其効驗ノ遲

緩ナルハ必ラスシモ被害者ヲ救助スルノ手段タルニ非ラサル可シ固ヨリ其効驗最モ激烈ナルモノニシテ其施用ノ量充分ナルトハ毫モ之レヲ救助スルノ術ナカル可シ而シテ此ノ如キノ場合ニ於テモ極メテ少量ヲ施用シテ死ニ致スニ足ル可シ然レトモ其効驗ノ遲緩ナル毒物ハ其毒勢蔓延シテ之レカ醫療ヲ試ムルモ絶テ其効ナキノ時ニ至ラサレハ危險ヲ表示セサルコト屢次之レアル可キナリ

〔第六百九十五號〕 又毒物施用ノ方法如何ヲ論スルハ勿論其施用方法ノ毒殺罪ニ關係ナキコトヲ說クヲモ必要ナラサルヘシ○蓋シ毒物ヲ施用スルニハ多ク上部ノ消化器ヨリ注入スルノ方法ヲ以テスルト雖トモ又瀉腸劑トシテ下部ヨリ注射スルノ方法ニ依ルコトアル可ク尙ホ又微シク皮膚ヲ穿刺シテ血液ニ通セシムルノ方法ニ依リ或ハ唯唇口鼻竅ノ呼吸ヲ止メ死ニ致ス可キ有毒ノ瓦斯ヲ吸入セシムルノ方法ニ依ルコトヲモ得可キナリ

〔附言〕 消化器ヨリ注入スレハ只健康ヲ害シ有毒タルニ過キサルモ直チニ血液中ニ注射スレハ最モ危險ナル毒物ニ變化スル物品アル可シ

且ツ毒殺罪ニ於テハ犯人自ラ其毒物ノ施用ニ關スル悉皆ノ所爲ヲ盡スヲ必要トセス即チ犯人ハ只被害者ノ食物飲料中ニ毒物ヲ混入シ然ル後被害者自ラ之レヲ飲食セシメタリトモ獨リ之レヲ混入スルノ所爲ノミニテ足レリトシ又犯人被害者ノ眼病若クハ創痕

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

ヲ醫治ス可キ良劑ナリトシテ毒物ヲ進メ以テ被害者ヲシテ自ラ之レヲ施用セサルヲ得
サラシメタルモ只之レヲ進ムルヲ以テ足レリトス

〔第六百六十六號〕 其他毒殺罪ヲ構成スヘキ物品ノ性質ニ關シテハ頗ル困難アル所ニシテ
本法ニ於テハ其物品ノ「死ニ致ス可キ性質ノモノナル」ヲ要セリ然ルニ凡ソ物品中多量
ニ之レヲ用ユレハ死ニ致スノ性質ヲ有スルモ其量僅少ナレハ死ニ致スヲナキモノアリ又
或人ニ對シテハ其身體ノ構造年齢若シクハ病體ノ故ヲ以テ死ニ致スヲアル可キモ通常ノ
諸人ニ在リテハ死ニ致ス可キニ非ラサルモノアル可シ

殊ニ劇症熱劇性臟熱若シクハ腦充血症ニ罹リタル患者ニ若干量ノ日本酒又ハ燒酎ヲ施用
スレハ縱令ヒ多少遲速ノ別アリト雖也該患者ヲシテ死ニ至ラシムルヤ毫モ疑ヒアルヲナ
シ然レトモ其所爲ハ如何ニ惡ム可キモ之レヲ以テ毒物ト見做スヲ得サル可シ是レ其死ハ
施用シタル物品ニ起因シタルニ非ラスシテ其人ノ身體ノ異狀ニ原因シタル者ナル可ケレ
ハナリ尤モ後ニ至リ第三百三十二條ニ於テ此犯罪ノ罰ス可キ者ナルヲ見ルヘキナリ
彼ノ多量ヲ用ヒテ不消化ヲ來スニアラサレハ死ニ致スヘカラサル物品ニ至リテモ亦之ヲ
以テ毒殺罪ヲ構成ス可キ元素ト見做スヲ難カル可シ何トナレハ先ツ斯ノ如ク多量ニ用ユ
レハ被害者概テ自然ニ嘔吐スルカ故ニ其ノ施用ノ難ヲ免カル、ヲ得ヘク次ニ多量ニ用

ユレハ死ニ致ス可キ物品許多アリト雖也其死ニ致スハ中毒ニ起因スルニ非ラスシテ消化
器ノ劇變即チ不消化ヨリ生スルモノナル可キヲ以テナリ
若シ多量ニ用ユルニアラサレハ死ニ致サ、ル物品例ヘハ水若シクハ酒ノカヲ借リテ服用
セシメ因テ死ニ致シタルトキハ是レ固ヨリ故殺罪ナル可シ又或ハ場合ノ如何ニ依リテ之
レヲ以テ豫謀ニ出テタルモノト云フヲ得可シト雖トモ決シテ毒殺罪ニ非ラサル可キナリ
蓋シ日本ニ於テハ未タ其性質ヲ講究セサル或ハ植物ノ關係ニ依リ或ハ民間ニ傳播スル學
問上ノ眞理ニ違フタル偏見ノ故ヲ以テ他國ヨリモ一層疑ハシキ場合ヲ現出スルヲ多カル
可シ

故ニ日本ニ於テハ或ル魚類ハ生キタルモノ若シクハ死後直チニ之レヲ食セサル可カラス
若シ否ラスシテ死後時ヲ經テ之レヲ食スレハ死ニ致ス可キ害アリト斷言スル者アリ○然
レハ佛國其他歐洲諸國ニ於テハ此ノ如キ說ヲ信據セス凡ソ多少腐敗シタル食物若シクハ
飲料ヲ消化器ニ依リテ施用シタリトテ毒物ト見做スヲ得ス只健康ヲ害ス可キ有害物ト
見做シ之レカ販賣ヲ禁ジタリト雖也其刑ニ至リテハ最モ輕微ナリトス蓋シ是等ノ飲食物
タル之レヲ粘膜ニ觸レシムルニ非ラスシテ皮膚ヲ穿刺シ血液ノ流通ニ觸レシムルニ非
ラサレハ毒物ト爲ラサレハナリ(參看前號附言)

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

〔第六百六十七號〕 尙ホ愛ニハ一ノ至難ナル場合ヲ講究ス可シ○故意ヲ以テ痘瘡毒ノ如キ傳染病ヲ感染セシメタルノ所爲ヲ以テ毒殺罪ト爲スヲ得可キヤ固ヨリ此場合ニ於テハ犯人其目的ヲ達シ被害者ヲ死ニ致シタルヲ假定スルヲ要セス何トナレハ彼所謂眞ノ毒殺罪ト雖モ速カニ醫療ヲ加フレハ其効驗ニ依リテ爲メニ其効ヲ闕クアル可ク而シテ此場合ニ於テハ重罪闕効犯ノ理論ヲ適用ス可キモノナレハナリ

即チ此場合ニ於テハ毒殺罪ナシト云フコト躊躇ス可ラス何トナレハ其感染セシメタル病毒ハ死ニ致スノ性質ヲ有スルモノニ非ラサルヲ以テナリ○其病毒死ニ致スノ時ニ或ハ之レアリ又屢次之レナシトセサル可シ然レトモ其死ニ致スハ其一定普通ノ効力ニ依ルコトアラサレハ該病毒ノ危險コシテ特ニ恐ル可キモノタルコト拘ラス今日ニ在リテハ治癒シタルノ例少ナカラサル所ニシテ其病毒自ラヲ以テ死ニ致ス可キモノト見做サ、ルナリ

要スルニ毒殺罪ニ關スル訴訟ハ歐洲ニ於テ常ニ之レカ判決ヲ下スニ難シトスル所ニシテ恐クハ日本ニ於テハ尙ホ若干時ノ間ハ一層其判決難カル可シ○日本ニ於テハ斷訟醫學ヲ講究セサル可ラス蓋シ新法頒布ニ至レハ歐洲ニ於テ一大進歩ヲ爲シタル所ノ此特別ナル理學ノ翻譯若シクハ之レカ講義ヲ創造スルニ至ル可キナリ

第二百三十條

〔第六百六十八號〕 本法ハ此條ニ於テ佛蘭西刑法ト若シクハ異ナルモノニシテ佛蘭西刑法ニ於テハ他ノ重罪ニ連係シタル故殺ト他ノ輕罪ニ連係シタル故殺トノ間ニ一ノ區別ヲ設ケタリ(第二百三條)是ヲ以テ故殺罪ハ他ノ重罪ニ連係シタルモノナルキハ縱令ヒ時ト場所ノ符合ノ外二個ノ重罪間ニ他ノ關係アリト雖トモ其刑ハ常ニ死刑タル可シ何ントナレハ右ノ場合ニ於テ少クモ此兩罪ノ連係ヲ要スルヲ以テナリ之レコト反シテ故殺ハ他ノ輕罪ニ連係シタルモノナルキハ其故殺罪ノ時ト場所ノ連係ノ外二個ノ場合ノ爲メ本條ニ指示シタル理由ノ一即チ輕罪ノ決行ヲ容易ニスル爲メ若クハ脱刑ヲ幫助スル爲メニ犯シタルキニ非ラサレハ死刑ニ處スルコトナカル可シ語ヲ更ヘテ之ヲ言ヘハ兩罪ノ間ニ原由ト結果ノ關係アルヲ要ス故ニ輕罪犯ヲ容易ニスル爲メニ故殺罪ヲ犯シタルノ場合ニ於テハ其輕罪ハ故殺罪ノ原由トリス若シ又輕罪ノ證據ヲ隱蔽シ若シクハ刑法ノ結果ヲ避クル爲メ故殺罪ヲ犯シタルキハ其故殺罪モ亦輕罪ノ原由タル可キナリ

千八百十年ノ佛蘭西刑法ハ此區別ヲ爲サ、リシ故ニ連係シタル二個ノ犯罪ハ別ニ其一カ他ノ原由タル性質アルコト非ラスシテ故殺罪ノ加重ヲ生シタリ○然ルニ千八百三十二年ノ修正ヨリ連係シタル重罪輕罪トノ間ニ區別ヲ設定セリ而シテ此時ニ於ケル法律ノ改正儘カニ其半ニ過キスト云フヲ得可シ○蓋シ刑法學者ノ過半ニ於テ此法律ヲ説明スルカ爲メ

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

幾多ノ力ヲ盡シタリト雖モ毫モ其効アラザリシ

右ニ關シ爰ニ一例ヲ設ケテ以テ佛蘭西刑法ヨリ生スル奇怪ナル結果ヲ示サン○爰ニ一人アリ他ノ二人ニ對シテ己レヨリ挑ミタル爭鬪ニ於テ別ニ豫謀ニ出テスシテ突然二個ノ故殺罪ヲ犯シタリトセンカ即チ只時ト場所ノ關係アルノミチ以テ(附言ニアリ)死刑ニ處セラル可シ然ルニ之レニ反シテ時若クハ場所ノ異リタル二個別異ノ爭鬪アリトセンカ縱令後ノ爭鬪ハ前キノ爭鬪ニ起因シタリト雖モ此二個ノ故殺罪ヲ加重スルコトナカル可ク再度徒刑ノ刑ヲ宣告ス可キナリ

〔附言〕 此場合ニハ佛蘭西刑法ノ嚴格ナル主義ニ從フテモ固ヨリ死ニ致ス可キ二個ノ別異毆打アルコトヲ假定セサル可ラス故ニ一發ノ銃丸ヲ以テ同時ニ二人ヲ殺害シタリトセンカ縱令ヒ本犯同時ニ二人ヲ殺害スルノ意思アリタルトキト雖モ前ニ其罪ヲ加重スルコトナカル可シ是レ他ナシ此場合ニ於テハ唯一ノ所爲即チ一ノ重罪アルノミナルヲ以テナリ

〔第六百六十九號〕 蓋シ本法ニ於テ常ニ重罪若クハ輕罪ノ關係シタル犯罪ト故殺罪トノ間ニ原由ヨリ結果ニ至ルノ間一ノ關係ヲ要シタルハ一層妥當ニシテ一層條理ニ協フタルモノト云フ可キナリ是レ只故殺罪ハ最モ有害ナル利益ヲ目的トシ從ツテ社會ノ一大危險ヲ

表示スルニ因ルナリ

〔附言〕 伊國刑法ニ於テハ本法ト同一ノ論決ヲ下シ(第三百七十四條乃至第三百七十五條)白耳義刑法ハ只盜犯ノ爲メ此論決ヲ採用シ(第二百五十一條)日耳曼刑法ハ此論決ヲ以テ普通ノ規則トシ(第二百十四條)而シテ盜犯ノ爲メ之レヲ採用シ(第二百五十一條)且ツ該刑法ニ於テハ他ノ重罪ニ關係シタル故殺罪ニ對シテ死刑ヲ宣告セサルコト爰ニ注意セサル可ラス又該法ニ於テ死刑ヲ科ス可キハ只二個ノ場合アルノミニシテ實ニ賞賛ニ堪エサル所ナリ即チ皇帝陛下ノ生命ニ關シタル犯罪(第八十條)及ヒ謀殺即チ豫謀ニ出テタル故殺罪(第二百十一條)是レナリ

〔第六百七十號〕 他ノ刑法ニ於テハ連係シタル重罪輕罪ノ既遂ニアラスシテ縱カニ未遂タルニ過キサルモ其加重ノ効力ヲ生スルコトヲ記載セサル可ラスト思惟セシニ拘ハラズ本條ニ於テハ別ニ必要ナキモノトシテ之レヲ記載セス蓋シ縱令何等ノ決行ナクシテ重罪輕罪ニ關スル單一ナル決心アリタルト雖モ其目的タル他ノ犯罪ニ先チテ故殺罪ヲ犯シタルノ場合ニ於テハ此論決ヲ信據セサル可ラス是レ其犯罪タル尙ホ既遂ナラス未遂ナラサルトキト雖モ正シク追捕ス可キモノタルヲ以テナリ之レニ反シテ故殺ノ目的犯人ノ逃走若クハ脱刑ヲ幫助スルニ在ルキハ其連係シタル犯罪ハ少クモ未遂犯ナルヲ要ス可シ何トナ

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

レハ若シ然ラサルニ於テハ別ニ逃走ヲ謀リ脱刑ヲ求ムルニ及ハサレハナリ

第三百三十一條

〔第六百七十一號〕 前ニ叙述シタル四個ノ場合(豫謀ニ出テタル故殺、殘酷ノ所爲ヲ以テスル故殺、他ノ犯罪ニ關係シタル故殺、毒殺)ヲ外ニシ一他ノ故意ニ出テタル殺害ヲ稱シテ「尋常ナル故殺」ト云ヒ而シテ之レヲ處スルニ只無期徒刑ノ刑ヲ以テセリ是レ蓋シ正當ニシテ且ツ妥當ナル新制ト謂フ可キナリ何トナレハ此場合ニ於テモ尙ホ法律上死刑ヲ宣告スル者トモハ新刑法ノ普通主義タル所ノ罪責輕重ノ度ニ從ヒ刑ニ階級ヲ定ムルヲ要セサル可ク然ラサレハ謀殺ト稱スル豫謀ニ出テタル故殺罪ニ付テハ一層殘酷ナル死刑ヲ存セサル可ラサルニ至ル可ケレハナリ然レハ法律ハ極端ニ走り人タル者ノ犯スコアル可キ道德上ノ罪ヲ嚴罰ス可ラサルハ勿論時ニ或ハ之レニ一步ヲ讓リテ之ヲ不問ニ付スルコアルモ敢テ耻トスル所ニアラサルナリ是ヲ以テ豫謀ヲ以テ犯シタル殺親罪ヲ置スルニ豫謀ニ出テサル殺親罪ヨリ其刑ヲ重クスルコトナカル可ク從テ若シ其殺親罪ニシテ犯人ノ意思ニ關係ナキ事情ニ因リ闕効シタルハ刑一等ヲ減シ死刑ニ處スルコトナカル可シ(第四百九條) 歐洲近時ノ法制ハ概テ尋常ノ故殺罪ニ付テハ死刑ヲ廢シ其中或ハ之レヲ處スルニ無期徒刑ヨリ一層輕微ナル刑ヲ以テスルモノアリ○蓋シ多少急速ニ發シタル激怒ニ乘シテ犯シ

タル尋常ノ故殺罪ニ至リテハ之レヲ豫謀ニ出テタル故殺罪ニ比スルニ其徳道ニ悖戻スルコト少ナキハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ故ニ常ニ沈毅ニシテ曾テ批評ス可ラサルカ如キ人ト雖モ此故殺罪ヲ犯スコアル可シ是ノ如ク故殺罪ハ不意ニ出ツルモノナルカ故ニ社會ノ危險ヲ表スル最モ大ナリ是レ該犯ニ關スル法律ヲ嚴ニシ國民ノ生命ヲ保護スル所以ナリ

其他故殺ヲ罰スルニ無期徒刑ヨリ一層輕キ刑ヲ以テスル場合即チ法律上ノ宥恕アル場合若シクハ一層重キ死刑ニ處スルノ場合即チ殺親罪(第四百四條)人ノ住居シタル家宅ニ放火シタルノ場合(第四百四十五條)堤防ヲ破壊シテ水災ヲ引致シタル場合(第四百五十六條)ノ如キハ本條ヲ以テ論スル限ニ在ラス

第三百三十二條

〔第六百七十二號〕 若シ誘導ニ依リ故意ヲ以テ直接コ人ヲ死ニ致シタル罪犯ヲ罰セサルモノトモセンカ人身ノ保護ニ關シテ毫モ安全ナル所ナク且ツ法網ヲ脱ル、コ極メテ容易ナル可キナリ

故ニ爰ニ人アリ他人ノ誘導ニ依リ腐朽シタル橋梁ヲ渡リ歩ニ從テ陷落シ爲ニ溺死シタルカ或ハ二重又ハ三重ニ裝藥シタル銃器ヲ用ヒ其爆裂ニ依テ死シタルカ或ハ其性質上死ニ

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

致ス可キモノナラサルモ被害者疾病ノ故ヲ以テ死ニ致ス可キヲ犯人知テ之ヲ施用シ之ヲ勸メテ以テ死ニ致ス如キコアル可シ○即チ此三個ノ場合ニ於テ被害者ノ死ハ〔直接〕ニ罪ト爲ル可キ誘導ヨリ生シタルモノナリ

然レモ本條ノ條例ハ犯人被害者ヲ誘導シテ死ニ致ス可キ争闘ニ預カラシメタル場合ニ適用スルコトナシ何トナレハ此場合ニ於テ其死ニ至リタルハ多少不慮ニ出テタルモノヨシテ誘導ハ只之レカ機械ト爲リタルニ過キサレハナリ

若シ其誘導豫謀ニ出テタルモノナルハ其刑ハ死刑タル可シ其豫謀ニ出テサル場合ニ於テハ無期徒刑ノ刑ニ處ス可シ○又死ニ致ス可キ物品ヲ施用シタル場合ニ於テハ縱令ヒ誘導豫謀ニ出テサルモト雖モ常ニ死刑ニ處ス可シ

又他ノ重罪及ヒ輕罪ニ連係シタル死ニ致ス可キ誘導ヲ爲シタルノ場合ニ於テハ其誘導他ノ犯罪若シクハ脱刑ヲ慥カムルノ目的ニ出テタルモハ死刑ニ處ス可シ

本法ハ自殺ヲ誘導シタル場合ヲ例外ト爲シ尋常ノ故殺罪ニ比シテ其刑ヲ輕減セリ是レ蓋シ自殺ニ於テハ被害者其死ニ致ス可キ所爲タルヲ知リナカラ之レヲ行フモノニシテ幾分カ其自ラ死ヲ招キタル所アレハナリ〔第五節參看〕

第三百三十三條

〔第六百七十三號〕 本條ニ豫定シタル場合ハ正條アルニアラサレハ之レヲ決定スルコト極メテ難カル可シ蓋シ普通ノ規則ニ從ヘハ一層緩ナル論決ヲ附シテ可ナルカ如シ何ントナレハ故殺犯其故殺ノ目的トセシ人ヲ殺シタルニアラスシテ其目的外ノ人ヲ殺シタルモノナルヲ以テ其最初ノ故殺罪ハ缺効犯若シクハ未遂犯トシテ罰スヘキモノナルカ如ク其第二ノ故殺罪ハ只過誤殺トシテ罰セサル可カラサルカ如クナレハナリ

蓋シ佛國ニ於テハ重罪ノ未遂犯若シクハ缺効犯ハ既遂犯ト同一ニ罰スルカ故ニ本編ニ付テ此ノ如キ錯雜アルコトナシ○然レモ日本ニ於テハ重罪ノ未遂犯ヲ罰スルニ其既遂犯ノ刑ニ一等乃至二等ヲ減輕セルヲ以テ此點ニ付キ疑議ノ生スルハ亦至當ナリトス○本法ニ於テハ此問題ヲ決スルニ最モ條理ニ適シタル意義ニ從ヒ而シテ同時ニ最モ嚴ニ之レヲ決定セリ

〔附言〕 外國法制ノ重罪ノ缺効犯又ハ未遂犯ヲ罰スル其既遂犯ヨリ輕キモノト雖モ此場合ニ於テハ既遂犯ノ刑ヲ以テ之ヲ處セリ〔參看白耳義刑法第三百九十二條及ヒ伊太利刑法草案第三百七十條〕然レモ日耳曼刑法ニ於テハ此注意ヲ缺キタリ

〔第六百七十四號〕 原ト故殺ノ重罪ニ對スル刑法ノ目的タル此人ヨリモ寧ロ彼人ノ生命ヲ保護スルニ非スシテ故殺犯ノ爲メニ害ヲ受ク可キ一般人ヲ保護スルニ在リ蓋シ既遂事件

謀殺、毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

ニ附從シタルトキ法律ノ罰スル所ノ罪意ハ斯々ノ確定シタル人ヲ死ニ致スノ意思ニ在ラ
スノ或ハ一人ヲ死ニ致スノ意思ナリトス○若シ夫レ被害者ノ身分ヲ主トシ罪ヲ問フモノ
トセンカ其身分犯罪ノ輕重ニ影響スルコトヲ要ス可ク即チ此ノ如キ場合ニ於テハ故殺犯ノ
意思此人ヲ殺スニ在ラサル可カラズ是本條ノ場合ニ非サルナリ

是ヲ以テ本條ニ豫定シタル場合ニ於テハ故殺犯其兄弟若クハ他人ヲ殺サント欲シテ誤テ
其父ヲ殺シタルト雖ヒ殺親罪ノ刑ニ處セラル、コトナシ況ンヤ其他ノ故殺犯ニシテ故意
ヲ以テ被害者ヲ擊折セシ者其ノ父タルコトヲ知ラサルノ場合ニ於テオヤ

又前段ト反對セル場合ヲ豫定スルヲ得可シ即チ故殺犯其父ヲ殺サント欲シタルニ他人之
レヲ支ヘントシ爲メニ重傷ヲ負フテ死ニ至リタル場合即チ是レナリ此場合ニ於テハ故殺
犯ノ意思ハ之ヲ其既遂ノ所爲ニ比スレハ一層罪惡多カルヘシ然レヒ該犯ハ一ハ殺親罪ノ

闕効犯他ハ尋常故殺罪ノ既遂犯タル可キ二個ノ重罪ニ付キ責ヲ負ハサル可ラサルモノニ
シテ其刑ニ至リテハ二罪共ニ無期徒刑タル可シ○若シ又之レニ反シ殺親罪豫謀ニ出テタ
ルモ其豫謀ハ等シク殺親罪ヲ加重スルニ足ラサルモノナルトハ(參看第三百二十二條註
解)他人ニ對シタル既遂ノ故殺罪ヲ加重ス可ク即チ殺親罪ノ闕効犯ニ依リテ死刑ニ處セ
サルモ豫謀ニ出テタリト看做ス可キ他人ニ對シタル故殺罪ヲ以テ死刑ニ處ス可キナリ

(參看第一百十五條及ヒ第一百十六條)

又故殺犯ノ目的ト爲シタル人ニ非サル者ニ對シテ加ヘタル毒殺罪ハ毒殺罪ニ關シテ叙述
シタルト同一ノ理由ヲ以テ常ニ死刑ニ處ス可キナリ

[第六百七十五號]

本條ノ法文ニ於テハ決意シタル故殺ニ非ラスシテ意外ニ出テタル此故
殺罪ハ「決意アリタル故殺罪ノ決行」中ニ存セサル可ラサルコト明記セスト雖ヒ爰ニ之レ
ヲ説カサル可ラス何トナレハ若シ之レヲ説明セサレハ或人ヲ死ニ致スノ目的ニテ裝藥ヲ
タル銃器ヲ携帯シ其銃ヲ被害者ニ擬スルニ前タナテ發火セシメ誤テ他人ヲ殺シタル場合
ニモ本條ヲ適用ス可シト思惟スル者アル可キモ本條ノ場合ハ意外ノ過誤殺ハ「決行」ノ所
爲中ニ存セサル可ラサルモノナレハナリ

第二節 故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

致死ノ創傷 第三百三十四條 死ニ致スノ意思ナクシテ故意ヲ以テ人ヲ毆打創傷シ若クハ之レニ暴行ヲ
加ヘ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑第二百九十九條○佛刑第三百九條第四項)

不治ノ瘡 第三百三十五條 故意ヲ以テ暴行ヲ加ヘ因テ視官聽官ヲ全失セシメ若クハ舌ヲ斷テ兩手兩
足若シクハ一手一足ヲ毀傷シ陰陽ヲ折損シ又ハ智覺精神ヲ失喪セシメタル者ハ輕懲役ニ處

ス

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

其暴行ニ因テ一目ヲ瞎シ一手一足ヲ斷テ前項ニ豫定セシモノニ比スレハ更テ輕微ナルモ亦同シク不治ノ性ナル身體ノ癱疾若シクハ精神ノ失喪ヲ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮貳拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百九條第三項)

疾病、廢業 第三百三十六條 故意ヲ以テ暴行ヲ加ヘ因テ二十日以上ノ疾病若シクハ廢業ニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮拾圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス(佛刑、第三百一十一條第一項)

其疾病若クハ廢業二十日以下繼續シタルハ一月以上一年以下ノ重禁錮五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(佛刑、第三百一十一條第一項)

其疾病廢業ニ至ラサルキト雖ヒ一時健康ヲ害シ若シクハ輕微ナル身體ノ毀傷ヲ致シタルハハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮及ヒ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百一一條〇佛刑同上)

豫謀 第三百二十七條 其暴行豫謀ニ出テタルモノナルキハ前諸條ニ記載シタル刑ニ一等ヲ加フ(刑、第三百二條〇佛刑、第三百十條、第三百一十一條第二項)

附帶ノ創傷 第三百二十八條 他ノ重罪輕罪ヲ豫備シ又ハ之レヲ容易ニスルカ爲メ或ハ逃走若シクハ脱刑ヲ幫助スルカ爲メ暴行罪ヲ犯シタル者ハ其自己ノ爲メヨスルト其重罪輕罪ノ共犯若シク

ハ從犯中一人ノ爲メニスルト同ハス前諸條ニ記載シタル刑ニ一等ヲ加フ但シ暴行ヲ以テスル盜犯ノ爲メ第二章第二節ニ記載シタル刑ハ此限ニ在ラス(刑、第三百三條)

數人ニテ加ヘタル創傷 第三百二十九條 二人以上數人ニテ暴行ヲ加ヘタルキハ其現ニ致シタル毀傷ノ輕重ニ從ヒ各自ニ本刑ヲ科ス然レヒ犯人各自ノ致シタル毀傷ノ性質若シクハ輕重ヲ知ルヲ難キキハ教唆者ニ最重毀傷ノ刑ヲ科シ其他ノ者ニハ一等ヲ減ス(刑、第三百五條、第三百六條)

有害ノ物品 第三百四十條 何人ト雖ヒ故意ヲ以テシ且ツ罪ヲ犯スノ意ニテ健康ニ害アル可キ物品ヲ他人ニ施用シタルキハ其現ニ生シタル毀傷ノ性質ニ從ヒ豫謀ニ出テタル暴行ノ爲メ前ニ記載シタル所ノ刑ニ處ス(刑、第二百七條〇佛刑、第三百十七條第四項及第五項)

過誤ノ創傷 第三百四十一條 確定シタル或ル一人ニ對シテ加ヘントシタル暴行若シクハ有害物品ノ施用ニ因リ偶然若シクハ意外ニテ他人ヲ害シタルキハ其實際犯シタル罪故意ニ出テタルモノトシテ其犯罪ノ本刑ヲ科ス(刑、第二百四條)

詐偽ノ誘導 第三百四十二條 本節ニ記載シタル刑ハ第三百三十二條ニ從ヒ惡意ヲ以テ與ヘタル誘導ヨリ生スル身體若シクハ精神ノ毀傷及ヒ癱疾ニモ適用ス可キモノトス(刑、第三百八條)

要旨

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

第六百七十六號 本款ニテ法律上罰スル所ハ故意ノ毆打創傷ニアラスシテ寧ロ身體若シクハ精神ノ毀傷ニ在リ

第三百三十四條

第六百七十七號 殺意ナクシテ致シタル死

第三百三十五條

第六百七十八號 身體若クハ精神ノ毀傷、其輕重ノ刑ニ及ホス可キ影響

第三百三十六條

第六百七十九號 承前

第三百三十七條

第六百八十號 豫謀

第三百三十八條

第六百八十一號 他ノ犯罪ニ關係シタル毆打創傷

第三百三十九條

第六百八十二號 毆打創傷本犯ノ多數、特別ノ困難

第三百四十條

第六百八十三號 有害物品ノ施用

第三百四十一條

第六百八十四號 其目的トシタル人ヨリ他ノ人ニ及ホシタル毆打創傷

第三百四十二條

第六百八十五號 詐僞ノ誘導ヨリ生シタル毀傷

〔第六百七十六號〕 本節ニ記載シタル「毆打創傷及ヒ暴行」ノ語辭タル普通語ニ於テハ其意義

ニ多少ノ差アリト雖モ刑法ニテハ概テ同意義ト見做ス所ナリ就中暴行ナル語辭ハ常ニ毆打創傷ニ比スレハ一層輕微ナルモノヲ稱スルモノトス○然レモ是等ノ事タル唯犯罪ノ手段タルニ過キス刑法ノ搜索シテ其輕重ヲ罰スルハ犯罪ノ手段ニアラスシテ其結果ニ在リ是ヲ以テ爰ニテ殊ニ刑法ノ着目スル所ハ其之レヲ致シタル方法ノ如何ニ拘ハラス現ニ生シタル身體若シクハ精神ノ毀傷ノ輕重ニ在リト謂フヲ得可シ○故ニ爰ニ人アリ一人ヲ水中若クハ谷間ニ陥サレント欲シ之レヲ押排シタリトセシカ此場合ニ於テハ只暴行アルノミ然レモ其身體ノ毀傷ニ至リテハ死ニ致スヲ得可シ又其毀傷ハ危害ナル物品ノ施用ヨリ生スルコトアル可シ(第三百四十條)而シテ爰ニハ固ヨリ毆打創傷暴行アルコトナシ況ンヤ詐僞ニ出テタル恐ル可キ誘導ヲ以テスルモ尙死ニ致スヲ得ルニ於テチヤ(第三百四十三條)

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

總テ是等ノ犯罪方法ヨリ生シタル所ノ身體若シクハ精神ノ毀傷ハ本節ニ之ヲ豫定ス

第三百三十四條

〔第六百七十七號〕 此最初ノ條ニ於テハ最モ重キ所爲即チ其即時ナルト時ヲ經テ後ナルト
チ問ハス毆打創傷暴行ヲ以テ死ニ致シタルノ場合ヲ假定セリ

是レニ由リテ之レヲ見レハ則チ故意ノ毆打創傷ヲ以テ死ニ致シタル場合ハ尙ホ故殺即チ
故意ニ出テタル殺害ノ場合ナルカ如シ○是レ決シテ然ラサルナリ

蓋シ激怒ニ乘シテ故意ニ人ヲ毆打創傷シ毫モ殺意ナシト雖モ命脈ニ係ル機關ヲ打チタル
カ爲メ又ハ其人ノ體格非常ニ軟弱ナルカ爲メニ死ニ至ルヲ屢次之アル可シ此場合ニ於テ

其所爲ヲ故殺罪ニ比スレハ道德ニ悖戾スルヲ輕キハ言ヲ待タズノ明カナリ加之其結果ノ
同一ナルニ拘ラス社會ノ害惡モ亦一層甚シト云フヲ得可シ何トナレハ彼社會ノ害惡タル

ヤ只ニ既遂ノ所爲ニ存スルノミナラス又殊ニ社會同胞中一人ノ身ニ受ク可キ危險即チ危
害ニ在ルモノナレハナリ故ニ或人直接ニ故意ノ殺害ヲ受ケタルキニ其危險極メテ大ナル

ハ勿論其故殺ニ豫謀ニ出タルキハ其危險更ニ大ナル可シ而シテ其重罪ノ關効スルハ眞ノ
僥倖ニ出タルヲナル可シト雖モ之レニ反シテ殺害ハ犯人ノ意思ニ出テスノ一時ノ忿怒若
シタハ又懲罰ヲ以テ毆打セシムル者ニ至リテハ其死ニ致セシハ實ニ

不幸ニ出タルモノト云フ可キナリ

是レ本法ニ於テハ最モ良好ナル外國制法ト同シク此ノ如キ場合ニハ犯人果シテ其毆打創
傷ヲ加ヘタル人ヲ死ニ致スノ意思アリタルヤ否ヤヲ搜索スルハ最モ條理ニ適スル所以ナ
リ

〔附言〕 頒布ノ正條(第二百九條)ニハ殺意ナキ云々ノ此必要ナル條件ヲ記載セス然レモ

其之ヲ包含スルハ固ヨリ疑ヒナシ然ラサレハ爰ニテモ亦「故殺罪」アル可ケレハナリ
若シ此意思ニシテ證明セラル、ニ於テハ場合ニ從ヒ豫謀ニ出テタルカ若シクハ否ラサ

ル故意ノ殺害アル可シ之レト反對ノ場合ニ於テハ則チ本條ヲ適用ス可ク又毆打創傷豫
謀ニ出テタルキハ第三百三十七條ヲ適用ス可シ

蓋シ其死ニ致スノ意アリシヲ證スルハ極メテ難カル可キ所ニシテ檢察官原告人トシテ
之レヲ證セサル可ラス被告人ニ於テ其死ニ致スノ意思ナキヲ證スルニ及ハサルナリ○

其疑ハシキ場合ニ於テ證據ヲ認許セルハ固ヨリ言ヲ待タズ然レモ前キニ死ニ致スノ逼迫
アリ又ハ使用シタル兇器ノ性質銃器ノ如キモノニシテ死ニ致ス可キモノナルキハ其死ニ

致スノ意思アリシヲ認知スルモ敢テ不條理ノヲニアラサル可シ○故ニ此死ニ致スノ意思
ナキニ於テハ其刑ハ故殺罪ノ刑ニ比スレハ一層輕クシテ只重懲役ニ止マル可シト雖モ其

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

毆打ニシテ豫謀ニ出テタルモノナルキハ第三百三十七條ニ從ヒ刑一等等ヲ加フ可シ
本條ノ適用ハ毆打創傷若シクハ暴行ニ限ルモノナルカ故ニ別ニ殺意ナクシテ有害ノ物品
ヲ施用シテ死ニ致シタル場合ニ適用スルヲ得ス○此場合ハ第三百四十條ニ於テ之レヲ論
ス可シ

第三百二十五條

〔第六百七十八號〕 本條ニ用ヒタル「暴行」ナル語ハ本節ノ目的ヲ組成スル毆打創傷及ヒ暴行
ノ語ヲ約略シテ示シタルモノナリ

本條已下ハ漸次ニ損害ノ滅シタル毀傷ノ罪ヲ豫定スルモノニシテ其刑ニ至リテモ亦致シ
タル害惡ノ度ニ應シテ減輕スルモノトス其社會ノ害惡トハ則チ被害者ノ受ケタル害惡是
レナリ其道德上ノ害惡ニ至リテハ暴行ニ依リテ死ニ致シタルキト雖ヒ又僅カニ輕微ナル
毀傷ヲ加ヘタルキト雖ヒ同一ニ止マルモノト看做スヲ得可キナリ○實ニ道德上ノ害惡ハ
故意ヲ以テ暴行ヲ加フルニ在リ其犯人ノ欲スル所ヨリ時トシテ重ク時トシテ輕カル可キ暴
行ノ結果ニ存スルモノニアラサルナリ○爰ニテ道德上ノ害惡ノ度ヲ變更ス可キハ獨リ豫
謀アルノミ然レハ豫謀ノ事ニ至リテハ第三百二十七條ニ於テ之レヲ論ス可キナリ
殺意ナクシテ暴行ヲ加ヘ因テ死ニ致シタル場合ニ次キ性質上極メテ重大ニシテ不治ノ毀

傷若干種ヲ豫定セリ其一ハ身體ニ關スルモノニシテ他ノ精神ニ關スルモノナリ
其初メニ説ク所ノ三種ノ創傷ハ人ヲシテ社會ノ交際ニ最モ多ク關係ヲ有セシムル五官ヲ
毀傷スルモノニシテ此五官ノ毀傷タル人ヲシテ生計方法ヲ求ムルノ道ヲ失ハシメ爲メニ
困苦ニ陥ラシムルコトアル可キモノトス其次ハ四肢ノ毀傷ニシテ人ヲシテ其業務ヲ廢セシ
ムルモノトス其次ハ生殖器即チ陰陽ヲ毀傷シ以テ血統ヲ斷タシメ并セテ其一生ノ不幸ヲ
感セシムルモノトス終リハ則チ精神ノ毀傷ニシテ是レ又人ヲシテ勤勞ニ堪エサラシメ困
苦ニ陥ラシムルモノトス○蓋シ是等ノ場合ニ於テモ本法ノ其刑ヲ嚴ニシタルハ實ニ條理
ニ適シタルコト云フ可シ然レハ若シ本法ニ於テ之レヲ處スルニ重懲役ノ刑ヲ以テスルモ
ノトセハ前條ノ刑ニ一等等ヲ加重セサル可ラス○然レハ斯クマテ重ク罰スルニ及ハスト思
惟スルナリ

第三項ニ於テモ尙ホ其性質上不治ノ癱疾ヲ論セリ然レハ之レヲ前項ニ規定シタルモノニ
比スレハ更ラニ輕微ナルモノナリ即チ前項ニ規定シタル重癱疾ヲ稱シテ二重癱疾ト稱ス
ルニ對シテ本項ニ論スル所ノ輕癱疾ヲ稱シテ單一ナル癱疾ト謂フヲ得可シ然レハ是レ約
略シタル言語タルニ過キスシテ充分精確ナルモノニ非ラサル可キナリ
前項ニ論セシ所ハ重罪ニ付テノ最終刑ナルカ故ニ本項ニ論スル所ノ刑ハ輕罪ノ刑ナラサ

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

ル可ラス○即チ尙ホ刑ノ輕キヲニ付キ駁撃ヲ加ヘサル可ラサル所ノ事項ナリ
 佛蘭西ニ於テハ前叙二個ノ場合ニ於テ其刑ハ等シク懲役ナリトス而シテ毆打創傷死ニ致
 シタル場合ニ於テハ其刑ハ無期徒刑ナリトス(佛刑法第三百九條參看)
 右諸般ノ場合ニ於テ被告人ヲ裁判所ニ交付シ其罪ヲ正ス餘リ急速ニ失ス可ラス檢察官ハ
 其毆打創傷ヨリ生ス可キ結果ノ確定シ若シクハ確定シタルカ如ク見ユル迄ハ若干ノ時間
 ヲ經過セシムルヲ要ス但シ被告人逃走スル恐レナキカ如キ場合ニ之レヲ釋放スルハ格別
 ナリトス

第三百二十六條

〔第六百七十九號〕 佛蘭西ニ於テハ千八百六十三年刑法第二回ノ改正前ニハ本條第一項ノ
 場合ニ於ケル毆打創傷ノ罪ハ懲役ノ刑ニ處シ而シテ其疾病廢業ノ繼續時間二十日已内ノ
 場合ニハ輕罪ノ刑ニ處シタリシ○然ルニ千八百六十三年已來二個何レノ場合ニ於テモ其
 刑ハ共ニ輕罪ノ刑ト爲セリ但シ尊族親ニ毆打創傷ヲ加エタルキハ此限ニ在ラス(第三百
 十二條)然レモ本法ニ於テ毆打創傷ノ刑ハ常ニ一層之レヲ加重セリ
 本條ノ各三項ニ記載シタル所ノ刑ハ毀傷輕重ノ度ニ從フテ減輕スルカ故ニ別ニ充分之レ
 カ說明ヲ要セサルナリ

第三百二十七條

〔第六百八十號〕 彼ノ豫謀ノ加重ノ狀情タルヲニ至リテハ故殺罪ニ於テモ亦毆打創傷罪ニ
 於テモ亦毫モ異ナル所アル可ラス實ニ彼ノ豫謀ノ狀情タル最大害惡ヲ表スルモノニシテ
 其社會ノ危險ヲ表スルモ亦一層甚シカル可シ何トナレハ已ニ前ニモ注意シタルカ如ク豫
 謀ニ出テタル暴行ヲ避クルハ一時ノ爭鬪無謀ノ激怒ニ起リタル暴行ヲ避クルニ比スレハ
 被害者ノ爲メ一層難キ所ナル可ケレハナリ
 然レモ爰ニ注意ヲ要ス可キ一事アリ即チ彼ノ豫謀ハ暴行自ラニ關スレハ足レルモノニシ
 テ時ノ情狀ニ依リ多少輕重ヲ生ス可キ其結果ニ關スルモノニアラストノ事是レナリ○故
 ニ縱令ヒ此不治ノ癱疾ヲ致スチ豫謀セスト雖モ兩眼ヲ全失セシメタル暴行ヲ豫謀セシ者
 ハ其本刑ヲ加重ス可シ
 是レ故殺罪ニ關スル理論ト同一ナラサルナリ何ントナレハ謀殺罪ヲ構成ス可キ豫謀ニ至
 リテハ殺害ニ關セサル可ラサルモノニシテ只其死ニ致ス可キ毆打創傷ニ關スルモノニア
 ラサレハナリ

是ヲ以テ條理上ヨリ論スレハ則チ只ニ暴行ヲ豫謀シタルノミナラス尙ホ此ヨリ生シタル
 癱疾ヲ豫謀シタル者ハ尙ホ更ラ暴行罪ノ刑ヲ加重シ恐クハ二倍ニ之レヲ加重セサルヲ得

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

サルニ至ル可シ○即チ原草案ハ此意義ヲ以テ規定シタルト雖モ暴行ノ手段ト目的ニ關スルニ重豫謀ノ證ヲ得ルヲ極メテ難キカ故ニ遂ニ之レヲ廢スルニ至リタリ
終リニ臨ミ尙ホ注意ス可キ事アリ即チ彼ノ豫謀ノ事タル謀殺罪ヲ構成ス可キ情狀ニシテ故殺罪加重ノ情狀ニ非ラスト雖モ爰ニテハ所謂眞ノ加重ノ情狀タリ何ントナレハ故意ノ毆打創傷ノ豫謀ニ出ツ可キヲアリト雖モ爲メニ毆打創傷ノ名稱ヲ變更セサルハ勿論其法律上ノ性質ヲモ變更スルヲナケレハナリ(八百七十二條參看)

第三百二十八條

〔第六百八十一號〕本條ハ他ノ犯罪ノ決行ヲ容易ニシ若シクハ其脱刑ヲ幫助スル同一ノ目的ヲ以テ犯シタル故殺罪ヲ豫定セシ所ノ第三百三十條ニ類似セルモノトス○是ヲ以テ同條ニテ與ヘタル説明及ヒ辯明ハ其理由ノ同一ナルヲ以テ等シク爰ニ適用スルヲ得可キナリ

只前條ト同シク爰ニ注意ス可キハ故殺罪ニ於テ論シタル所ノ情狀ハ特別ノ故殺罪ヲ構成スルモノナリト雖モ爰ニ論スル情狀ハ只毆打創傷罪加重ノ情狀タルニ過キサル事即チ是レナリ○蓋シ右ノ區別タルヤ之レニ逢遇スル毎ニ之レヲ記スルハ常ニ有益ノモノトス何ソトナレハ刑罰ニ一等ノ重ヲ加フルハ其一等ノ減輕ヲ以テ相ヒ平均スルモノナレハナリ

(第八十八條參看)

第三百二十九條

〔第六百八十二號〕本條ニ豫定シタル場合ヲ法律上規定セサルキハ裁判所ニ於テ批難ヲ免ル可キ之レカ論決ヲ下スヲ甚ダ難カル可シ是レ就中佛蘭西ニ於テ生スル所ノ困難ナリトス

蓋シ此事タル立法者スラ猶ホ困難トスル所ナリ何ントナレハ此場合ニ於テハ立法者自ラ條理ト正義トノ普通原則ニ從ハサル可ラス而ルニ該原則ヲ發見スルハ頗フル難カル可クレハナリ

固ヨリ事實上各共犯人ノ罪責輕重ノ度ニ付キ證ヲ提供シ得ルキハ各共犯人其遂ケタル所爲若シクハ直接ニ關係シタル所爲ニ付キ刑ヲ適用スルニ過キサル可シ又共犯人各自ノ關係セシ所同一ナラサルニ拘ハラス二人ノ犯人同一ノ刑ヲ受クルヲアル可シ即チ二人ノ兇行者アリ其一人ニ於テ人ヲ毆打スル間他ノ一人之レヲ押捉シタルカ如キ是レナリ此場合ニ於テ若シ被害者押捉ヲ受ケス其正當防衛ヲ妨ケラル、ヲナケレハ毆打ヲ受クルヲナカル可ク又縱令ヒ毆打ヲ受ケタリト雖モ是ノ如キ危險ニ至ラサル可シ○是レ併シナカラ困難ナル場合ニ非ラサルナリ

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

然レモ數人ニテ人ヲ毆打シ其毆打ノ輕重同一ナラス且ツ各自ノ攜帶シタル兇器ノ性質ニ依ルモ證人ノ陳述若クハ被害者ノ供述ニ依ルモ其本犯各自ニ法ノ何タル毆打ノ責ヲ付ス可キヤヲ知ルコトノ難キ場合ヲ假定スルキハ更ラニ大ナル錯雜ヲ生スルニ至ル可キナリ蓋シ共犯人總テ有罪ニシテ最モ輕微ナル創傷ノ刑ニ處セラル可キハ固ヨリ確實ナリトス然レモ是レ條理ニ違フ所ニシテ社會ノ危害ヲ招クモノタル可シ何ントナレハ最モ輕微ナル創傷アルノミナラス極メテ重大ナル創傷アル可ケレハナリ是ヲ以テ法律ニ於テハ共犯人ヲ以テ其各自ニ逐ケタル罪惡ニ付テ連帶ナリシカ如ク社會ノ賠償ニ付テモ亦連帶ノ責ヲ有スルモノト見做スコトヲ得可シ○然レモ是ノ如クナレハ他人ノ所爲ノ爲メ純然正義ノ範圍外ノ刑ヲ受クル者アルカ故ニ又相償ヲ以テ他ノ最モ輕微ナル所爲ノ刑ヲ受ケシメサル可ラス

然リト雖モ此相償タル毆打創傷ノ最重刑ト最輕刑トノ間ニ中庸ノ刑ヲ定ムルマテニハ至ラサルモノニシテ法律ハ歸責ノ基礎トシテハ最モ重大ナル創傷ヲ取り而シテ其爭鬪ノ教唆者ナラサル者ニハ刑一等ヲ減セリ其教唆者ニ至リテハ之レヲ處スル常ニ最重刑ヲ以テセサル可ラス是レ他ナシ彼教唆者ハ爭鬪ヲ教唆シテ自ラ其一切ノ責任ヲ負フタルモノナルヲ以テナリ

〔附言〕 我輩ハ此重複ノ場合ヲ伊太利刑法草案(第三百九十五條)ニ採リ之レニ些少ノ變更ヲ加ヘタリ

第三百四十條

〔第六百八十三號〕 本條ニ記載シタル所ハ毒殺罪ニ關スル第三百二十九條ニ應スルモノトス○蓋シ本條ノ場合ニテハ縱令ヒ死ニ致シタリト雖モ其死ニ致スノ意思ナキヤ實ナリトス然レモ人ノ健康ヲ害ス可キ毒物タルヲ知リナカラ故意ヲ以テ之レヲ施用シタルモノナルカ故ニ毆打創傷ニ比スレハ社會ノ危險一層大ナル可シ○是レ毒殺罪ハ其豫謀ノ有無ニ拘ハラズ死刑ニ處スルカ如ク此場合ニテモ毒物ヲ施用シテ致シタル身體若シクハ精神ノ毀傷ハ豫謀ニ出テタルモノト看做シテ本刑ニ一等ヲ加フル所以ナリ且ツ其豫謀ニ出ツルコト最モ多シトス

第三百四十二條

〔第六百八十四號〕 本條ハ第三百三十三條ト類似シ其目的ニ非ラサル所ノ人ニ毆打創傷ヲ加ヘタル場合ニシテ之レヲ故殺ノ場合ニ比スレハ尙ホ一層疑ヒアル可キ論點ヲ決スルノ目的ヲ有セリ

故殺罪ノ場合ニ於テ犯人ノ意ニ從フテ被害者ヲラサル他ノ人ヲ死ニ致シタルハ少クモ

故意ノ毆打、創傷、暴行及ヒ身體ノ毀傷

故殺罪ノ闕効犯若クハ未遂犯ナルヲ見タリシ然レハ毆打創傷ニ於テハ其未遂犯ヲ罰スルヲ得サルハ勿論其闕効犯ヲモ罰スルヲ得サル可シ實ニ毆打創傷ニ於テ刑ノ輕重ハ毀傷ノ輕重即チ現ニ致シタル損害ノ輕重ニ從フテ定ム可キモノニシテ本犯ノ致シ得可ク又致サント欲シタル損害ニ因ル可キモノニアラサルナリ○是ヲ以テ若シ法律ニ於テ右ニ關シテ特ニ論シタル所ナキハ決心シタルモノニシテ闕効シタル所ノ毆打創傷罪ハ固ヨリ之レヲ罰スルヲ得サル可シ何トナレハ是ノ如キ場合ニ於テハ如何ナル害惡カ其効ヲ闕キタルヤチ知ルヲ能ハサレハナリ又實際犯シタル罪ト雖モ罰ス可キモノニアラス何トナレハ其犯罪ハ故意ニ出テサルヲアル可ケレハナリ

然レハ是ノ如キ道德ニ悖戻シ社會ニ害タルモノヲ以テ決シテ不問ニ付スルヲ得ス是レ實ニ罪ヲ犯スノ意思アリ又社會ヲ害スル所爲アレハナリ蓋シ此場合ニ於テ所爲ト意思ノ符合セサルハ言ヲ待タス然レハ二個共ニ歸責ス可キモノニシテ犯人一ノ損害ヲ加ヘント欲シテ他ノ損害ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ固ヨリ之レヲ罰セサル可ラス
本法ハ爰ニ只前記ノ區別ヲ爲スニ止マリ毀傷ノ輕重豫謀及ヒ暴行ノ他ノ犯罪トノ關係ノヲ至リテハ別ニ論スル所ニアラサルナリ

第三百四十二條

〔第六百八十五號〕 本法ハ爰ニ事實ノ性質ヨリ生ス可キ故意ノ殺害及ヒ故意ノ毆打創傷ノ類似迄ヲ説明セリ

蓋シ法律上明カニ此同視ヲ説キタリトテ別ニ奇恠ト爲スニ足ラサル可シ何トナレハ刑事ニ於テハ裁判所ノ法律上豫定シアル場合ニ最モ著シキ類似アルニ托シテ他ノ豫定セサル場合ニ其刑ヲ適用スルヲ許サレハナリ(第二十四號已下參看)

此二節ノ間ニ許多類似ノ點アリテ存スルヲ説キタレハ本問ノ説明ヲ終ラスルニ臨ミ其間ニ存スル已上暗ニ前條ニ説キタル所ノ一大差異ヲ爰ニ見ル可シ即チ毆打創傷及ヒ有害物ノ施用ニ於テハ別ニ之レカ爲メ何等ノ毀傷アリテ生セサルキハ其未遂犯闕効犯ヲ罰スルヲ得ストノ事はレナリ

第三節 故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

第三百四十三條 被告人自己ノ身體ニ重大ナル暴行ヲ受ケ直チニ發シタル激怒ニ乘シテ故殺及ヒ故意ノ毆打創傷若シクハ暴行ヲ加ヘタル時ハ其罪ヲ宥恕ス(佛刑、第三百二十一條、第三百二十五條)

自己ノ過失ニ依リ暴行ヲ招キ爲メニ激怒ヲ發シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ此宥恕ノ限ニ在ラス(刑、第二百九條)

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

同上 (又配偶者間ノ暴行ニ付テハ此宥恕ヲ許與セサルモノトス)(刑、零〇佛刑、第三百二十四條第一項)

第三ノ人 第三百四十四條 他人ニ對シテ重大ナル暴行ヲ加フルヲ目撃シ爲メニ激怒ヲ發シテ故殺罪ニ對スル 暴行ヲ犯シ若クハ暴行ヲ加ヘタル者ニハ激怒ヨリ生スル宥恕ヲ許與スルヲ得可シ(刑、零〇佛刑、同上)

相互ノ暴行

第三百四十五條 二人以上數人ニテ爭鬪シ互ヒニ毆打創傷シ其何人ヨリ挑撥シタルモノナルヤテ證スルヲ能ハサルキハ總テ激怒ヨリ生スル宥恕ヲ得可シ(刑、第三百十條)

竊通ノ現行 第三百四十六條 本夫其婦ノ竊通ノ現行犯ヲ襲ヒ現場ニ於テ姦夫若クハ姦婦ニ對シテ故殺

行 若クハ暴行ヲ加ヘタルキハ其罪ヲ宥恕ス可シ(佛刑、第三百二十四條第二項)

然レモ本夫前キニ其婦ノ淫行ヲ幫助シタルキハ本宥恕ノ限リニ在ラス(刑、第三百十一條)

晝間ノ踰越 第三百四十七條 晝間故ナクシテ人ノ住居シタル邸宅又ハ建築アルト建築ナキトテ問ハス

人ノ住居シタル邸宅ノ障壁ヲ踰越損壞スル者或ハ同所ニ亂入シタル者ヲ防止シ又ハ直チニ

追逐スルカ爲メ故殺ヲ行ヒ又ハ暴行ヲ加ヘタル者ハ其罪ヲ宥恕ス可シ(刑、第三百十二條〇

佛刑、第三百二十二條)

必要物ノ盜奪 第三百四十八條 縱令ヒ身体ニ對スル暴行ナシト雖モ(必要ナル物品)ノ盜奪ヲ防止スル手

段トシ或ハ盜奪物品ヲ直チニ取戻スカ爲メ同一ノ重罪若シクハ輕罪ヲ犯シタル者ハ亦タ其

罪ヲ宥恕ス(刑、零)

宥恕ノ効 第三百四十九條 前諸條ニ豫定セシ場合ニ於テ故殺罪、毆打創傷若クハ暴行ノ罪ヲ科ス可

キ刑ハ前節ニ記載シタル區別ニ從ヒ本刑ニ三等又ハ四等ヲ減ス可シ(刑、第三百十三條〇佛

刑、第三百二十六條)

正當及ヒ必要ノ防衛 第三百五十條 正當及ヒ必要ノ防衛ノ爲メ故殺若クハ故意ノ暴行ヲ爲シタル者ハ其自己ノ

爲メニセシト他人ノ爲メニセシトテ問ハス其罪ヲ論セスシテ其刑ヲ免除ス(佛刑、第三百二

十七條)

然レモ故殺若クハ暴行ノ本犯自己ノ過失ニ因リ其被フリタル兇行ニ機會ヲ與ヘタルキハ只

本刑ヲ宥恕スルニ止マル可シ(刑、第三百十四條)

正當防衛 第三百五十一條 左ノ場合ニ於テ故殺又ハ故意ノ暴行ヲ爲シタル者ハ正當必要ナル防衛ノ

手段トシテ尙ホ其罪ヲ論セス其刑ヲ免除ス

ト同視ス 可キ場合

第一 數人ノ犯シ又ハ犯サントスル毀壞若シクハ劫掠放火若クハ堤防ノ破壞ニ對シテ動産

又ハ不動産ヲ保護スルニ出テタル時(佛刑、第三百二十九條)

第二 身體ニ暴行ヲ加ヘテ犯シ若クハ犯サントスル盜罪ヲ防止シ又ハ贓品ヲ直チニ取戻ス

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不諭罪ノ原由

爲メニ出テタル時(佛刑、第二百二十九條第二項)

第三 夜間故ナクシテ第二百四十七條ニ豫定シタル住居ニ闖入スルヲ防止シ又ハ闖入シタル者ハ直チニ追逐スル爲メニ出テタル時(刑、第二百十五條○佛刑、第二百二十二條第二項)

防衛ニ於ケルノ過

第三百五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ只法律上ノ宥恕アルノミ

第一 故殺若クハ暴行ノ本犯其故意ヲ以テ身体財産ヲ正當ニ防衛スル爲メニ必要外ノ害ヲ兇行者ニ加ヘタル時

第二 危險ノ止息シタル後ニ至リテ害ヲ兇行者ニ加ヘタル時(刑、第二百十六條)

要旨

第三百四十三條

第六百八十六號 故殺罪及ヒ毆打創傷ニ刑ノ免除及ヒ普通法律上ノ宥恕ノ適用

第六百八十七號 重大ナル暴行ニ依ル激怒、尋常ノ故殺罪ニ適用ス可キモノニシテ加重ノ故殺罪ニ適用ス可ラサル宥恕

第六百八十七號第二 此宥恕ニ關スル二重ノ例外

第三百四十四條

第六百八十八號 他人ニ對スル重大ナル暴行ヨリ生スル宥恕、裁判所ニ委ネタル權限

第三百四十五條

第六百八十九號 爭鬪ニ於テノ相互ノ創傷

第三百四十六條

第六百九十號 本婦姦通現行犯ヨリ生スル宥恕

第六百九十一號 此ノ宥恕ニ付テノ要件

第六百九十二號 故殺ノ豫謀ニ出テタル場合

第六百九十三號 罪ヲ宥恕スルハ姦通ヲ遂ケタル時ニ限ル可シ、證據ニ付テノ特別ノ困難、裁判所ニ委ヌル査定ニ關シテ必要ナル權限

難、裁判所ニ委ヌル査定ニ關シテ必要ナル權限

第六百九十四號 凌辱ヲ受ケタル正妻ハ詐欺ヲ受ケタル本夫ト同一ノ宥恕ヲ得ルコトナシ

第三百四十七條

第六百九十五號 住居ニ亂入シタルヨリ生スル宥恕

第三百四十八條

第六百九十六號 法律上ノ宥恕ヨリ生スル減刑ノ効力

第三百四十九條

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

第六百九十七號 其罪ヲ論セサルノ所爲、自己若シクハ他人ノ身體ニ關スル正當防衛、廉耻ニ關スル正當防衛

第三百五十條

第六百九十八號 其同時ニ身體ニ關スル恐怖アリテ存スルキ財産ニ關スル正當防衛

第三百五十一條

第六百九十九號 實際ノ危險外ニ防衛ノ擴張

第三百四十三條

〔第六百八十六號〕 第一編第四章第一節ニ於テ(第八十九條以下)刑ノ全免ノ場合及ヒ一般ノ重罪及ヒ輕罪ニ適用ス可キ刑ノ宥恕ノ場合ヲ顯シタリ此場合タル固ヨリ故殺罪及ヒ故意ノ毆打創傷罪ニ適用スル所ナリ○故ニ恐怖心若シクハ智覺ノ失喪ニ依リテ故殺罪ヲ犯シタル者ニハ其本刑ヲ科スルコトナカル可ク且ツ二十歳已下ノ未丁年者及ヒ罪ヲ犯シ追捕ニ先タチテ自首シタル者ニモ亦等シク本刑ヲ科セスシテ其刑ヲ輕減ス可シ

爰ニ法律ハ單ニ此種ノ犯罪ニ適用ス可キ刑ノ免除及ヒ宥恕ノ場合ヲ顯ハセルモノナリトス是レ此種ノ犯罪ニハ最モ免刑及宥恕ノ場合多カル可キヲ以テナリ抑モ人タル者其所爲ニ付テ責ヲ負フカ爲メ、其所爲ニ付キ全ク責ヲ歸ス可キ爲メニハ其

人完全無缺ナル智覺精神ヲ有セシコトヲ要ス可シ然レハ其智覺精神タルヤ動止ノ自由ト同シク全ク失喪シタルニ非ラサルモ其一部ヲ錯亂セラル、コトアル可シ○是レ其智覺精神錯亂セシニ過キサル場合ノ爲メ特別ノ規則ヲ設定シ其刑ヲ緩假セサル可ラサル所以ナリ

〔第六百八十七號〕 夫レ忿怒ハ最モ烈シキ情慾ノ一ナリ論者多クハ忿怒ヲ以テ一時ノ狂氣ナリ然レハ忿怒ヲ抑制スルハ人ノ本分ニシテ人怒ヲ發スト雖レ之レヲ抑制スルヲ得ルモノナリト云フアリ然リト雖レ刑法ニ於テ世人ノ悉ク賢徳ヲ有スルヲ望ムコト能ハス故ニ人ノ暗弱ヲ酌量シ而シテ「重大ナル暴行」即チ身体上ノ苦痛ヲ生シ若シクハ凌辱ヲ構成スルニ足ル可キ暴行ヲ受クルニ依リ望ヲ發シタルキハ本法ハ其熟考スルノ時間ナク又怨ヲ抑制ス可キ智覺ニ訴フルノ暇ナクシテ自ラ暴戻ナル返報ヲ爲スニ至リ以テ重大ナル毆打創傷若シクハ過誤殺ヲ爲シ或ハ故殺ヲ爲シタル者ニハ其刑ヲ宥恕セリ

然レハ犯人此ノ如ク其刑ヲ減輕ス可キ法律上ノ宥恕ヲ得ル爲メニハ激怒ニ應ジテ「直チニ」返報ヲ爲スコトヲ要ス可シ○蓋シ其時間査定スルヲ得ヘキニ疑ヒナシト雖レ決シテ其間頗ル長フシテ熟考ノ効ヲ生シ得ルニ足ラザリシコトヲ要スルモノニシテ其時間ノ査定ハ裁判所ニ於テ之レヲ爲ス可キナリ

是ヲ以テ暴行ヲ受ケタル人先ツ誹議若シクハ罵詈ヲ以テ應答シ然ル後チ暴行人ニ向テ手

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

ヲ下シタルキハ宥恕ノ利益ヲ得ルヲ難カル可シ況ンヤ其暴行ヲ受ケタル人若干ノ距離アル處ヘ行キテ兇器ヲ搜索シタルキハ縱令ヒ其間短フシテ豫謀ヲ爲スノ違ナキト雖ヒ勿論宥恕ノ利益ヲ許與セサルナリ○謀殺罪ヲ構成スル此終リノ場合ハ固ヨリ激怒ニ付テノ法律上ノ宥恕ノ問題タルヲ得ス是レ本條ノ明文ニハ殊ニ注意ヲ加ヘテ「尋常ノ故殺罪」ト記載セシ所以ナリ(第二百二十七條註第六百五十六號參看)

又毒殺罪其他第三百二十八條及ヒ第三百三十條ニ豫定シタル其故殺罪ニ關シテハ其直チニ殺シタルモノナルニ拘ハラズ忿怒ヨリ生スル法律上ノ宥恕アルヲナシ○此場合ニ於テノ激怒ハ酌量減刑ノ理由トスルヲ得可キナリ

〔第六百八十七號第二〕 法律ハ其自ラ激怒ヲ構成ス可キ暴行ニ機會ヲ與ヘタル者ニハ宥恕ノ利益ヲ拒絕セリ○蓋シ此條例タルヤ佛蘭西刑法其他ノ外國刑法ニ闕クル所ニシテ本法案之レヲ規定セシハ實ニ良好ト云フ可シ試ニ思ヘハ他人ニ對シテ重大ナル罵詈ヲ加ヘ之レカ爲メ毆打創傷若クハ其他ノ暴行ヲ受クルヲ儘之レアル可シ若シ此ノ如キ場合ニ於テ罵詈ノ本人暴行ヲ受ケ其反報トシテ加ヘタル創傷或ハ又故殺ニ付テ宥恕ヲ受クル者トセシカ其結果タル實ニ言フ可ラサルモノアルニ至ラン又此ノ如クスレハ或ハ此畏忌ス可キ手段ヲ以テ報讎ノ念ヲ滿タス者アリ從テ豫謀ニ出テタル故殺ニシテ宥恕ノ利益ヲ受ク

ルニ至ル可シ是レ實ニアル可ラサルノ事ナリ

又本法ハ爰ニ原正條ニ加フルニ佛蘭西刑法(第二百二十四條第一項)ニ採リタリト見ユルモノニシテ之レハ儘カコ書式ヲ異ニセシ所ノ一ノ例外ヲ以テ加説セリ

蓋シ佛蘭西刑法ニ於テハ其故殺ノ際故殺人タル本夫ノ生命危險ニ迫リタルノ外夫婦間ノ重大ナル暴行ニ起リタル激怒ニ對シテハ宥恕ノ利益ヲ拒絕シタリ從ツテ其結果タル其生命危險ナル場合ニ於テ暴行ヲ加ヘタルキハ只宥恕ヲ受クルニ止マリ正當防衛ノ爲ニスル刑ノ全免ヲ受クルヲナカル可シ然ルニ刑法ノ意義ヲ解スルニ此ノ如クスルハ實ニ難キ所ナル可シ何トナレハ彼正當防衛タルヤ人タル者ノ權利ナレハ後日(第八節)子タル者縱令ヒ其父ニ對シテハ重大ナル暴行ヨリ生シタル宥恕ヲ術スト雖ヒ之レニ對シテ正當防衛ノ權利ヲ決行シ絶テ弑親罪ト爲ラサルヲ説ク可シ是レニ由リテ之レヲ見レハ則チ夫婦ノ正當防衛ニシテ刑ノ全免ノ場合タラサル可ラサルハ又疑フ可キニアラサルナリ○蓋シ佛蘭西刑法ハ只夫婦ニ罪ノ宥恕ヲ拒絕シ正當防衛ノ權利ニ至リテハ全ク之レヲ保存シタルカ如シ

佛蘭西刑法ニ於ケル實ノ精神ハ果シテ前解ノ如クナルヤ否ヤヲ知ラスト雖ヒ本法ハ右ノ意義ヲ以テ之レヲ改定セリ○又佛蘭西刑法ニ於テハ故殺罪ニ本宥恕ヲ拒絕スルト同時ニ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

毆打創傷罪ニモ亦之レテ拒絕セリ蓋シ尙ホ該法ニ於ケル困難ノ點ナリトス何トナレハ其例外タルヤ只故殺罪ニ限リテ記載シタル所ナレハナリ此例外ノ辨明ニ至リテハ之レテ解ズル極メテ容易ナリ何トナレハ夫婦タル者ハ外人ヨリ受クル所ノ凌辱タル可キ動作ハ輒スタ忍ハサル可ラス而シテ夫婦ノ間ニハ其教育ノ如何ト慣習ノ如何トニ從ヒ屢々不和ヲ生シ爲メニ爭論ヲ爲シ時トシテハ暴行ニ出ツルカ如キヲアリ然レレ之レテ外人ヨリ來リタルモノニ比スレハ其榮譽ヲ毀損スル一層僅少ナル可ケレハナリ

第三百四十四條

〔第六百八十八號〕 本條ニ於テハ其感情ノ本性ハ實ニ貴重ス可キモノニシテ智覺ヲ以テ之レテ節度セサルノ時ニ非ラサレハ責罰ス可ラサル所ノ感情ヲ酌量セリ蓋シ何人ト雖ヒ他人ノ非理過刻ノ暴行ヲ受クルヲ見レハ縱令ヒ其人毫モ血屬ノ縁ナク只懇親ノ關係ニ過キサルキト雖ヒ爲メニ怒ヲ發セサル者ナカル可シ而シテ其非理ニ暴行ヲ受クル人小兒婦人癡疾人若シクハ老人タル時ニ於テ此感情ヲ動スハ當然ノコトナル可シ○此ノ如キ場合ニ於テハ傍觀者只其暴行ノ繼續ヲ防止スルノ權利ヲ有スルノミナラス尙ホ其之レヲ防止スルハ其本分ト云フ可シ而シテ此關係タルヤ只暴行ヲ防止スルニ止マラザ

ル可ラス然レレ傍觀者熟慮スルニ違ナク其激怒ニ乘シテ暴行ノ本犯ヲ毆打シタルキニハ其不條理タル固ヨリ疑ヒナシ然レレ法律ハ尙ホ其自ラ暴行ヲ受ケタルキト同シク其罪ヲ宥恕セリ

本條ノ法文ニハ殊ニ注意ヲ加ヘテ此宥恕ノ原由ヲ構成スル所ノ暴行ハ其反報ヲ爲セシ本犯ノ〔目前ニテ〕ニ加ヘラレタルモノヲ求メタリ是ヲ以テ其暴行ニシテ只之レニ語ラレタルニ過キサルキハ縱令ヒ其新シキ痕跡ヲ示シタルキト雖ヒ其罪ヲ宥恕ス可カラス然レレ其毆打ヲ見サルモ其叫聲ヲ聞キタルキハ現場ニ在リタルモノト見做スモ則チ法文ヲ索驗シタル所ナシ何トナレハ人タル者當ニ目撃シタリシヲ以テ其現場ニ在ルノミナラス尙ホ耳ニ聞キテモ其現場ニ在リト云フヲ得可ケレハナリ故ニ被告人盲目タリシヲ以テ毆打ノ者若シクハ被害者ノ叫聲ヲ聽キタルニ過キサリシ時又ハ暗夜ニ於テ其事アリシ時ト雖ヒ恐クハ現場ニ在リタリト云フニ踰躅スル者ナカル可キナリ

本條ノ場合ニ於テハ宥恕ヲ許與ス可キヤ否ヤノコトハ之レヲ裁判所ノ査定ニ委シタリシヲ以テ其宥恕ヲ與フルノ場合最モ稀少ナル可シ何トナレハ法文ニハ宥恕ヲ〔與フルコトヲ得可シ〕ト云ヒタレハ其之レヲ許與スルハ情狀ノ總体ニ付テ決定ス可キモノナレハナリ是ヲ以テ其直接關係ナキ暴行ヲ機トシテ一身上ノ怨恨若シクハ内心ノ嫉妬ヲ滿タスカ如キ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

アル可ラサルハ勿論別ニ必要ナクシテ親戚ノ争闘ニ關預ス可ラサルナリ
本條ハ前條ト異ナリ夫婦間ニ於テモ此宥恕ヲ拒絕セス何トナレハ爰ニテハ前條ニ等シキ
理由ナケレハナリ蓋シ前條ノ場合ニ於テハ故殺若シクハ毆打創傷ノ本犯ハ傲慢心若シク
ハ其他利己ノ感情ニ制セラレテ怒ヲ發シタルモノナリト雖モ爰ニテ其怒ヲ發シタルハ惻
隱ノ感情即チ他人ニ保護スルノ感情ヨリ來リタルモノナルヲ以テナリ是レニ由リテ之レ
ヲ見レハ則チ母タル者本夫ノ殘酷ニ其兒ヲ毆打スルヲ目撃シタルハ自怒ニ堪ヘスシテ
自ラ其本夫ヲ毆打創傷シ縱令ヒ死ニ致シタリト雖モ其罪ノ宥恕ヲ失スルコトナカル可キ
ナリ

第三百四十五條

〔第六百八十九號〕 本條ノ論決タル制法トシテハ全ク新設ニ係ルモノナリト雖モ公義ニ基
キ規定シタル所ニシテ縱令ヒ法律ヲ規定セサルモ常ニ裁判所ニ於テ補充セサル可ラサル
モノナリトス

凡ソ争闘ニ於テハ必ラス挑撥者被挑撥者ノ二人アル可ク對手雙方ノ者同時ニ相ヒ毆打セ
シコト假定スルハ頗ル難カル可シ是ヲ以テ其内一人ハ必ラス宥恕ヲ受ク可キ者アルナリ
然レモ其争闘ニ付テ證人ナク又何レノ方ヨリ先ツ手ヲ下シタルヤヲ知ルニ足ル可キ證據
ナキハ二人共ニ宥恕セサルト二人等シク宥恕スルトノ間ニ中庸論決ナキガ故ニ法律ハ
公義ニ從ヒ終リノ說ヲ採用シ二人共ニ其罪ヲ宥恕セルナリ
然レモ其證據ナキト雖モ事實ノ情狀創傷ノ場所若シクハ性質ニ依リテ其犯シタル暴行
ノ順序ヲ知ルコトヲ得可シ故ニ對手人中一人ハ右腕ニ創傷ヲ受ケ及ヒ毆打スルヲ得サルノ
狀ニ至リ殘リノ一人ハ頭部若シクハ胸部ニ創傷ヲ受ケタルハ之レニ依リテ其右腕ニ創
傷ヲ受ケタル者先手ヲ下シタリト決スルコトヲ得可キナリ

第三百四十六條

〔第六百九十號〕 本條ニ論スル宥恕ノ場合ハ却テ外國制法中ニ存スル所ニシテ激怒ヨリ生
スル宥恕ト同一ノ思想ニ基キテ定メタルモノトス即チ法律ニ於テ本夫ノ罪ヲ宥恕スル所
以ノモノハ本夫其婦ノ姦通ヲ目撃シタルモハ忽チニ忿怒ヲ發スルヲ以テ道理ニ訴フルノ
時日迄ナク又裁判所ニ告訴シテ其處分ヲ請求スルノ遑ナキヲ以テナリ
固ヨリ此場合ニ於テ本夫其權利ヲ行フタルモノト云フヲ得ス蓋シ此ノ如キノ場合ニ於テ
本夫ハ其婦ノ生殺ノ權利ヲ有スルモノト思惟シタリシハ往時ノ事ニシテ縱令ヒ日本ニ於
テモ他ノ邦國ニ於ケルカ如ク曾テ此ノ如キ誤見アリテ存シタリト雖モ今日ニ在リテハ最
早之レヲ主張スルコトヲ得サル可シ又縱令ヒ之レヲ主張スルモノアリト雖モ法律上之レヲ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不諭罪ノ原由

採用スルヲ能ハサルナリ○然レモ法律ノ爲スヲ得又爲サ、ル可ラサル所ノモノハ其婦ニシテ本夫ノ信用ヲ欺クニ其愛ヲ損傷シ且ツ其資格ヲ凌辱セシメタルハ本夫タル者人情トシテ怒ヲ忍フ能ハサルモノナレハ其人類ノ軟弱ナル所ヲ酌量セサル可ラサルヲ即チ是レナリ

〔第六百九十一號〕 法律上ノ宥恕ニ關シ本條ニ記載シタル要件ニ付キ爰ニ二三ノ注意ヲ爲サ、ル可ラス

第一 本夫姦所ニ於テ姦通ノ犯人ヲ襲フヲ要ス是ヲ以テ本夫艶書若シクハ誠實ナル人ノ密告ニ依リテ其婦ノ姦通ノ證ヲ得タルヲ以テ足レリトセサルナリ

第二 其姦通ヲ發見シタルヨリ報讎ヲ爲スニ至ル迄ノ間頗フル長フシテ怒ヲ和ラクルニ足ルノ時間ナカリシヲ要ス即チ暴行ヲ受ケ直チニ怒ヲ發シテ人ヲ殺傷シタルニ付テ爲シタル注意ハ尙ホ爰ニ適用ス可キモノトス

第三 犯人タル婦人ハ本夫ノ正妻タルヲ要ス故ニ其妾ノ姦通ヲ襲ヒタル者ハ法律上ノ宥恕ヲ受クルヲ得ス○縱令ヒ日本ニ於テハ民法上蓄妾ヲ許可シ之レニ法律上若干ノ權利利益ヲ與ヘタリト雖モ固ヨリ正妻ト云フ可ラス即チ彼妾ノ關係タルヤ之レヲ結婚上ノ關係ニ比スレハ極メテ薄弱ナルモノニシテ妾ニハ妻ノ如ク貞實尊敬ヲ盡ス可キ限

格ナル本分アラサルナリ故ニ本夫其欺罔ヲ受ケタリトテ之レヲ感スル度極メテ僅少ナ

リト推測スルヲ得可シ此理由タル實ニ爭フ可ラサルヲニシテ妾ノ不貞ハ夫ヲシテ其種

ニ非ラサル者ヲ其子ナリト公言セシムルカ如キ危險ニ陷ラシムルヲナカル可キナリ

第四 又本夫利益又ハ暗弱若シクハ其他ノ原由ニ依リテ其妻ノ不品行ヲ助成シタルハ忍フ可ラサル忍怒ノ宥恕ヲ申立ツルヲ得サルモノニシテ此場合ニ於テハ現在ノ姦夫前キノ姦夫ト同一ナルト否トヲ區別スルニ及ハス即チ此ノ如キノ場合ニ於テハ本夫法律上ノ恩典ヲ受クルヲナシ然レモ第三百九十三條ニ從ヒ其婦ノ姦通ヲ裁判所ニ告訴スルノ權利ヲ保存ス可シ何トナレハ先キニ罪タル可キ思想ヲ有シタリトテ終始其婦ノ不品行ヲ同許スルノ義務アラサルヲ以テナリ

本法ハ佛蘭西刑法(第三百二十四條)ニ於テ要メタル一ノ他ノ要件即チ「夫婦住居ノ家宅内ニ於テ」姦通罪ヲ犯スヲ要メス○是レ蓋シ本法ノ起草者ハ白耳義刑法伊太利刑法ト意見ヲ同フシ場所ノ情狀ハ本夫ニ對シテ凌辱ヲ加ヘ之レヲシテ宥恕ス可キ怒ヲ發セシムルニ必要ナラサレハナリ

〔第六百九十二號〕 佛國ニ於テハ儘之レアル所ニシテ日本ニ於テモ決シテ稀レナラサル可キ場合ハ本夫其妻ノ貞實ニ付キ疑念ヲ懷キ其姦所ヲ襲ヒ之ヲ殺害セントノ目的ヲ以テ兇

故殺及ヒ故意ノ證打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不倫罪ノ原由

器ヲ携帯シ潜伏セシ場合即チ是レナリ○蓋シ此場合タル最モ困難ナルモノトス何トナレハ本夫其妻ノ不貞ナル條件ヲ以テ故殺ヲ豫謀シタルカ如クナレハナリ然ルニ彼ノ故殺ノ罪タル他ノ條件ニ從フタリトテ爲メニ豫謀ヲ以テ加重セサルコトナキハ已ニ業ニ説キタル所ナリ○又其故殺ヲ行ヒタルハ激怒ニ乘シタルニアラスシテ只薄情報讎ノ精神ニ出テタルモノナルカ如シ○然レハ佛國ニ於テハ此ノ如キ場合ニ本夫ニ宥恕ノ利益ヲ拒絕スルコトナキ(第六百五十九號參看)所ニシテ檢察官モ絶テ之レカ反對ニ出ツルカ如キコトナシ然ラサレハ陪審官ニ於テ最重刑ト思惟シ却テ被告人ヲ「無罪ナリト」宣言スルノ恐レアル可ケレハナリ○加之此本夫ニ宥恕ノ利益ヲ與フルコトタルヤ通常ノ場合ニ於ケルノミナラス又姦婦其婚家外ニテ襲ハレタル場合ニ於テモ屢次之レアルモノト認知セサル可ラス但シ此點ニ關シテハ本文ノ爲メ慣習ハ法律ヨリ一層寛裕ナルコト固ヨリ論ヲ待タス是畢竟離婚ノ法ノナキヲ以テ婚姻ヲ解ク可ラサルカ爲メ本夫ノ保護充分ナラサルニ從ヒ妻ノ罪一層重キヲ加ヘタルハ固ヨリ疑ヲ容レサル所ナレハナリ

〔附言〕佛蘭西ニ於テハ革命ノ時ヨリ離婚ノ法ヲ設定シ第一帝國ノ時代ニ於テモ尙ホ之レヲ保存セシカ「ブールボン」家再興ノ時之レヲ廢止シタリ(千八百十六年五月八日ノ法律)○然ルニ現今ニ至リテ更テ之レヲ設定シタリ

〔第六百九十三號〕又其他爰ニ頗ル確定スルニ難キ一ノ論點アリテ存スルナリ即チ故殺人タル本夫ニ宥恕ヲ與フル爲メニハ如何ナル時期ニ於テ姦通アリタリト云フヲ得可キヤ或ハ既ニ遂ケタルモノナルコトヲ要スルヤ或ハ既遂ト同視シ得ル罪ト爲ル可キ親密ニ付テ度アルヤ果シテ然ラハ則チ其度ハ如何ノモノナルヤ即チ是レナリ此ノ如ク微妙ナル事項ニ付テ其所爲ノ準備ト既遂トチ區別スル所ノ精確ナル限界ヲ設クハ立法者法學者共ニ最モ難シトスル所ナリ是ヲ以テ總テ斯ク至難ノコトヲ定ムルヨリハ寧ロ裁判所ノ査定ニ委ヌルノ優レルニ如カサルナリ○本婦ノ姦通ヲ責罰スル第三百九十三條ニ於テ同一ノ難題ヲ見ル可シ○且ツ裁判所ト雖ヒ此點ニ關シテハ自ラ一定ノ原則ヲ設定スルノ本務ヲ有セス故ニ是ノ如キ事件ニ遭逢シタルハ裁判所ハ只姦通ノ有無ヲ宣告スルニ止マル可キモノニシテ爰ニ説ク所ノ姦通トハ既ニ遂ケタルノ義ト解ス可ク豫備若シクハ未遂ノ義ト解ス可ラサルナリ「法律上輕罪ノ未遂犯ヲ罰セス」然レハ裁判所ハ事實査定ノ主權ヲ有ス可ク而シテ其裁判宣告書ニ於テハ別ニ之レヲ詳記スルニ及ハサルナリ此事實ノ問題ヲ討論論究スルハ辯論ノ時ニ在ルノミ是ヲ以テ公衆ヲシテ猥褻ノ詳細ヲ聞カシメサル爲メ其辯論ノ際傍聽ヲ禁スルコト屢次之レアル可キナリ

〔第六百九十四號〕本條ヲ終了スルニ臨ミ爰ニ注意シ置ク可キハ其本夫ノ姦通ヲ現場ニ於

テ襲ヒ夫若シクハ從犯人ヲ毆打創傷シ若シクハ死ニ致シタル正妻ニ宥恕ヲ許與セサルノ事即チ是ナリ○蓋シ爰ニテハ別ニ夫ト妻トノ姦通ニ於テ道德上ノ過失ハ同一ナルヤ否ヤヲ搜索スルヲ要セス此二個ノ過失ヨリ生ス可キ結果ニ於テ社會ニ及ホス可キ害惡ノ點ヨリ立法者ノ注意ス可キ一大差異アリテ存スルナリ是レ他ナシ彼妻ノ姦通ハ本夫ヲシテ其姦通ノ結果タル他人ノ兒ヲ以テ自己ノ子ト爲サシムルヲアリト雖ヒ本夫ノ姦通ニ於テハ此ノ如キノ恐毫モ之レアルコトナク其姦通ノ結果タル兒カ正妻ノ親戚中ニ入ルコト絶テ之レナカル可ケレハナリ○即チ此ノ差異アルニ依リ妻ニ對シテハ本夫ニ對スルヨリハ一層嚴重ナル本分ヲ負ハシメタルモノニシテ之レニ依リテ凌辱ヲ受ケタル正妻ノ忿怒ニ比スレハ其欺ク所ト爲リタル本夫ノ忿怒ハ一層理アルヲ説明スルニ足ル可シ是レ本法カ其本夫ニ故殺ノ宥恕ヲ認許シタルニ拘ハラズ正妻ニ之レヲ拒絕シタリトテ絶テ不條理ト爲ス可ラサル所以ナリ

第三百四十七條

〔第六百九十五號〕 本條ニ論スル所モ亦故殺若シクハ毆打創傷ノ本犯ノ智覺精神全カラサルノ場合即チ是レナリ然レヒ本法ハ激怒ヲ假定セスシテ寧ロ多少重大ナル危險ニ付テノ恐怖心ヲ假定シタルナリ○蓋シ暴行論越若シクハ損壞ヲ以テ邸宅ニ侵入スルヲ見タル者

縱令ヒ晝間ト雖ヒ其侵入者ニ罪ヲ犯スノ意思アリト思惟スルハ固ヨリ確實ノコトタル可シ然レヒ未ダ直接ノ逼迫身體ニ對スル暴行アラサルカ故ニ已下第三百五十條ニ見ル如キ毆打創傷故殺ニ關スル正當防衛ニアラサルヤ明カナリ
若シ襲撃者兇器ヲ携帯シ前キニ逼迫ヲ加ヘタルニ於テハ裁判所ハ事實上故殺人ハ其身體ヲ正當ニ防衛シタルモノト斷定スルコト得可キナリ

本法ハ爰ニハ「晝間」ニ人ノ邸宅内ニ侵入シタルノ場合ヲ論セリ即チ彼夜間ノ侵入ハ固ヨリ正當防衛ノ場合ニ入ル可シ〔第三百五十一條第三項參看〕

終リニ臨ミ爰ニテハ前記ノ場合ト同シク邸宅中ニ侵入シタル際「直チニ」故殺若シクハ毆打創傷ヲ加ヘタルヒニアラサレハ之レニ法律上ノ宥恕ヲ認許セサルコトヲ注意ス可シ

第三百四十八條

〔第六百九十六號〕 最モ正當ニ得有シタル動産若シクハ不動産ノ所有權ノ保護タル之レヲ人身ノ保護ニ比スレハ常ニ少ナキノミナラス盜賊ノ身體ニ比シテモ尙ホ少ナキノナル可シ故ニ此場合ニ於テハ盜犯ノ未遂犯ヲ防遏スル爲メ故殺ヲ用ユルヲ得サルハ勿論尙ホ毆打創傷ニ出ツルヲモ得サル可シ但シ身體ニ對スル暴行ヲ以テシタル盜犯ハ此限ニ在ラス○然レヒ法律ハ人タル者ハ大ヒニ其財産ヲ貴重スルモノニシテ其既得ノ所有權ヲ犯サ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

ルレハ其逼迫ヲ受ケタル者ヲシテ正當ノ忿怒ヲ發セシムルヲ知レリ就中其所爲現在ニシテ其目ニ觸ル、時ニ於テハ更ラニ一層ノ忿怒ヲ發スルヲ知レリ即チ本條ニ於テモ其忿怒ヲ反報ノ所爲ト爲シ宥恕ス可キノ理由アリト看做シタルナリ

且ツ右ニ關スル一切ノ駁論ヲ豫防スルカ爲メ本條ニ於テ原條ニ加フルニ必要ノ物品ニ關スル云々ノ要件ヲ以テセリ即チ裁判所ノ査定ニ委シタル此ノ點ハ一大注意ヲ加ヘ被害者ノ身分ヲ斟酌スルニアラサレハ容易ニ宥恕ヲ許與セサルニ至ラシム可キナリ

佛蘭西刑法ニ於テハ此ノ場合ヲ規定セサルニ因リ裁判所ハ決シテ宥恕許與スルヲ能ハス只狀情ヲ酌量シテ減刑ヲ爲シ得可キノミ○然レハ陪審ハ尙ホ重キニ過クルノ刑ト思惟シ被告人ハ「有罪ナラス」ト宣言スル決シテ稀レニアラサル所ニシテ是レ即チ被告人其罪ヲ犯シタルノ際智覺精神ヲ失喪シタリト云フニ均シキモノナリ

第三百四十九條

〔第六百九十七號〕 本案ノ制タル之ヲ佛蘭西刑法ノ制ニ比スレハ一層簡易ニシテ且ツ論理ニ適シタルモノナリ佛蘭西刑法ニ從ヘハ其犯罪ノ宥恕ス可キノニ非ラサルキ犯人ノ處セラル可キ刑ヲ別ツテ三級ト爲セリ無期重罪刑有期重罪刑及ヒ輕罪刑即チ是レナリ右三箇ノ場合ニ於テ宥恕ハ本刑ヲ減輕シテ其刑期ヲ一年已上五年已下、六月已上二年已下

及ヒ六月已上六月已下ノ三級ニ區別シタル禁錮ノ刑ニ換ヘリ

日本刑法ノ制ニハ別ニ刑ノ等級ヲ別ダスシテ加重ニ付テモ減輕ニ付テモ一般ニ採用シタル制ニシテ減輕等ヲ以テ刑ヲ減輕シ其最大迄ヲ三等ノ減輕トシ最上迄ヲ四等ト爲セリ〔附言〕○此ノ一般ノ方法ハ一般ノ重輕罪〔第九十三條乃至第九十八條〕共通スル宥恕及ヒ酌量減輕〔第一百十條〕ニ付テ已ニ業ニ見タル所ナリ

〔附言〕 頒布ノ正條〔第三百十三條〕ニテハ二等乃至三等ヲ減輕セリ是ヲ以テ宥恕ス可キ故殺罪ノ場合ニ於テ其刑ハ常ニ重罪ノ刑ナル可シ但シ裁判所ニ於テ同時ニ酌量減輕セシ時ハ格別ナリトス

第三百五十條

〔第六百九十八號〕 宥恕ハ必ラス罪ヲ犯シ刑ニ處スルヲ想像スルモノナリ本條ニ於テ論スル所ハ宥恕ノ問題ナラスシテ故殺若シクハ毆打創傷ノ本犯其權利ヲ執行セシノ場合即チ不論罪ノ場合ナリ即チ羅馬人已ニ右ニ關シテ云ヘルヲアリ「腕力ヲ以テ腕力ヲ防止スルハ性法ニ適應スルモノニシテ吾人ノ身體ヲ保護スル爲メ爲ス所ノモノハ吾人正當ノ權利ヲ以テ之レヲ爲スナリ」ト

又吾人ハ非理ノ兇行ニ對シテ他人ヲ保護スルノ權利アリ加之若シ吾人自己ノ身體ニ同一

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

ノ危険ヲ冒スヲナクシテ此保護ヲ爲スヲ得ハ吾人ハ本分ヲ盡シタルモノト云フヲ得可シ○且ツ其吾人ノ保護セント欲スル所ノ人吾人ノ血屬若シクハ縁屬ナルヲ要セス只其人吾人ノ同輩ニシテ且ツ危険ニアルヲ以テ足レリトス

婦女強姦ヲ免レントシテ其兇行人ニ故意ノ毆打創傷ヲ加ヘ或ハ又故意ニ之レヲ殺シタル者ハ正當防衛ノ場合ニ在ルモノト見做シ其罪ヲ論セサルニ踰躅ス可ラス

然レモ婦女猥褻ノ所行ニ遇ヒタルニ過キサリシキハ不論罪ノ限リニ在ラサル可シ○佛蘭西刑法ニテハ右ニ關シテ明カニ說明ヲ下シ婦女ニハ只法律上ノ宥恕ヲ許與スルノミ(第三百二十五條)而シテ尙ホ婦女ノ防衛ニハ報讎野番ノ性質ヲ具スルモノニシテ正當ノ度ヲ失スルモノナリト假定セリ是レ他ナシ婦女其兇行人ニ對シテ翠丸ヲ斷チ重罪ヲ犯シタルヲ假定スルヲ以テナリ

日本ニ於テハ此場合ヲ豫定セス然レモ或ハ強姦ヲ防止スル爲メ或ハ猥褻ノ所行ヲ防止スル爲メ是ノ如キ場合アリテ顯ハレタルキハ前條ノ法文ニ從フテ之レヲ決スル極メテ容易ナリトス故ニ強姦ノ場合ニ於テ其方法ノ殘酷ナルニ拘ラス若シ婦女自己ノ身體ヲ正當ニ防衛スル爲メ他ノ手段アラサルニ於テハ正當防衛ト看做スヲ得可シ又逃ル、ヲ得ルヲ場合合若シクハ其兇行人ヲ創傷スルニ此ノ如キ殘酷ノ所行ニ出テキルヲ得ルノ場合ニ於テハ

單ニ法律上ノ宥恕ヲ許與スルニ止マル可キナリ(第三百五十二條)又猥褻ノ所行ノ場合ニ於テハ其創傷ヲ招キシハ重大ナル暴行ニ因ルモノトシテ只其罪ヲ宥恕スルニ止マル可シ(第三百四十三條)

本條ニテ強姦ノ未遂犯ヲ以テ婦女ノ爲メ正當防衛ノ場合ト看做シタル論決ニ由リテ觀ルキハ一般ニ兇行ヲ受クル者ノ生命カ危險有ルヲ要セサルヲ證スルニ足ルナリ是ヲ以テ創傷、毀傷及ヒ一般ニ不治ノ身體ヲ防止スルニ故殺ニ依ルヲ得可シ○且ツ強迫ヲ受ケタル本人ハ其兇行人左迄ノ害ヲ加フルニ意ナシト雖モ其生命ニ付テ恐怖ヲ懷クテ屢次之レアル可シ

本條ノ第二項ハ爰ニ第三百四十三條第二項ノ規則ヲ再說セリ即チ爭鬪ニ於テ其生命ノ危險ナル者自ラ其暴行ヲ招キタルモノナルキハ法律ノ寬待ヲ受クルヲ極メテ僅少ニシテ其犯シタル故殺罪ハ不論罪ニアラズ只宥恕ス可キニ止マルモノトス

第三百五十一條

(第六百九十九號) 縱令ヒ本條ニ豫定セシ犯罪ハ人ノ身體ニ對スルヨリハ寧ロ財産ニ對スル如クニシテ第三百四十八條ニ從ヒ宥恕ヲモ與フ可キ場合ニ在ラサル如クナリト雖モ本法ハ爰ニ故殺ニ付テハ其罪ヲ論セサル可キ所爲アルヲ見ルナリ何トナレハ爰ニテ財産ニ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不論罪ノ原由

對シテ犯シタル罪ノ重大ナル情狀ハ被害者ヲシテ其生命ノ危險即チ非常ノ危險アラント
チ恐レシムルヲ以テナリ

故ニ第一項ニ於テハ多人數ニ夥黨シテ毀壞若シクハ劫掠ヲ爲シタルノ場合ヲ豫定セリ○
其腕力ヲ以テスルニシテ大ナル惡意ヲ表スルモノナルカ故ニ盜犯ヲ加重スルノ情狀ナリ
トス○又毀壞ハ犯人ノ財ヲ得ントスルノ意ニ出テタルニ在ラスシテ只之レヲ破壞セント
スルニ在リ畢竟怨恨若シクハ報讎ノ意ニ出テタルニ外ナラサルナリ○已上二個何レノ場
合ニ於テモ其所爲ノ兇惡ナルト犯人ノ夥多ナルハ被害者ヲシテ其抗スル者ニ對シテハ勿
論或ハ毫モ之レニ抗抵セサル者ニ對シ猶ホ兇行ヲ極ムルヤノ恐怖ヲ懷カシム可キナリ
又放水決水ニ至リテハ其犯人ノ身體ニ兇行ヲ加フルノ意思ノ有無ニ關セス其人數ノ多少
ニ拘ラス其結果ト其普及ス可キ災害ニ至リテハ實ニ恐ル可キモノナリ

〔附言〕吾人ハ原正條ニ於テ「堤防ノ破壞ニ因ル洪水」云々ヲ加ヘタリ何トナレハ此重罪
ハ尙ホ放火罪ト同一ニ罰ス可キモノナレハナリ(第四百五十六條參看)

蓋シ爰ニテハ是等ノ災害ニ依リテ人ノ住居シタル邸宅ヲ侵シタルヤ又住居セサリシ邸宅
ヲ侵シタルヤチ區別スルコトナシ何トナレハ爰ニテハ放火若シクハ堤防破壞ノ犯人ヲ罰ス
ルニ關係ナキモノニシテ只其犯人ヲ死ニ致シ又ハ之レヲ創傷シタル本犯ノ罪ヲ論ゼキル

ニ在ルモノナレハナリ而シテ此本犯ハ危險ニ際シ此ノ如キ區別ヲ爲スコト能ハサル可キナリ
本條第二項ノ場合ニ於テ人身ノ危險アルハ明白ナリトス而シテ強盜ノ贖物ヲ直チニ處置
スルコトニ付キ本法ノ尙ホ故殺ノ罪ヲ論ゼサル強盜罪ノ被害者直チニ其本犯ヲ追跡シタル
事ニハ盜罪ニ對シテ正當ニ防衛シタルモノト見做スカ故ナリ

本條ノ第二項ニ於テハ其第三百四十七條トノ類似ヲ説明セリ何トナレハ夜間ニ於テハ他
人ノ救援ヲ得ルコト極メテ難キカ故ニ踰越損傷ヲ以テ人ノ住居シタル邸宅ニ亂入スル盜人
ノ兇行ハ其住居ヲ侵サレタル人ノ生命ニ對シテ頗ル重格ナル驚愕ヲ引致ス可ケレハナリ

第三百五十二條

〔第七百號〕 本法ハ爰ニ他ノ刑法ニ於テハ裁判所ノ明斷ニ委ネタルコトニ付五法上ノ論決ヲ
付シタリ

彼正當防衛タルヤ其所爲及ヒ時間ニ於テ目的ヲ超ユルキハ正當防衛ノ性質ヲ失フモノト
ス

兇行ヲ受ケタル本人其兇行人ヲ倒シ之レカ兇器ヲ奪ヒ之レニ創傷ヲ負ハシメ更ラニ其兇
行ヲ繼續スルヲ得サラシメタルキハ爰ニ其抵抗ヲ止メ以テ之レヲ司法官ニ交付セサル可
ラス又兇行人先ツ逃走シテ危險已ニ止息シタルニ拘ラス尙ホ之レヲ追跡シ之レヲ負傷シ

故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕及ヒ不罰罪ノ原由

若シクハ死ニ致シタルハ最早其罪ヲ論セサルノ限リニ非ラサルヤ明カナリトス是レ他
ナシ其所爲タル報讎ニシテ正當防衛ニ非ラサルヲ以テナリ○唯尙ホ此場合ト雖モ法律上
ノ宥恕ヲ許與ス可キハ勿論ナリ何トナレハ爰ニテハ尙ホ忿怒若シクハ恐怖ニ依リテ其智
覺精神ヲ昏迷シタリト云フヲ得可ケレハナリ

第三節第二 決闘

決闘ヲ目
的トセル

第一條 決闘ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ若シクハ決闘ヲ爲サシムルヲ豫見シテ誹謗、
誹謗、凌辱ヲ爲シタル者ハ次條ニ記載シタル挑撥ノ刑ニ處ス

又決闘ヲ提出シ若シクハ之レヲ承認スルヲ拒ミタルカ爲メ公然人ヲ讒謗、擯斥シタル者

ハ同刑ニ一等ヲ加フ

起訴

右何レノ場合ニ於テモ讒謗、凌辱ヲ受ケタル本人ノ告訴アラサレハ起訴ヲ爲サス
然レモ讒謗ヲ受ケタル本人前キニ挑撥ヲ爲シ自ラ讒謗ヲ招キタルモノナルハ縦令ヒ後ニ
之レヲ廢止シタリト雖モ最早其告訴ヲ受理ス可ラサルモノトス

決闘ノ挑
撥

第二條 死ニ致ス可キ器械ヲ以テ決闘ヲ挑撥シタル者ハ其自ラ挑ミタルト代人ヲ以テ挑ミ
タルトナ問ハス十五日已上三月已下ノ重禁錮及ヒ五圓已上三拾圓已下ノ罰金ニ處ス
若シ前條ニ豫定シタル讒謗ヲ爲セシモノナルハ第三百十二條第二ニ定メタル限度ニ從ヒ本

刑ノ併合

刑ニ讒謗ノ刑ヲ併セ科ス

起訴

檢察官挑撥罪ニ付キ起訴シタルハ尙ホ同時ニ讒謗罪ニ付テモ起訴ス可キモノトス

免刑

挑撥者捜査ニ先タテ決闘ヲ爲サ、ル可キ旨ヲ無報ニテ承諾シタルハ其挑撥ノ刑ヲ免ス

強取ノ場
合

然レモ挑撥者ノ決闘ヲ放棄シタルハ報酬トシテ金額、有價物若シクハ其他金錢ヲ以テ算定
ス可キ利益交付ノ約束又ハ其釋放ヲ得有セントノ目的ニ出テシモノナルハ其挑撥ノ本刑
ニ處ス但シ其此利益ヲ得有センカ爲メ決闘ヲ挑撥シタルハ強取ノ最重刑ニ處スルヲ妨ケス

負傷ナキ
決闘

第三條 劍、刀若シクハ拳銃ヲ以テ決闘シ互ヒニ負傷セサルハ雙方共ニ一月已上六月已
下ノ重禁錮及ヒ拾圓已上六拾圓已下ノ罰金ニ處ス

刑ノ混同

本刑ハ前諸條ニ豫定シタル挑撥及ヒ讒謗ノ刑ト混同セラレ、モノトス

免刑

然レモ故意ヲ以テ器械ノ使用ヲ止メ又ハ其之レヲ使用シタルハ只對手人ノ毆打ヲ防支スル
ニ過キサリシモノナルハ決闘ノ本刑ヲ免ス但シ其本人讒謗若シクハ挑撥ヲ爲シタルハ其
本刑ニ處スルハ格別ナリトス

輕傷

第四條 決闘ニ依リテ輕傷ヲ生シ僅カニ二十日已内ノ廢業ニ致シタルハ其創傷ヲ加ヘタ
ル一方又ハ雙方ノ者ハ二月已上一年已下ノ重禁錮及ヒ貳拾圓已上百圓已下ノ罰金ニ處ス

廢業

又創傷ニ依リテ二十日已上ノ廢業ニ致シタルハ三月已上八月已下ノ重禁錮貳拾五圓已

上百五拾圓已下ノ罰金ニ處ス

不治ノ癩 又創傷ニ依リテ不治ノ症ト認定ス可キ癩疾ニ致シタルキハ六月已上三年已下ノ重禁錮及ヒ疾 五拾圓已上五百圓已下ノ罰金ニ處ス

過誤殺

第五條 決闘前ヨリ死ニ致スノ意思ナクシテ創傷ニ依リテ死ニ致シタル者ハ一年已上四年已下ノ重禁錮及ヒ五拾圓已上三百圓已下ノ罰金ニ處ス

故意ノ殺 決闘前ヨリ死ニ致スノ意思アリタルノ證判明ナル者ハ二年已上五年已下ノ重禁錮及ヒ貳百圓已上五百圓已下ノ罰金ニ處ス

再犯

第六條 適法ノ決闘ニ於テハ其最初ノ犯罪ニテ受ケタル刑ノ如何ヲ問ハス同年内更ラニ同罪ヲ犯シタル者ニアラサレハ再犯トシテ其罪ヲ加重スルヲ得ス

雙方ニテ不法ナル決闘

第七條 左ニ列叙スル意外ノ原由ニ依リテ其決闘ヲ停止シタル決闘者雙方ニ對シテハ第三條ニ記載セシ刑ニ一等ヲ加フ

第一 證人ナクシテ決闘ヲ爲シタル時

第二 使用シタル器械第三條ニ指定シタルモノニアラサル時

第三 決闘者ノ一人死ニ至ル迄戰フ可キモノナル時

第四 拳銃ヲ以テ決闘ヲ爲シタルニ決闘者雙方間ノ距離其拳銃彈度ノ半ハニ違セサル時

左ノ場合ニ於テハ決闘者ノ一人ニ限り其本刑ニ一等ヲ加フ

第一 決闘者中一人證人ヲシテ臨場セシメタル者

第二 抽籤ヲ以テ定メタルニ拘ハラス對手人ニ比スレハ一層利アル器械ヲ保用シタル者

第三 同一ノ對手人ニ對シテ同日同原由ノ爲メ第二ノ決闘ヲ爲シタル者

第四 其子、兄弟若シクハ甥姪ニアラサル挑撥者若シクハ被挑撥者ニ代リテ決闘ヲ爲シタル者

タル者

不法ノ決 第八條 前條ニ豫定シタル不法ノ決闘ノ場合ニ於テ其不法ニ依リ對手人ヲ創傷、癩疾若シシ
闘ヨリ生 スル有害 クハ死ニ致シタル時ハ其之レヲ致セシ者ハ故意ノ毆打創傷若シクハ故殺ニ付テノ普通法ノ
ノ結果 刑ニ處ス

他ノ不法 器械ヲ失ヒ創傷ヲ受ケ若シクハ決闘ヲ繼續シ得サル状態ニ在ルヲ判然タル對手人ヲ毆打シ
ノ場合 又ハ證人止戰ヲ命シタル後對手人ヲ毆打シタル者ニ付テモ亦同シ

局外人ノ 第九條 罪タル可キ手段ヲ以テ決闘者中一人ヲ教唆シ適法若シクハ不法ノ決闘ヲ爲サシメ
挑撥 又ハ單ニ已上第一條第二條ニ豫定シタル譏謗若シクハ挑撥ニ決意セシメタル者ハ其加重ノ

原由ヲ知り若シクハ豫知シ得タルキニハ最重刑ニ處ス可キ對手人ト同刑ニ處ス

證人 第十條 證人第七條ニ豫定セシ不法ノ決闘タルヲ知りテ之レニ臨場シ又ハ決闘者中一人決

闘ヲ始シメ若シクハ之レヲ繼續シ得サルノ状態ニ在ルモ尙ホ其決闘ヲ防止セサリシ者ハ最重刑ニ處ス可キ決闘者ト同刑ニ處ス

醫師

第十一條 内外科ノ醫師只其資格ヲ以テ決闘場ニ臨ミタル者ハ常ニ其刑ヲ免除ス

軍人

第十二條 本條例ハ軍人及ヒ常人間ノ譏謗、挑撥若シクハ決闘ニモ適用ス可キモノトス

要旨

第七百一號 原案中ニ決闘ニ關スル條例ヲ記載セサリシハ果シテ何ノ故ナルヤノ事

第七百二號 本法ニ決闘ヲ加ヘタルノ理由

第七百三號 決闘ノ特別法ニ付テノ駁論并ヒニ其答辨

第七百四號乃至第七百七號 決闘ニ關スル特別法及ヒ決闘ノ刑ヲ緩ニスルノ理由

第七百八號乃至第七百十二號 決闘ニ關シタル佛蘭西刑法及ヒ裁判例ノ不精確ナル事

第七百十三號 千八百三十七年已來決闘ニ付テノ大審院ノ新裁判例、其奇怪ナル結果

第七百十四號 此大審院ノ裁判例ヲ改正スルノ新計畫、其失敗

第七百十五號 日本ニ於テ決闘ニ關スル挑撥及負傷ナキ決闘ヲ罰スルノ必要

第七百十六號 本節ニ規定シタル正條註解ヘノ轉過、本條例ノ約略

第一條

第七百十七號 譏謗、挑撥ノ實効アル事若シクハ挑撥ノ生ス可キ原由

第七百十八號 譏謗ヲ受ケタル本人ノ告訴ノ必要、例外ノ場合

第二條

第七百十九號 特別輕罪ト爲ル可キ決闘ニ關スル豫備挑撥ノ性質、對手人ノ數、決闘手段

ノ性質、輕罪ヲ構成ス可キ所爲ノ性質

第七百二十號 決闘ニ關スル禁錮ニハ常ニ服役アラサル可ラサルノ事

第七百二十一號 犯罪ノ併合、各犯罪ニ付キ刑ノ適度ナル併合

第七百二十二號 檢察官ノ譏謗ニ關スル例外ノ起訴

第七百二十三號 挑撥ヲ無報ニテ止息スル事

第三條

第七百二十四號 雙方共ニ負傷ナキ決闘

第七百二十五號 決闘者中一人其器械ヲ使用セサリシノ場合

第四條

第七百二十六號 創傷若シクハ毀傷ヲ致シタル決闘

決闘

第五條

第七百二十七號 死ニ致シタル決闘、其區別

第六條

第七百二十八號 決闘ニ於ケルノ再犯

第七條

第七百二十九號 創傷若シクハ毀傷ナキ不法ノ決闘

第八條

第七百三十號 毀傷、廢疾若シクハ死ニ致シタル不法ノ決闘、前ノ場合ニ比スレハ一層重大ナル不法ノ場合、何ノ故ニ此場合ハ第七條ニ入ラサルヤノ事

第九條

第七百三十一號 第三ノ人前記ノ決闘ヲ挑撥シタルノ場合

第十條

第七百三十二號 決闘ノ證人、證人ヲ罰ス可キ例外ノ場合

第十一條

第七百三十三號 内科醫及ヒ外科醫ノ決闘ニ於ケルノ臨場ニ其免刑

第十二條

第七百三十四號 軍人及ヒ常人間ノ決闘

〔第七百一號〕 本法最初ノ草案ヲ編纂シタル時決闘ノ爲メ一節ヲ設ケタリシカ此節ニ付テ討議ヲ遂ケ假リニ採用セラレタリシ然ルニ其法案政府ニ差シ出シタル時審査委員ニ於テ之レヲ削除シタリ其此ノ如ク之レヲ削除シタル所以ハ日本ニテハ封建時代ニ於テモ已ニ稀レナル此特種ノ犯罪ヲ豫定シ且ツ之レヲ罰スルノ必要ナキト思惟シタレハナリ即チ譏謗ヲ以テ毀損セラレタル名譽ノ回復若シクハ譏謗ノ責罰ノ爲メ決闘ニ依リ人ヲ殺傷スルモ普通法ノ制裁ヲ免レタル武人社會ノ存立スルノ時ニ於テスラ決闘ハ極メテ稀レナル所ナリシニ况テヤ此特別種族ノ最早存セサル今日ニ在リテ決闘ノ風國內ニ布及スルノ謂レナシト思考シタレハナリ

實際今日ニ至ル迄此削除ヲ悔ヒタルノ場合アリトモ見エス又日本ニ於テ近來決闘アリタルハ吾人ノ曾テ聞カサル所ニシテ吾人ハ數度時ノ序ヲ以テ歐米諸國ニ於テ頗フル決闘多ク就中其殆ト常ニ其決闘ヲ罰セサルコト付テハ日本人ノ大ヒニ驚愕スル所ナルヲ注意シタリシ

〔第七百二號〕 然ラハ則チ其決闘ノ稀ナルコトヲ以テ責罰ス可キ犯罪ノ總体ヲ顯スノ目的

チ有スル刑法中ニ之レヲ豫定セサルノ理由ト爲スチ得可キヤ○吾人ハ之レヲ豫定シ且ツ罰セサル可ラスト斷言セント欲スルナリ而シテ就中其之レヲ豫定セサル可ラサル所以ノモノハ決闘ヲ罰スルニ毆打創傷ニ關スル普通法ノ刑ヲ以テスルト尙ホ全ク之レヲ不問ニ付シテ罰セサルト共ニ條理ニ違フタル所ナルニ依ルナリ

且ツ日本ニ於テ近來絶テ決闘ノ例ナシトテ後來ニ於テモ必ラス之レナシト斷定スルヲ得ス○歐洲諸國ニ於テ常ニ決闘ノ原由タル所ノ新聞雜誌ノ議論ハ又日本ニ於テモ決闘ノ原由トナルニ至ルコトアル可シ殊ニ國會ノ設立近キニ在リ一旦國會制度ヲ設クルニ至レハ政治上議論數派ニ分レ各活潑熱心ニ其主義ヲ論スルニ至リ從ツテ公衆ニ對スル演說ニ於テ殊ニ新聞紙上ニ於テ或ハ時トシテ國會議場ニ於テ互ヒニ反對說ヲ主張シ其熱心ノ局遂ニ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ議論ヲ發スルニ至リ而シテ其凌辱ヲ受ケタル本人ハ歐洲諸國ノ餘影ニ倣ヒ凌辱人ヲ裁判所ニ訴ヘ之レヲシテ輕微ナル刑ヲ受ケシメ又之レニ對シテ只名義ノミニシテ實効少ナク且ツ爲メニ一層ノ擯斥ヲ來ス可キ賠償金ヲ得有スルヨリハ寧ロ武器ヲ以テスルノ名譽回復(是レ世人ノ唱フル所ノ名稱ナリ)ニ出ツルヲ優レリトスルカ如キノ恐レ又之レナシトセサルナリ

吾人ハ之レヲ希望セサルヨリハ一層吾人ノ紀綱ノ徒勞ニ屬シ而シテ本法中決闘ニ關スル

條例ノ單ニ理論トシテ存セソコトハ實ニ希望シテ止マサル所ナリ

(第七百三號) 此ノ如ク論スレハ則チ人或ハ之レヲ駁シテ云フ者アラン決闘ノ如キ未ダ其例ナキ所ノ輕罪ニ關シテ法條ヲ設クルハ立法ノ慣例ニ違フタルモノナリト然レモ是レ固ヨリ其當ヲ得サルノ說ニシテ立法者ハ彼急流ニ沿フテ防水堤ヲ築キ懸崖ニ臨ンテ障柵ヲ設ケ以テ危險ヲ豫防シ意外ノ災害ヲ未萌ニ防止スル邑政ニ倣ヒ總テ罪タル可キ所爲ニ付テハ豫シメ之レカ法律ヲ設定シ置カサル可ラサルナリ○即チ本節ヲ記載セシモ亦此旨趣ニ外ナラスシテ他日慣習ノ變更アリ決闘ヲ爲スニ至ルモ之レヲ罰スル法律ナク之レヲ不問ニ付シ去リ又ハ普通法ヲ以テ罰スルカ如キコトナカラシテ欲スルニ依ルナリ○然レモ此ノ危險タルヤ全ク妄想ニ出テ信ヲ置クニ足ラサルモノニハアラサル可シ何トナレハ日本ニ於テハ近來擊劍ノ演習頻リニ流行スル恰モ封建代時ノ如クニシテ其流行タル只ニ軍人社會ニ止マラス尙ホ常人社會ニモ布及シ且ツ軍人社會ニ於テハ洋劍ノ演習日チ追フテ盛ナルニ至レハ其常人社會ニ布及スルハ遠キニ非ラサル可ク而シテ此擊劍ノ術タル正シク是レ決闘ノ稽古タル可ケレハナリ

夫レ此ノ如ク慣習ノ變更已ニ其端緒ヲ開キタレハ尙ホ一層ノ歩ヲ進メ決闘ヲ重スルニ至ルヤ蓋シ近キニ在ル可キナリ○然レモ此ノ如ク論シタリトテ吾人ハ戰爭ニ等シキ且ツ戰

争ノ如ク其勇氣ヲ示シ死ヲ輕スルニノミチ以テ輿論ノ贊美スル決闘ヲ以テ讒謗ニ報ユル日本人ノ豪邁大膽ノ氣風ヲ誹議スルモノニハ非ラサルナリ

〔第七百四號〕 蓋シ吾人ノ決闘ノ原由トシテ前ニ指示シタル如何ニ溫柔ノ人ト雖モ忿怒ニ堪ニス讒謗ニ報スルニ決闘ヲ以テスルカ如キコトアリト云ヒシハ只コト本法中ニ決闘ノ一節ヲ挿入スルノ理由ニ供スルノミナラス尙ホ其故殺罪即故意ノ殺害ヲ構成スルニ拘ハラズ此輕罪ニ付テ刑ノ緩ナル理由ヲ説明スルノ端緒ト爲ル可キナリ○且ツ政治上ノ議論ノ合ハサルヨリ生スル不和ヲ外ニシ尙ホ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ重大ナル凌辱ヲ加ヘ其凌辱ヲ受ケタル者裁判所ヘ訴ヘテ名譽ノ回復ヲ謀ルヨリハ寧ロ決闘手段ニ出テ自ラ死スルカ凌辱人ヲ殺スカ二途中其一ニ依リ以テ毀損セラレタル名譽ヲ回復セント謀ルノ場合アリテ存ス可シ

〔第七百五號〕 然レモ立法者ハ彼決闘ノ本犯ヲ罰スル刑法ヲ以テ緩ニ過クルモノトシ喋々誹議スル論者ノ説ニ從フヲ得サルハ固ヨリナリ何トナレハ彼決闘ヲ罰セサルハ畢竟決闘ハ贊賞ス可キモノナラサルモ尙ホ恕ス可キ所アルヲ以テナリ左リトテ又立法者慣習輿論ニ歩ヲ譲リ決闘ヲ以テ全ク不問ニ付ス可ラス蓋シ右ニ關スル慣習輿論ノ勢力タル頗フル盛ナルモノニシテ暗ニ之レヲ獎勵スルカ如ク如何ニ溫柔ナル人ト雖モ忿怒ニ堪ニス決闘

ヲ促スカ如キハ實ニ免ル可ラサルノ勢ナリト主張スル者多シ是レ立法者ノ常ニ記慮セサル可ラサル所ナリ即チ佛蘭西其他ノ邦國ニ於テ決闘アリタルモ其罪人タルハ只ニ決闘者ノミナラス尙ホ此ノ如キノ場合ニ裁判所ニ訴ヘテ曲直ヲ決スルハ名譽ノ闕損柔弱ノ標的又時トシテハ卑怖ノ所爲ナクシテ之レヲ擯斥シ只血以テ能ク其毀損セラレタル名譽ヲ回復スルヲ得可シト爲ス所ノ者モ亦等シク罪アル可キナリ尙ホ決闘ニ關シテ輿論慣習ノ勢力強盛ナルハ西洋諸國ニ於テ之レカ爲メ嚴法ヲ設定セントスル計畫常ニ徒勞ニ屬スルヲ以テ證スルニ足ル可シ

〔第七百六號〕 決闘ニ關スル法律ノ沿革ヲ叙述スルニ先ダチ之レニ關シテ特別法ヲ設定スルノ要アルヲ證明スル爲メ爰ニ吾人ハ決闘ヨリ生スル故意ノ毆打創傷ト普通ノ輕罪重罪ヨリ生スル毆打創傷トノ一大差別ヲ説明ス可シ
蓋シ最モ屢々其第一ノ差別トシテ決闘ニテハ決闘者雙方ノ間ニ其意ノ一致アリ一方ノ者之レヲ挑撥シ一方ノ者之レヲ承認シ運命ヲ天ニ任セテ一大危險ヲ冒ス可キモノナリト雖モ普通ノ毆打創傷若シクハ故殺ニ於テハ只一方ノ者ノ意思アルニ過キスシテ被害者絶テ知ル所ナク從テ屢々防衛ノ豫備ナク不意ノ兇行ニ遭逢ス可キモノト説ク者アリ
蓋シ吾人ハ此差別ノ實ナラサルヲ主張セスト雖モ之レヲ以テ主要ノ差別ト見做ス可ク能ハ

ス只之レニ與フルコ第二ノ階級ヲ以テスルニ過キサル可キナリ誠ニ思ヘ若シ事實ノ主要ト感情ノ條理トチ省ミス單ニ法律ト嚴格ナル理論トニ基キ斷決スルキハ此差別タル實ニ何等ノ價ナキニ至ラン何トナレハ凡ソ人タル者其生命ヲ賭シテ互ヒニ約束スルヲ得サルハ勿論此ノ如キノ合意ハ公ケノ秩序ニ悖戾スル所ナリ苟モ人タル者他人ノ生命ヲ救援スル爲メ若シクハ其本國ヲ防禦スルノ爲メニ非ラサル限りハ故意ニ其生命ヲ自由ニスルノ權利ヲ有セサルモノナルヲ以テナリ

〔第七七七號〕 前ノ差別ニ比スレハ一層優レルモノニシテ實ニ主要ノ差別ト思惟スル所ノモノハ決闘ニ於テハ攻撃防禦ノ手段ニ完全ナル平均アルノコトニ在リ是レ即チ決闘ヲ要ス可キ主タル適法ニシテ即チ不法ノ決闘ニハ普通ニ於ケル一切ノ例外ヲ拒絕シタル所以ナリ而シテ彼雙方ノ者ノ意思ノ一致云々ニ至リテハ爰ニ何等ノ價ヲモ有セサル可シ蓋シ意思ノ一致ヲ以テ生命ヲ賭スルモノト論スルハ猶ホ決闘者中一人其銃器ヲ使用セス敵ノ彈丸ヲ受クルヲ諾認シ自ラ敵ヲ襲撃セスシテ敵ノ襲撃ヲ受クルヲ豫備シタルカ如キモノニシテ到底決闘ヲ爲ス能ハサルノ場合ヲモ包含セサル可ラス是レ實ニ謂レナキノ説ト云フ可シ況ンヤ決闘「二人ノ争闘」ナル語モ亦是意義精確ナラサルニ至ルニ於テチヤ是ヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テ其對手人ヲ創傷シ若シクハ死ニ致シタル者ハ普通適法ノ罪人即チ罪

ヲ可キ故殺ノ罪人タルニ過キサル可キナリ而シテ尙ホ合意云々ノコトヲ以テ決闘ヲ普通ノ毆打創傷若シクハ故殺ト區別スルノ理由ト爲スニ足ラサル可シ何トナレハ決闘ニ於テハ襲撃防禦ノ手段平均ナルヲ要シ而シテ此平均ノコトタル決闘ニ付テノ主タル適法ナルヲ以テナリ即チ此平均云々ノ要件ハ其決闘ノ死ニ致ス可キモノタルニ拘ラス之レチ人ノ生命ニ對スル普通適法ノ犯罪ト區別セサル可ラサル二個ノ元素ト爲ル可シ即チ襲防手段ノ平均ナルコトハ決闘ノ罪ニ關シテ道德上ノ害減シ又從ツテ不期ノ災害ヲ減少シ社會ノ害ヲ減少スル所アレハナリ

今ヤ爰ニハ決闘ニ關スル他ノ一理由ヲ舉示シ此ヲ以テ本編ヲ終了セン即チ其理由タル決闘ヲ普通適法外ニ置キ殆ント決闘ノ刑ヲ免スルニ在リ人或ハ論スル者アリ決闘ニ於テ人ヲ毆打シ之レニ創傷ヲ加ヘ若シクハ之レヲ死ニ致スハ正當防衛ノ必要アルニ因ルナリト然レモ是レ實ニ謂レナキノ説ニシテ人自ラ故意ヲ以テ招キタル危險ニ付テ正當防衛ヲ主張スルヲ得ス其決闘ニ先チテ危險ヲ避ケ得可キヲ以テナリ

〔第七百八號〕 歐洲諸國ニ於テ決闘ヲ嚴刑ニ處セント欲シ其法案ヲ提出シタルモ好結果ヲ得サリシノコトハ吾人ノ已ニ業ニ説キタル所ナリ〇故ニ爰ニハ只佛蘭西ニ於テ法律ヲ以

テ慣習及ヒ公ケノ感情ヲ矯正スル能ハサルコトヲ示スニ止マル可キナリ○蓋シ此ノ如ク
 説キタリトテ佛蘭西ニ於テ決闘ニ關シタル法律設定ノ計畫屢々徒勞ニ屬シタルカ故ニ日
 本ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之レヲ罰ス可キコトヲ勸告スルニハ非ラサルナリ

佛蘭西ニテ本世紀ノ初メニ於テハ決闘ヲ罰スルコト頗フル嚴ニ殊ニ決闘ニ依リテ貴族ヲ害
 セシキハ其之レニ對スル法律極メテ嚴酷ニシテ對手人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處シ其
 財産ヲ官沒シ且ツ其受刑人ノ公葬ヲ禁シタリシ然レハ其親戚知己之レカ保護ヲ忽ニセス
 之レヲシテ逃走セシメ以テ闕席裁判ヲ受クルニ至ラシメシ又裁判所ト雖モ逃走ニ依リテ
 罪ヲ免レ得サル此罪人ヲ極刑ニ處セサルコトニ付キ辨明ノ方法ヲ得ルコト容易ナリシ而シ
 テ又縱令ヒ死刑ノ宣告アリタルモ雖モ其親戚知友ヨリ國王ニ哀訴スルコトヲ得國王モ
 亦其哀訴ヲ容レテ特典ヲ與ヘサルカ如キハ極メテ稀レナル所ナリシ

〔第七百九號〕佛蘭西ノ大革命ノ時貴族ヲ廢シタルニ依リ決闘ニ對スルノ刑ヲ定メサル可
 ラスト思惟シタリ何トナレハ貴族社會ニ限リテ此決闘ノ習アリテ存シ恰モ其特權ノ如ク
 看做シタルヲ以テナリ

然レハ革命時代ニモ尙ホ決闘ノ餘風アリテ存セシカ故ニ國會ニ於テ其議員中ノ一人ヲ撰
 定シ此事項ニ關スル法案ヲ起草セシメタリト雖モ其法案ハ議院ニ出テキレナリシ面シテ

第一ノ刑法即チ千八百九十一年ノ刑法ヲ國會ノ議ニ付シタルモ其刑法中決闘ニ關スル
 何等ノ法條アルコトナク共和四年(千八百九十五年)ノ輕罪及ヒ刑ニ關スル法律中ニモ亦
 其事ヲ見サリシ

〔第七百十號〕「コンシユラ」ノ時決闘ハ果シテ罰ス可キモノナルヤ否ヤノ問題アリテ生シタ
 リシニ政府ハ別ニ正條ノアルナケレハ單ニ決闘ノ事實ノミヲ將テ罪ト爲スコトヲ得ス
 「況ンヤ其實効ヲ生セサル單ナル挑撥ハ固ヨリ罪タラス」ト雖モ若シ決闘ヨリ創傷若シク
 ハ故殺ヲ引致シタルニ於テハ多少故意ニ出テタル其結果ヲ以テ罰普通刑法ニ於テハ毆
 打創傷若シクハ故殺ノ刑ニ處ス可キモノナルコトヲ答ヘタリ

第一帝國ノ(千八百十年)刑法中ニモ亦決闘ニ關スル何等ノ條例ナク而シテ其理由ノ説明
 書中ニハ其事ニ付キ「コンシユラ」政府ト殆ト同一ノ説明ヲ爲セリ

〔第七百十一號〕王政維新ノ時帝政黨ト王權黨間互ヒニ軋轢ヲ生シ紛爭止ム時ナク從ツテ
 決闘ヲ増加スルニ至レリ○此時大審院ニ於テ數度決闘罪ノ起訴有効ナルヤ將タ無効ナル
 ヤノ裁判ヲ爲サ、ル可ラサル場合ニ至リ常ニ其起訴ヲ取消シ其決闘者中一人死ニ至リタ
 ルモ雖モ起訴ノ無効タルコトヲ宣告セリ即チ其理由トスル所ハ總テ決闘ハ少クモ慣習上
 ノ例規ニ從フテ爲シタル適法ノ決闘ハ其道德ノ罪社會ノ害タルニ點ヨリ見レハ罰ス可キ

モノナリト雖此犯罪タル普通ノ毆打創傷故殺ノ場合ト大ヒニ異ナル所アルモノニシテ其刑ヲ以テ之レヲ罰スルヲ得ヌ故ニ決闘ニ適用ス可キ刑ヲ確定スルハ立法者其人ノ任ニ在リト云フニ外ナラサリシ

〔第七百十二號〕 蓋シ或ハ千八百三十二年刑法改正ノ時立法上此問題ヲ決シタルナラント思惟スル者アル可シト雖此絶テ其事ナク千八百三十七年ニ至ル迄大審院ハ法律ニ正條ナキ決闘ニ關シテハ常ニ其寬大ノ解釋ヲ保持シタリ然レ此事ニ付テハ決闘ヨリ生シタル毆打創傷及ヒ故殺ノ正條ナキモ普通ノ毆打創傷故殺ノ刑ヲ適用ス可シトスル若干ノ控訴院ノ論辯ニ抗ス可キハ勢免レサル所ナリシ

〔第七百十三號〕 大審院ノ與エタル所ニシテ之レヲ以テ該院ノ斷ニス法理ノ搜索ヲ勉メタルヲ證スルコ足ル可キ其裁判例ニ依リ千八百三十七年ニ於テ始シメテ決闘ニ關スル問題ヲ確定シ大審院ニ於テモ遂ニ其前ニ抗辯シタル控訴院ノ意見ヲ採用スルニ至リ而シテ此時ヨリ重罪輕罪ニ關スル普通法ヲ適用シ毆打創傷ノ爲メ宣告シタル裁判ヲ有効ト認ムルニ至リタリ是レ即チ決闘ニ關スル現時ノ裁判例ニシテ集合シタル各局ノ共ニ採用シ法律トシテ各控訴院ニ命ジタル所ナリ

然レ此時已來其刑ノ適用上奇恠ノ結果ヲ生シ遂ニ決闘ニ關スル特別法ノ制定ヲ促スニ

至レリ○即チ若シ決闘ニ依リテ故殺ヲモ創傷ヲモ生セサルハ其事件ハ固ヨリ輕罪裁判所ノ管轄ニシテ始審ニ於ケルモ控訴ニ於ケルモ裁判官ハ決闘ニ關スル世人ノ感情ヲ斟酌セサルハ勿論又輿論ノ勢力如何ヲ省ミス大審院ニテ定メタル最モ適法ノ裁判例ヲ守リ其意ニ從フテ判決スルヲ得只該院新裁判例ニ違フタルハ破毀セラレ、コトアルノミニシテ普通法ニ從ヒ判決シ只其決闘適法ナルハ情狀ヲ酌量ノ其刑ヲ輕減スルコトアルノミナリシ○之レニ反シテ若シ決闘ニ依リテ死ニ致シ若シハ重大ナル創傷ヲ加エタルハ其事件ハ陪審ノ裁判ニ付セラル可キモノナリ然ルニ彼陪審ナル者ハ人民中ヨリ撰舉シタル一時ノ裁判官ニシテ固ヨリ其事件ヲ豫定シタルニアラス又其決斷ニ付テ何等ノ責任ナケレハ其推問ヲ受ケタル事實ヲ査定セス自然正義ト社會ノ利益トノ感情ヲ以テ慣習ノ赴ク所ニ從ヒ輕々ノ裁判ヲ下ス可キコトナキ能ハサル所ニシテ是レ即チ常ニ決闘ニ於テ其對手人ヲ死ニ致シタル者ヲ普通故殺ノ刑ニ處スルヲ欲セス而シテ決闘ヨリ生シタル故殺若クハ毆打創傷ニ關シテ設ケタル有罪無罪ノ問ニ答ヘ「被告人無罪ナリ」ト云ヒ或ハ殊ニ注意ヲ加ヘテ其事實上ニ付テ「答ヘ大審院ノ審判ヲ避クル所以ナリ」○且ツ已上二個ノ決定タル共ニ民法第千三百八十二條ニ從ヒ過失ニ付テノ民事ノ賠償ヲ得セシムルモノニシテ此賠償タル輕罪ノ性質ヲ存スル過失ニ限リテ認許ス可キモノトス○夫レ如是其結果タル